

# 目 次

I.	教育課程について	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成績評価基準	6
IV.	履修科目単位内訳表	7
V.	コースの概要	8
VI.	服飾学部服飾学科カリキュラム表	15
VII.	履修の方法	21
VIII.	教職課程について	25
IX.	学芸員課程について	31
X.	授業計画	39

## I. 教育課程について

(2024 年度生用)

本学の教育課程は、学則第 2 条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 15 頁の服飾学部服飾学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

### カリキュラムポリシー（教育方針）

本学の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次では共通の初年次教育課程と 2、3、4 年次で 6 つのコースに分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって芸術性・技術力、ビジネス基礎力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力をもった専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は 8 単位以上、それ以外の科目で 26 単位以上の履修を要求しています。また 1 年次生には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で 4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については 3、4 年次での受講も可能にし、服飾業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。共通必修科目の中核科目としてファッション・フィールドリサーチ、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通・商業入門、ファッションビジネス概論があり、これらを全員に履修を義務付け、服飾造形に関する基礎的な技術とファッションビジネスに関する基礎的な知識を全学生が共通に修得することとしています。これが本学の初年次教育課程の特徴です。

専門教育課程では、モードテクノロジー系の 4 つのコースとファッションビジネス系の 2 つのコースに分かれて、各コースごとに独自の必修科目（35 単位～38 単位）を設定しています。ファッションビジネス系の 2 年次では、2 つのコースの専門基礎必修科目は共通していますが、各コースの教育目的と目標が異なり、基礎以外はそれぞれの専門に特化した授業が展開されます。

各コースの教育目的と目標を達成するために必要な必修科目をコースごとに 17 科目ないし 20 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程でコースの必修科目を履修することによって、各コースの目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

## ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程のコース別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

入学時にモードテクノロジー系のコースを志望するクラスとファッションビジネス系のコースを志望するクラスに分かれて1年間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に服飾造形系とビジネス系の基礎科目で17単位を両系共通の必修科目として履修します。これによって、ビジネスの基礎を知るモードテクノロジーの専門家と服飾造形の基礎を知るファッションビジネスの専門家の素地を培うこととしています。さらに初年次で系ごとに共通の専門基礎必修科目2単位と2年次で専門教育課程のコースに進学した後、モードテクノロジー系の各コースでは10単位、ファッションビジネス系の各コースでは7単位の共通の専門基礎必修科目を履修します。

2年次から4年次までの専門教育課程では、コースごとに専門必修科目35単位ないし38単位の履修を求めています。この専門必修科目は、ファッションビジネス系の2年次では、2つのコースの科目は共通していますが、これ以外は各コース間で同一の必修科目はありません。

さらにコースごとに23単位から29単位の専門選択科目の履修を求めています。以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することでコース別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の合計**124単位**を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 コース別教育目的と目標

コース名	目的	目標
①モードクリエイションコース	服飾造形表現に必要とされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力の育成を目的とする。	ファッション産業の現場で活躍できるデザイナー、パタンナー、縫製技術士などの人材育成を目標とする。
②インダストリアルパターンコース	ファッションの色や素材、人体におけるサイズ等を最も良い状態へ改良しながら個々の人体に対応して、パターン開発できる能力の育成を目的とする。	3D計測器を使用した人体計測およびアパレルCADによる個々の人体に対応したパターン開発が提案できるパタンナーの人材の育成を目標とする。
③テキスタイルデザインコース	服飾の原材料や素材を理解し、表現技法の修得によってテキスタイルデザイン、設計をもとに自由にテキスタイル作品の制作ができる能力、またニットにおいてはニットCADシステムによるニット作品の制作ができる能力を育成することを目的とする。	創造的なテキスタイルデザイン・設計を通してイメージ通りに表現したテキスタイル作品を制作できる能力によって、ファッション業界において織物デザイナー、ニットデザイナー、プリントデザイナーとして活躍できる人材の育成を目標とする。
④ファッションプロダクトデザインコース	ファッションプロダクトの分野でアイデアを創出する豊かな発想力並びにそのアイデアを具体的な形にする造形力と実際に制作する技術力の育成を目的とする。	バッグ、帽子、アクセサリ、シューズ等ファッション関連製品のデザインなど、プロダクトデザイナーとして広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする。
⑤ファッションビジネス・マネジメントコース	ファッションビジネスにかかわる企画創作能力・企画作成技術力・プレゼンテーション能力の育成を目的とする。	ファッションビジネスを企画・提案でき、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けたマーチャンダイザー等のCCO（チーフクリエイティブオフィサー）となる人材の育成を目標とする。
⑥ファッションビジネス・流通イノベーションコース	SPA（製造小売業）、オムニチャネル（統合販売）など変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力の育成を目的とする。	店舗販売とネット販売の併合した事業運営などファッション流通イノベーションを推進するCMO（チーフマーケティングオフィサー）となる人材の育成を目標とする。

## アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

### 1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

### 2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

### 3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

### 4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

### 5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
  - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
  - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
  - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- \*専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

## Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

### 1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

### 2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

## Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

### ◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

#### IV.履修科目単位内訳表

(大学2024年度生)

		修得単位数					
		モードテクノロジー系				ファッションビジネス系	
共通専門基礎必修科目	1年次	17					
	2年次	7					
系別専門基礎必修科目	1年次	4				4	
	2年次	3				0	
コース別専門必修科目		モード 37	インダストリアル 37	テキスタイル 38	プロダクト 35	マネジメント 39	イノベーション 37
	2年次	14	16	12	12	13	
	3年次	14	14	17	14	16	16
	4年次	9	7	9	9	10	8
専門選択科目		22	22	21	24	23	25
専門科目合計		90単位					
教養科目	初年次 キャリア	必修	12				
	一般 体育 国際関係	選択	14				
	外国語	選択必修	8				
教養科目合計		34単位					
総合計		124単位					

#### ■【進級条件】

\_\_\_\_\_部 令和 6年 改正

各学年開講必修科目は、原則全て修得すること。

1年次の共通必修(服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通商業入門、ファッションビジネス概論、ファッション・フィールド・リサーチ、衣服材料学、ファッション画Ⅰ・Ⅱ、ドローイングⅠ)17単位とその他の科目で30単位以上修得しない場合には、2年次のコース専門科目は原則履修できない。

#### ■【卒業制作・論文履修条件】

1・2年次の必修科目を修得していない場合には、原則コースの専門応用・【卒業制作・論文】を履修できない。

## V. コースの概要

### モードクリエーションコース

世界に通用するクリエイターを目指し、服飾造形表現に必要とされる知識・技術そして豊かな感性をはぐくみ、イメージしたデザインを服飾造形作品として表現する力と、作品を正しく評価・判断する力、自分の作品をプレゼンする能力を育てていきます。

このコースでは、各自の様々なイメージを的確にとらえ、服飾造形作品として具現化できる能力を修得するために、デザイン考案とデザイン表現テクニック、ドレーピングやパターンメイキング、服飾造形テクニック等を学び、それらを総合して作品を制作する授業を中心としています。特にモードデザインやアパレルCADなど、アパレル業界で活かせる授業によって編成されています。各自の学習の成果はポートフォリオや産学コラボレーション、各種コンテストへの参加で確認することができます。

卒業後は、クリエイター、デザイナー、パターンメーカー、モデリスト、縫製技術者などを目指します。

コース必修科目	
<b>2 年次</b>	
<b>〈講義〉</b> ファッション史 服飾デザイン概論	<b>〈実験・実習〉</b> ドレーピング&パターンメイキング I ドレーピング&パターンメイキング II
<b>〈実験・実習〉</b> モードクリエーション I モードクリエーション II	モードデザイン I 装飾技法
<b>3 年次</b>	
<b>〈演習〉</b> アパレル CAD I アパレル CAD II	<b>〈実験・実習〉</b> ドレーピング&パターンメイキング III ドレーピング&パターンメイキング IV
<b>〈実験・実習〉</b> モードクリエーション III モードクリエーション IV	モードデザイン II モードデザイン III
<b>4 年次</b>	
<b>〈演習〉</b> モードデザイン IV	<b>〈実験・実習〉</b> 卒業制作 I (モード) 卒業制作 II (モード)



## V. コースの概要

### インダストリアルパターンコース

インダストリアルパターンコースは、衣服を理解するために人体を学び、パターンを素材に連動させる役目であるパタンナー（モデリスト）を育成するコースです。3次元計測システムおよび着装シミュレーションを使って、人体における動きを論理的に分析し、快適な衣服設計を行います。工業パターンの制作をCADで行い、1/2大で作品を制作し、様々な素材に適合するパターンを修得します。人体設計、体型分類、サイズ設定など一連の技術を身につけた上で、現代ファッションに即した色彩やコンセプトを考案し、イメージしたデザインを的確に表現できるように学習するコースです。卒業制作はファッションショー形式で行い、各自のコレクションを発表します。

コース必修科目	
<b>2年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 人体工学設計技術Ⅰ 人体工学設計技術Ⅱ	<b>〈実験・実習〉</b> インダストリアルパターンⅠ インダストリアルパターンⅡ
<b>〈演習〉</b> 感性産業デザインⅠ 感性産業デザインⅡ	CGデザインⅠ CGデザインⅡ
<b>3年次</b>	
<b>〈演習〉</b> CAD&3D演習Ⅰ CAD&3D演習Ⅱ 感性産業CADⅠ 感性産業CADⅡ	<b>〈実験・実習〉</b> インダストリアルパターンⅢ インダストリアルパターンⅣ CGデザインⅢ CGデザインⅣ
<b>4年次</b>	
<b>〈実験・実習〉</b> 卒業制作Ⅰ（インダストリアルパターン） 卒業制作Ⅱ（インダストリアルパターン）	

## V. コースの概要

### テキスタイルデザインコース

本コースでは繊維を知ることから始まり、糸や布を使ってオリジナルテキスタイル作品を制作します。その過程でデザイン考案、設計理論、制作プロセス、技術を身につけ制作を軸とした科目設定によって、テキスタイルエキスパートの育成を目指しています。具体的には織物、ニット、染色、フェルティングなどの表現技法を学び、制作を通して学修する教育システムを実施しています。

ファッションデザインが同じでも素材が異なれば多様なファッションを提案することも可能です。素材の基礎をしっかりと学び、アパレルテキスタイルの提案、アート作品の提案など、自由な発想で「テキスタイルデザイン・作品」が提案できる人材の育成をしていきます。

目標・・・テキスタイルデザイナー、プリントデザイナー、ニットデザイナー、テキスタイルプランナーの育成

コース必修科目	
<b>2 年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 素材設計論 I 素材設計論 II	<b>〈実験・実習〉</b> テキスタイルデザイン I テキスタイルデザイン II ダイイングテクニック I ダイイングテクニック II
<b>3 年次</b>	
<b>〈演習〉</b> ニッティング I ニッティング II プリントデザイン演習 I プリントデザイン演習 II 画像表現演習 I 画像表現演習 II	<b>〈実験・実習〉</b> テキスタイルデザイン III テキスタイルデザイン IV ダイイングテクニック III ダイイングテクニック IV 素材分析実験
<b>4 年次</b>	
<b>〈演習〉</b> テキスタイルデザイン V	<b>〈実験・実習〉</b> 卒業制作 I (テキスタイル) 卒業制作 II (テキスタイル)

## V. コースの概要

### ファッションプロダクトデザインコース

ファッションプロダクトデザインコースでは、現代の社会的なニーズに対応し、ファッションプロダクト製品のデザイン、商品企画、トレンド情報発信、制作に関わる人材の育成を目指すカリキュラム編成となっています。2年次ではファッションプロダクトデザインの基礎課程と位置づけています。デザインの発想法、描画による表現訓練、製図、デザインモデルの制作技法、素材の特性と制作技術、アイデアを具体的な形にする造形能力を訓練する科目の設定になっています。その他リサーチの目的と分析結果の検証など、本コース3年間の教育課程を通じ核となる学修を行います。

卒業制作では、2・3年次に学んだ事を更に発展させ、作品制作を行います。デザインの対象をより幅広く設定しアイデアを産み出す発想力を鍛え、機能性、装飾性、トレンド性など様々な要素を基に製品化を目指し実物の制作を行う科目の設定となっています。

コース必修科目	
<b>2年次</b>	
<b>〈講義〉</b> ファッションプロダクトデザイン論	<b>〈演習〉</b> アクセサリーデザイン
<b>〈演習〉</b> ファッションプロダクトデザイン I ファッションプロダクトデザイン II デザインプロセス	<b>〈実験・実習〉</b> プロダクトデザイン演習 I デジタルデザインワーク I デジタルデザインワーク II
<b>3年次</b>	
<b>〈演習〉</b> ファッションプロダクトデザイン III ファッションプロダクトデザイン IV プロダクトデザイン演習 II	<b>〈実験・実習〉</b> ファッションプロダクトデザインゼミ マテリアル実習 I (金属) マテリアル実習 II (金属) デジタルデザインワーク III
<b>4年次</b>	
<b>〈実験・実習〉</b> 卒業制作 I (プロダクト) 卒業制作 II (プロダクト)	

## V. コースの概要

### ファッションビジネス・マネジメントコース

このコースの目標は、ファッションビジネスにおける国際的なファッションリーダーの養成です。そこで必要なのは、1) ファッションデザインのセンス、創造力、感性、企画・思考技術、2) 高度知識、コンピューターによる情報収集・発信・分析・判断能力、3) ファッションビジネス・マネジメント能力です。これら3つの観点から、高い「志」を持ち、「夢と希望」に向かってファッション界に貢献できる人材の養成を目指しています。以上3つのコンセプトを融合してファッション業界において新しい価値観を持った考え方がこのコースのスタンスです。

ファッションビジネス・マネジメントコースでは、ファッションビジネスの企画・提案を行い、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けた人材を育成することを目的としたカリキュラム編成となっています。まず2年次では講義を中心に、専門的な基礎知識を学びます。次に3年次では、ファッション・アパレルメーカーでのファッションブランド戦略の現況、商品開発、生産、小売業、店頭販売、それらを展開したグローバル・ビジネスなどを講義形式で学び、さらに特徴的な授業形態として、産学コラボレーションをあげることができます。学生達がグループでバーチャルカンパニーを設立し、自社ブランドを立ち上げ、マーケティング活動、企画立案、新製品（商品）提案、デザイン開発、生産、販売までの一気通貫を企画・提案することを学習します。4年次においては、3年次に学んだことをアカデミックに探究し、企業研究を課題①として調査、分析、考察し、さらに学士論文を課題②として、卒業課題としています。それらの過程において、理論（講義）と実践（ファッションの現場で実学を重視した）、企業間との連携（産学連携によるプロジェクトやバイヤーでの体感実習）による、両面で実務型（実践力）の育成ができるカリキュラム編成になっています。

コース必修科目	
<b>2年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	<b>〈演習〉</b> ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(マネジメント)
<b>3年次</b>	
<b>〈講義〉</b> ブランド・マネジメント論 P.R, マネジメント論 新製品(商品)開発論 生産管理論 バイヤーの実践学	<b>〈講義〉</b> リテールマーチャンダイジング <b>〈演習〉</b> 「産学連携」プロジェクト演習 I 「産学連携」プロジェクト演習 II
<b>4年次</b>	
<b>〈講義〉</b> グローバルマネジメント特論 II 店舗開発マネジメント論 ファッションMD評価システム	<b>〈演習〉</b> 卒業論文 I (マネジメント) 卒業論文 II (マネジメント)

## V. コースの概要

### ファッションビジネス・流通イノベーションコース

このコースは商学・マーケティングの理論を中心に、新しいファッションビジネスのあり方を学びます。イノベーションとは革新の意味です。ファッション産業はとりわけ変化の激しい業界で、SPA（製造小売業）業態への転換の時代を経て、スマートフォンなどで買い物をするネットビジネスが伸びてきました。今後はリアル店舗とネット販売の融合を考えた「オムニチャネル」が重要になってきます。そうした変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と、デジタルマーケティングの知識を使った能力の育成を目標とします。

ユビキタス社会（ネットでいつでも、どこにも、誰とでもつながる）の到来、グローバル化、企業のIoT化、AI（人工知能）の導入などで「働き方」「職種」も大きく変わってきました。コース専門科目では写真の編集やネットビジネスで対応できる文章表現などの実際を学んだ後、メディアやSNS、ファッションアプリなどに特化したファッション流通関連企業への就職、あるいは仲間同士や個人でネットショップを開くことを目指します。

ファッションビジネスでこれから発展するであろう「ファッション・テック」（ファッション×テクノロジー）の実践を体験する授業も行います。新しいテクノロジーを活用した販売方法を考えながら、どのようにしたらファッション製品やサービスが消費者の期待に沿えるのか、売れるのか、心理的作用や行動原則を考え、さらに顧客満足の考え方、顧客とのエンゲージメントを築くことを中心に学ぶゼミ方式が特徴です。最終目標は卒業論文の執筆ですが、コースで学ぶ新しいファッション・マーケティングを理解することは、社会においてもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本となります。

コース必修科目	
<b>2 年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	<b>〈演習〉</b> ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(イノベーション)
<b>3 年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 消費者行動論 II 現代流通論 流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド) グローバルマーケティング特講 フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	<b>〈演習〉</b> ファッションエディトリアル II 流通イノベーションゼミ I 流通イノベーションゼミ II
<b>4 年次</b>	
<b>〈講義〉</b> 顧客関係論 ファッションテック論	<b>〈演習〉</b> 卒業論文 I (イノベーション) 卒業論文 II (イノベーション)



# VI.服飾学部服飾学科カリキュラム表

(2024年度生)大-1

授業科目名	単位数		履修方法												配当	週時間数		備考				
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの												前	後					
				コース別必修																		
				モ	イ	テ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ					フ	フ	フ	フ
服飾造形基礎 I	3	0	○															1	6	100102		
服飾造形基礎 II	3	0	○															1	6	100103		
流通・商業入門	2	0	○															1	2	100101		
ファッションビジネス概論	2	0	○															1	2	100102		
ファッション・フィールド・リサーチ	1	0	○															1	2	は2	100104	
衣服材料学	2	0	○															1	2	は2	100101	
西洋服飾文化史	2	0	○															1	2	は2	100109	
ファッション画 I	1	0	○															1	2		100103	
ファッション画 II	1	0	○															1	2		100104	
ドローイング I a	2	0	○	○	○	○	○											1	4	は4	100106	
ドローイング I b	2	0	○					○	○									1	4	は4	200108	
経営学入門	2	0	○					○	○	○								1	2	は2	107106	
日本服飾文化史	2	0	○															2	2	は2	100212	
アパレル素材論	2	0	○															2	2	は2	100205	
色材演習	1	0	○															2	2	は2	100201	
マーケティング・データサイエンス論	2	0	○															2	2	は2	100207	
現代ファッション論	2	0	○	○	○	○	○											2	2	は2	109109	
CAD/パターンメイキング	1	0	○	○	○	○	○											2	2	は2	100210	
計	18	15	0																			
専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については31単位、ファッションビジネス系については28単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません																						
服飾	モードクリエイション I		3	○														2	9		201214	
	モードクリエイション II		3	○														2	9		201215	
	ドレーピング& パターンメイキング I		1	○														2	3		201217	
	ドレーピング& パターンメイキング II		1	○														2	3		201218	
	モードデザイン I		1	○														2	3		201213	
	服飾デザイン概論	2		○														2	2		401202	
	装飾技法		1	○														2	3		201216	
	ファッション史	2		○					○									2	2	は2	106201	
	モードクリエイション III		4	○														3	12		201325	
	モードクリエイション IV		4	○														3	12		201326	
	ドレーピング& パターンメイキング III		1	○														3	3		201319	
	ドレーピング& パターンメイキング IV		1	○														3	3		201320	
	モードデザイン II		1	○														3	3		201323	
	モードデザイン III		1	○														3	3		201324	
	アパレルCAD I		1	○														3	2		201321	
	アパレルCAD II		1	○														3	2		201322	
	モードデザイン IV		1	○														4	2		201427	
	卒業制作 I (モード)		4	○														4	12		201428	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業制作 II (モード)		4	○														4	12		201429	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
関係	インダストリアルパターン I		2	○														2	6		202234	
	インダストリアルパターン II		2	○														2	6		202235	
	感性産業デザイン I		3	○														2	6		202232	
	感性産業デザイン II		3	○														2	6		202233	
	CGデザイン I		1	○														2	3		202236	
	CGデザイン II		1	○														2	3		202237	
	人体工学設計技術 I	2		○														2	2		202238	
	人体工学設計技術 II	2		○														2	2		202247	
	インダストリアルパターン III		2	○														3	6		202341	
	インダストリアルパターン IV		2	○														3	6		202342	
	CGデザイン III		1	○														3	3		202343	
	CGデザイン IV		1	○														3	3		202344	
	CAD&3D演習 I		1	○														3	2		202339	
	CAD&3D演習 II		1	○														3	2		202340	
	感性産業CAD I		3	○														3	6		202345	
	感性産業CAD II		3	○														3	6		202346	
目	卒業制作 I (インダストリアル)		3	○														4	9		202430	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
係	卒業制作 II (インダストリアル)		4	○														4	12		202431	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備考	
	講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											前 期	後 期		
				コース別必修					選 自	職 業 課 程	学 員 課 程							
				モ ー ド	イ ン ダ ス ト リ ア ル	テ キ ス タ イ ル	フ ァ ッ シ ヨ ン ブ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ヨ ン シ ョ ン ビ ジ ネ ッ ス				フ ・ ア マ シ ョ ン ビ ジ ネ ッ ス						
服飾	テキスタイルデザインⅠ		2				○										2	6
	テキスタイルデザインⅡ		2				○								2	6	203249	
	ダイニングテクニックⅠ		2				○								2	6	203250	
	ダイニングテクニックⅡ		2				○								2	6	203251	
	素材設計論Ⅰ	2					○								2	2	203252	
	素材設計論Ⅱ	2					○								2	2	203253	
	テキスタイルデザインⅢ		2				○								3	6	203354	
	テキスタイルデザインⅣ		2				○								3	6	203355	
	ダイニングテクニックⅢ		2				○								3	6	203356	
	ダイニングテクニックⅣ		2				○								3	6	203357	
	ニットイングⅠ	2					○								3	4	203358	
	ニットイングⅡ	2					○								3	4	203359	
	プリントデザイン演習Ⅰ	1					○								3	2	203360	
	プリントデザイン演習Ⅱ	1					○								3	2	203361	
	素材分析実験		1				○								3	3	203364	
	画像表現演習Ⅰ	1					○								3	2	203354	
	画像表現演習Ⅱ	1					○								3	2	203355	
	テキスタイルデザインⅤ	1					○								4	2	203465	
	卒業制作Ⅰ(テキスタイル)		4				○								4	12	203466	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業制作Ⅱ(テキスタイル)		4				○								4	12	203467	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
服飾	ファッションプロダクトデザイン論	2					○								2	2	204269	
	ファッションプロダクトデザインⅠ	2					○								2	4	204270	
	ファッションプロダクトデザインⅡ	2					○								2	4	204271	
	デザインプロセス	1					○								2	2	404205	
	アクセサリデザイン	1					○								2	2	204272	
	デジタルデザインワークⅠ		1				○								2	3	204273	
	デジタルデザインワークⅡ		1				○								2	3	204274	
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	2					○								2	4	204268	
	ファッションプロダクトデザインⅢ	4					○								3	8	204375	
	ファッションプロダクトデザインⅣ	4					○								3	8	204376	
	ファッションプロダクトデザインゼミ		1				○								3	3	204377	
	マテリアル実習Ⅰ(金属)		1				○								3	3	204378	
	マテリアル実習Ⅱ(金属)		1				○								3	3	204379	
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	2					○								3	4	204380	
	デジタルデザインワークⅢ		1				○								3	3	204381	
	卒業制作Ⅰ(プロダクト)		4				○								4	12	204482	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業制作Ⅱ(プロダクト)		5				○								4	15	204483	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
関係	消費者行動論Ⅰ	2						○	○						2	2	407203	
	ビジネスプレゼンテーション技法	1						○	○						2	2	207286	
	企業会計入門	2						○	○	○					2	2	207284	
	グローバルマネジメント特論Ⅰ	2						○	○						2	2	407204	
	ファッションエディトリアルⅠ	2						○	○						2	4	207287	
	ファッションマーケティング論	2						○	○						2	2	207285	
	プレゼミ(マネジメント)	2						○							2	2	207288	
	プレゼミ(イノベーション)	2						○							2	2	207289	
	ブランド・マネジメント論	2						(○)							3	2	207390	
	トレンド分析とディレクション制作	2						(○)	(○)	○					3	2	207317	
	P.R.マネジメント論	2						○							3	2	207310	
	新製品(商品)開発論	2						○							3	2	207392	
	生産管理論	2						(○)							3	2	207391	
	バイヤーの実践学	2						○	(○)	○					3	2	207309	
	リテールマーチャンダイジング	2						○		○					3	2	207311	
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ	2						○							3	4	207393	
	「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ	2						○							3	4	207394	
目係	グローバル・マネジメント特論Ⅱ	2						○							4	2	207499	
	店舗開発マネジメント論	2						○							4	2	207403	
	ファッションMD評価システム	2						○							4	2	207498	
	卒業論文Ⅰ(マネジメント)	2						○							4	4	207401	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
	卒業論文Ⅱ(マネジメント)	2						○							4	4	207402	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可





授業科目名	単位数			履修方法										配当年	週時間数		備考				
	講義	演習	実験	卒業を目的とするもの											教職課程	芸術課程		前	後		
				コース別必修																選択	自由
				モード	インダ	テキ	ファッション	フ・ア	フ・ア	フ・ア	流通	シ	シ								
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2														○	○	2	2	129208		
食物学(実践栄養学)	2														○	○	2	2	129210		
食物学(食品学)	2														○	○	3	2	129312		
住居学	2														○	○	3	2	129313		
保育学	2														○	○	3	2	129314		
食文化論	2														○		3	2	129315		
食物学(調理実習・実験) I			1												○	○	3	3	129316		
食物学(調理実習・実験) II			1												○	○	3	3	129317		
専門選択小計	42	13	16																		
専門科目小計	116	97	105																		
専門科目合計	318																				
目	専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として21~25単位以上を修得すること。																				
教	初年次	学習基礎	2			○												1	2	130133	
養	キャリア	文章表現	2			○												1	2又	は2	130120
		情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○												1	2		130118
		情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○												1		2	130119
		社会人基礎	2			○												1	2		139146
		キャリアプランニング	2			○												2	2又	は2	130221
		心理学A	2											○				1・2	2		139136
一	般	心理学B	2										○				1・2		2	139137	
		文学	2										○				1	2又	は2	139138	
		日本美術史	2										○		○	1	2又	は2	139134		
		西洋美術史	2										○		○	1	2又	は2	139135		
		憲法	2										○	○		1・2	2又	は2	139141		
		化学A	2										○			1・2	2		139142		
		化学B	2										○			1・2		2	139143		
目	体育	体育A		1									○	○		1	2又	は2	139144		
		体育B		1									○	○		1・2		2	139145		

【科目ナンバリング】

授業科目を分類し、学問分野や難易度など番号等で示すことにより、個々の科目の分野や履修レベルを明確にし、教育課程を体系的にわかりやすく示すシステムです。

学科分類	教科分類	学科(コース) 必修/選択	学年	番号
1	1	0	1	01
1: 服・表・文共通	0: 服飾	0: 共通必修	1: 1年基礎	01~
2: 服飾学科	2: ライフスタイル	1: モード	2: 2年基礎	
3: 服・表 共通	3: 教養	2: インダ	3: 3年応用	
4: 服・文 共通	4: 外国語	3: テキスタイル	4: 4年発展	
5: 表現学科	5: 教職課程	4: プロダクト		
6: 文化学科	6: 学芸員課程	5: 表現学科		
		6: 文化学科		
		7: ビジネス		
		9: 選択科目		

授業科目名	単位数			履修方法										配	週時間数		備考							
				卒業を目的とするもの											資格取得を 目的と するもの	当		前	後					
	講	演	実	共	コース別必修					選	自	教	学	年						期	期			
					モ	イン	デ	フ	フ						フ	・		・	・					
義	習	習	修	ド	ダ	キ	ア	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・						
言語と服飾文化	2														○				3・4	2又	は2	139366		
日本文化・日本事情 I	2															○				1・3	2		139148	外国人留学生は履修のこと
日本文化・日本事情 II	2															○				1・3	2		139149	外国人留学生は履修のこと
英語(総合)A	2															○				2	2		139250	
英語(総合)B	2															○				2	2		139251	
ワールド・カルチャーA	2															○				2	2		139252	
ワールド・カルチャーB	2															○				2	2		139253	
国際関係 実用英語 A	2															○				2	2		139254	
実用英語 B	2															○				2	2		139255	
ファッション英語 A	2															○				2	2		139256	
ファッション英語 B	2															○				2	2		139257	
フランス語(総合) A	2															○				2	2		139258	
フランス語(総合) B	2															○				2	2		139259	
ファッションフランス語 A	2															○				2	2		139260	
ファッションフランス語 B	2															○				2	2		139261	
中国語(総合) A	2															○				2	2		139262	
中国語(総合) B	2															○				2	2		139263	
中国語(会話) A	2															○				2	2		139264	
中国語(会話) B	2															○				2	2		139265	
英語(総合) I	2															○				1	2		149101	
英語(総合) II	2															○				1	2		149102	
基礎英会話 I	2															○				1	2		149103	
基礎英会話 II	2															○				1	2		149104	
フランス語(総合) I	2															○				1	2		149105	
フランス語(総合) II	2															○				1	2		149106	
フランス語(会話) I	2															○				1	2		149107	
フランス語(会話) II	2															○				1	2		149108	
中国語(総合) I	2															○				1	2		149109	
中国語(総合) II	2															○				1	2		149110	
中国語(会話) I	2															○				1	2		149111	
中国語(会話) II	2															○				1	2		149112	
日本語 I	4															○				1・3	4		149313	*外国人留学生は下記の欄を参照
日本語 II	4															○				1・3	4		149314	*外国人留学生は下記の欄を参照
教養科目合計	96	4																						

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I ~ II まで8単位を修得すること。(母国語を除く)

\*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。

具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する

②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。

但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

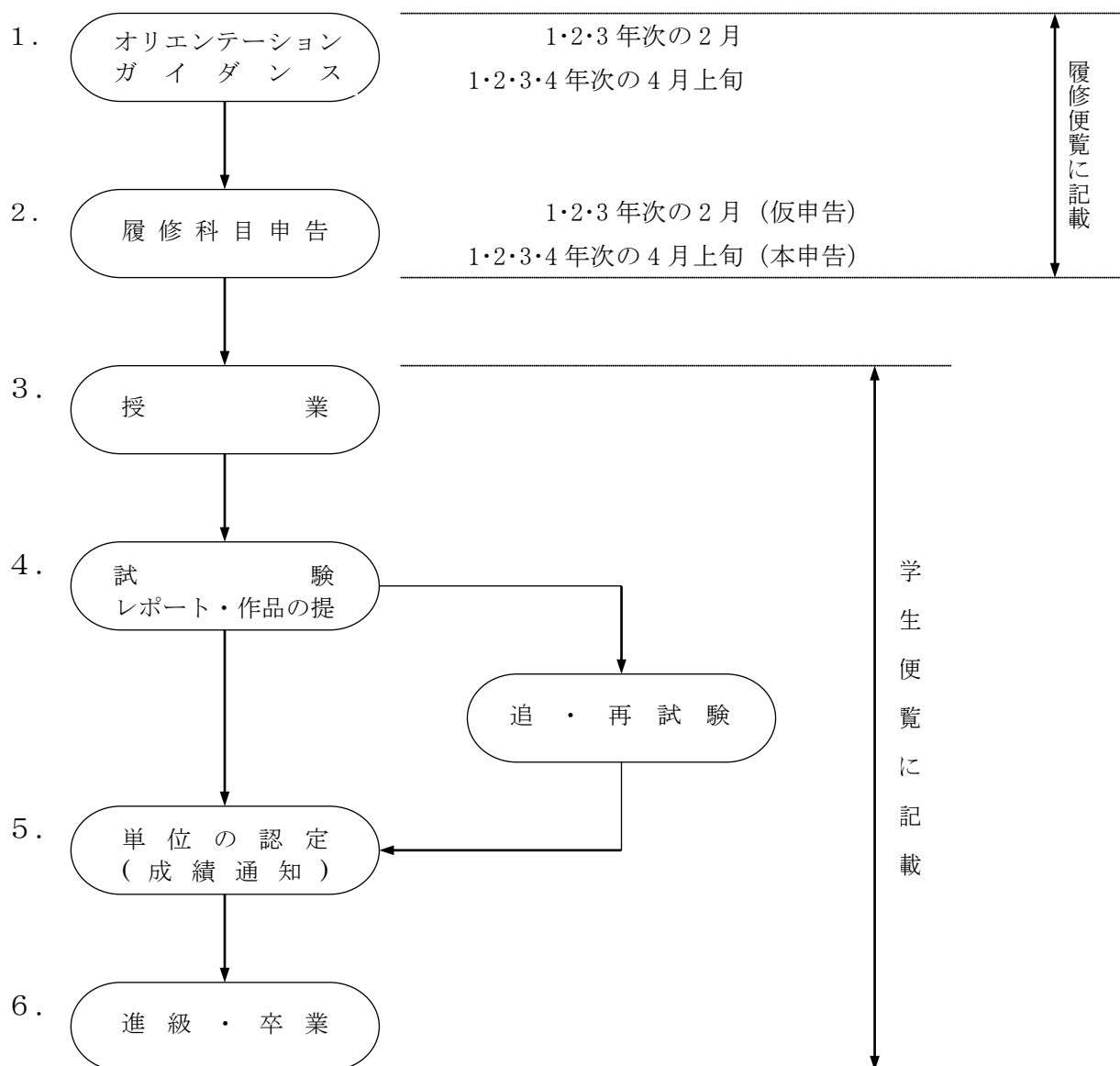
学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

授業科目名	単位数			履修方法											配 当 年 次	週時間数		備考					
				卒業を目的とするもの																			
	講 義	演 習	実 験 実 習	共 通 必 修	コース別必修							選 自	教 職 課 程	学 芸 員 課 程		前 期	後 期		【ナンバリング】				
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル バ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ン シ ョ ン フ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ マ ツ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス									フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ィ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス
教師論	2																	○	1	2	259119		
教育心理学	2																		○	1	2	259120	
教育制度論	2																		○	1	2	259121	
教育原理	2																		○	2	2	259222	
教育課程論	2																		○	2	2	259223	
特別支援教育概論	2																		○	2	2	259227	
道徳の指導法	2																		○	2	2	257224	
生徒指導論(進路指導を含む)	2																		○	2	2	257225	
教科教育法基礎(家庭)	1																		○	2	1	257226	
教育現場でのICT活用	1																		○	2	1	257228	
特別活動の指導法	2																		○	3	2	257336	
教育方法論	2																		○	3	2	257329	
家庭科教育法(基礎)	2																		○	3	2	257332	
総合的な学習の時間の指導法	2																		○	3	2	257335	
家庭科教育法	2																		○	3	2	257330	
教科教育法(家庭)	2	1																	○	3	2	257331	模擬授業を含む(集中)
教育法規	2																		○	3	2	257333	
教育相談(カウンセリングを含む)	2																		○	3	2	257334	
教育実習(事前事後指導を含む)		1	4																○	4	2	257437	他に中・高校で3週間実習
教職実践演習(中等)		2																	○	4	2	257438	
計	34	4	4																				
教職課程履修者は、教職に関する科目必修40単位を修得すること。他に7日以上(期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																							
生涯学習概論	2																		○	1	2	369102	
博物館概論	2																		○	1	2	369101	
博物館経営論	2																		○	2	2	369204	
博物館資料論	2																		○	2	2	369203	
博物館資料保存論	2																		○	2	2	369205	
博物館展示論	2																		○	3	2	369306	
博物館教育論	2																		○	3	2	369307	
博物館情報・メディア論	2																		○	3	2	369308	
博物館実習			3																○	4	3	369409	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
計	16		3																				
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																							
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。																							
1)原則として開講学年順とします。																							
2)個々の履修状況に応じて審議決定します。																							
コース選択要件については、別紙に記載してあります。																							
(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。																							

## VII. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



## 1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

## 2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一か年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

### 1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

### 2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

### 3) 《履修申告の方法》

履修申告は「学生ポータル」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

- ① 1年次の年度始め  
1年次前期に受講する科目をすべて申告してください。
- ② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)  
これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。
- ③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目を入力)  
※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。
- ④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)  
後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

#### 4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

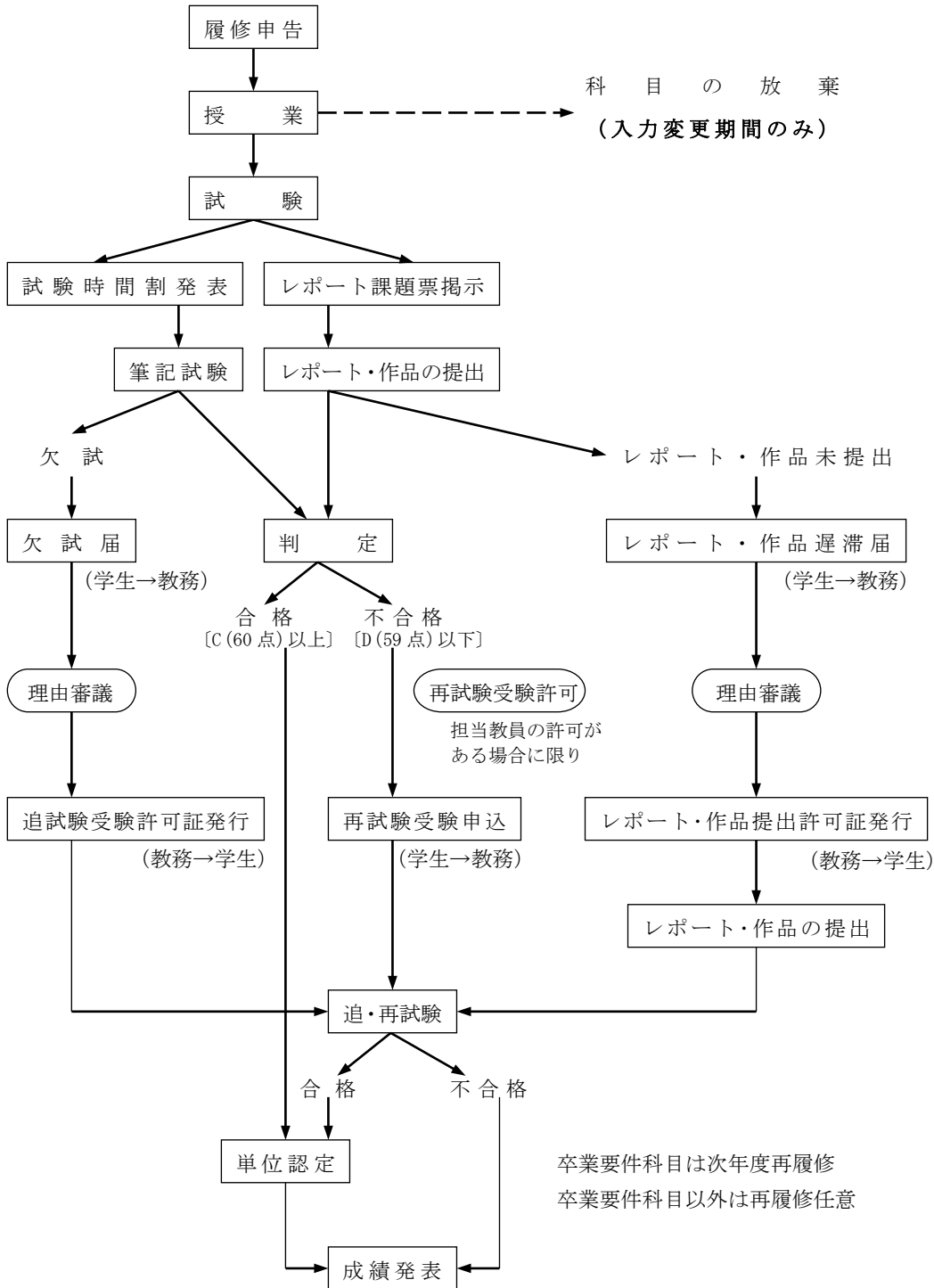
##### ◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

##### 《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで





## VIII. 教職課程について

### I 教育職員免許法に基づき、本学で取得できる免許状の種類

免許状の種類	免許教科
中学校教諭一種免許状	家庭
高等学校教諭一種免許状	家庭

### II 免許状取得のための基礎条件

- (1) 中学校および高等学校教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格と条件は、教育職員免許法第 5 条（別表第一）にその免許状の種類によって第 I 表の通り定められています。
- (2) 「教科に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 3 条・第 4 条により、大学が授業科目と単位数を第 II 表の通り定めています。
- (3) 「教職に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 6 条により、大学が授業科目と単位数を第 III 表の通り定めています。
- (4) 中学校および高等学校教諭の免許状の授与を受けようとする者について、特に必要なものとして文部科学省令で定める科目と単位数については、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 により、大学が授業科目と単位数を第 IV 表の通り定めています。
- (5) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律（平成 9 年法律第 90 号）により、18 歳に達した後、7 日以上期間、特別支援学校（旧の盲学校、聾学校若しくは養護学校）又は社会福祉施設などで文部科大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験（介護等体験）が義務づけられています。

第 I 表 基礎資格と最低修得単位数

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	12	19	4
	一種免許状	学士の学位を有すること	28	27	4
	専修免許状	修士の学位を有すること	27	27	28
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	24	23	12
	専修免許状	修士の学位を有すること	24	23	36

第Ⅱ表 教科に関する科目表

(2024年度生)

教科に関する 科目	教育職員免許法 施行規則に定める 最低修得単位数		本学の該当科目										備考		
	(第4条) 中学校 1種	(第5条) 高等学校 1種	授業科目名	必修	履修単位数						教職				
					モード	コース別必修					選択	必修		選択	
					インダストリアル	テキスタイル	プロダクト	マネジメント	イノベーション						
家庭経営学 (家族関係学 及び家庭 経済学を含む)	1	1	家庭経営学 (家族関係学及び 家庭経済学を含む)									2	2		
			小計									2	2		
被服学 (被服 実習を含む)	1	1	服飾造形基礎Ⅰ	3											
			服飾造形基礎Ⅱ	3											
			衣服材料学	2											
			アパレル素材論	2											
			和服構成論・実習Ⅰ									1	1		
			和服構成論・実習Ⅱ									1	1		
			衣服管理									2	2		
			服飾手芸(ニットを含む)									1	1		
			モードクリエイションⅠ			3									
			モードクリエイションⅡ			3									
			ドレーピング&パターンメイキングⅠ			1									
			ドレーピング&パターンメイキングⅡ			1									
			感性産業デザインⅠ				3								
			感性産業デザインⅡ				3								
			CGデザインⅠ				1								
			CGデザインⅡ				1								
			ダイニングテクニックⅠ						2						
			ダイニングテクニックⅡ						2						
			テキスタイルデザインⅠ						2						
			テキスタイルデザインⅡ						2						
			ファッションプロダクトデザインⅠ							2					
			ファッションプロダクトデザインⅡ							2					
			プロダクトデザイン演習Ⅰ							2					
			プロダクトデザイン演習Ⅱ							2					
			消費者行動論Ⅰ								2	2			
			グローバルマネジメント特論Ⅰ								2	2			
ファッションエディトリアルⅠ								2	2						
ファッションマーケティング論								2	2						
ドレーピング&パターンメイキングⅣ(選)										1					
小計			10	8	8	8	8	8	8	6	5				
食物学 (栄養学・食品学 及び 調理実習を含む)	1	1	食物学(実践栄養学)									2	2		
			食物学(食品学)										2	2	
			食物学(調理実習・実験)Ⅰ										1	1	
			食物学(調理実習・実験)Ⅱ										1	1	
小計											6	6			
住居学	1	1	住居学									2	2		
			小計											2	2
保育学	1	1	保育学									2	2		
			小計											2	2
教科及び教科の指導法 に関する科目における複 数の事項を合わせた内 容に係る科目															
各教科の指導法(情 報機器及び教材の活 用を含む)	8	4	教科教育法基礎(家庭)											1	
			家庭科教育法(基礎)												2
			家庭科教育法												2
			教科教育法(家庭・情報技術を含む)												3
小計													8		
合計	28	24	合計	10	8	8	8	8	8	8	18	25			

第Ⅲ表 教職に関する科目表

教職に関する 科 目	教育職員免許法施行規則 第6条に定める教職に関する科目			本学の該当科目		
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		授業科目名	単位数	
		一種			必修	選択
		中学	高校			
教科及び教科の指導法に関する科目	イ 教科に関する専門的事項 ロ ■各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	28	24	別表 第Ⅱ表	28	24
教職の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解(1単位以上) ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	教育原理 教師論 教育制度論 教育法規 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論	2 2 2 2 2 2 2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ■道徳の理論及び指導法(一種:2単位、二種:1単位) ロ 総合的な学習の時間の指導法 ハ 特別活動の指導法 ニ 教育方法及び技術 ホ 情報通信技術を活用した教育の理念及び方法(1単位以上修得) ヘ 生徒指導の理論及び方法 ト 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 チ 進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法	10	8	道徳の指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育方法論(情報技術を含む) 教育現場でのICT活用 生徒指導論(進路指導を含む) 教育相談(カウンセリングを含む)	2 2 2 2 2 2 2	
教育実践に関する科目	イ ■教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)(5単位) ロ ■教育実践演習(2単位)	7	5	教育実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(中等)	5 2	
大学が独自に設定する科目						
合 計		55	47	合 計	61	2

## 第IV表 その他に関する科目表

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める最低修得単位	中学校1種・高等学校1種免許状取得のための最低修得単位数	本学の該当科目			備考
		授業科目名	単位数	履修方法	
日本国憲法	2	憲法	2		
体 育	2	体育 A 体育 B	1 1		
外国語 コミュニケーション	2	基礎英会話 I 基礎英会話 II フランス語（会話） I フランス語（会話） II 中国語（会話） I 中国語（会話） II	2 2 2 2 2 2	いずれか 4単位を 選択履修	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報演習 I（学修ポートフォリオを含む） 情報演習 II（学修ポートフォリオを含む） マーケティングデータサイエンス	2 2 2		

## 【履修申告にあたり】

大学における教員養成には、教員養成を目的とした国立大学を中心とした「目的大学」と、教員養成を主たる目的としないで、文部科学省から課程認定をうけた教職課程を別に設け、教員の免許状が取得できる「一般大学」とがあります。

本学は勿論後者ですが、一般大学には目的大学にはないその大学独自の教員養成が求められています。

本学は服飾学部・服飾学科の単科大学で、教員養成の課程認定は高等学校教諭一種免許状「家庭」と中学校教諭一種免許状「家庭」の養成機関として認可を受けています。同じ「家庭」教員養成機関でも大学によって専門のバックグラウンドには違いがあります。本学は「服飾学」を専門の中心においております。その専門に加え、中学校・高等学校で指導する「家庭経営学」「食物学」「住居学」「保育学」「家庭電気機械及び情報処理」といった科目を履修していきます。これが前ページの第II表の「教科に関する科目表」の科目です。

第III表の「教職に関する科目表」は、中・高等学校の各教科免許状取得を目指す学生が共通に学ぶ科目です。大学によって授業科目名は違いますが、表の「各科目に含めることが必要な事項」が各学習内容です。教科指導同様、教科外の指導や教員としての姿勢、態度の育成が目的となります。

第IV表の「その他に関する科目表」も、現在教員に求められる4領域の科目です。履修申告の際には、申告忘れないように注意してください。

## 【本学が養成したい教員像】

上記のように、本学は教員養成の「目的大学」ではなく教職課程を認可された「一般大学」ですが、本学の教員養成の姿勢は「目的大学」に期待される養成と同じく、責任・監督官庁である文部科学省や社会の要請・期待に応えるべく、優れた教員の育成を目指しています。

よって、平易な言い方ですが、1年生の教職課程履修希望者の履修動機は、資格だけほしいとか他者の勧めで履修したとか様々でしょうが、本学の教職課程は、教員職に就くか就かないかは本人の問題ですが、「教員」になることを前提とした教育を行っています。すなわち「教科に関わる科目」を通して、中等教育における「家庭科教育」の重要性と知識を伝え、「教職に関わる科目」を通して、「教員として、家庭科教員として求められる資質の養成と向上」を4年間を通して行っています。履修者の立場でその教員像を示すなら、家庭科教員としては「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項」について専門的な知識と技能を身につけます。また「教員として求められる知識」を習得し、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」他などの汎用的技能を身につけている教員を目指します。さらに教員の態度として求められる、自ら律して行動できる「自己管理能力」、他者と協調して行動できる「チームワーク力」、「リーダーシップ性」、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる「倫理観」、社会の一員としての「社会的責任感」、生涯を通しての「学習力」などを全学的な学習環境、教職課程の教科、特に教職課程での諸活動を通して身につけます。

免許取得後については、必ずしも学校教育に携わることがすべてではありません。自己評価、他者評価を通して、学校教育の教員としての適正があるかを確認、社会人、民間企業でも教職課程の学習を活かせればよいとも考えています。また善き学校理解者として学校教育外から「教育」を支援できることも教職課程での成果と考えています。

教職課程の履修にあたり、上記を理解し、前向きな姿勢で履修し専門教育と両立させてください。

## 【本学の教員養成の理念を実現するための教職課程指導体制】

本学では、「杉野服飾大学教職委員会規程」のもと全学的な指導体制を構築する為に、委員会構成メンバーは、「学部長」「教育職員免許法が規定する「教職に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教育職員免許法が規定する「教科に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教務部長」「その他学長が必要と認めた者」から構成されています。本年度は11名で運営しています。年度内に委員会を4回開催し、教職課程の運営上の問題に関する事項、教職課程で実施する諸活動に関する事項、教育実習・介護等体験の許可等に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・報告・情報交換を行い、教授会に報告しています。特に教育実習校訪問指導は、全実習校を対象に実施しているので全学的な協力を要請しています。今後皆さんが履修を進めて行く上で、委員会で半期ごとに履修状況を確認して指導をしていきます。詳しくは後述（「教職課程履修に関わる注意事項」）しますので、あらかじめ内容を理解しておいてください。

## 【履修モデル】

1年生4月、7月に開催する教職課程説明会で「杉野服飾大学 教職関連科目及び教職諸活動一覧」を用いて説明します。出席も履修条件ですので、必ず出席してください。

## 教職課程履修に関わる注意事項

1年生①後期の履修開始前に実施する前期末の「教職課程説明会」と後期始めの「教職課程履修説明会」に必ず出席すること。

②後期開講科目の「教師論」「教育心理学」「教育制度論」のいずれか1科目が不合格になると、原則として2年次以降の教職課程は履修できない。1年次の3科目の合格をもって2年次の科目を履修できる。よって1年次科目の再履修の場合は卒業時に免許状取得が不可能となる。

2年生 下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の中学校・高等学校での「教育実習」の依頼活動を許可する。この時点で不許可の者は、4年生開講の「教育実習」は履修できない。

3年生①「教壇模擬演習」を実施する。

②下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の教育実習を許可する。この時点で不許可の者は4年生開講の「教育実習」は履修できない。

4年生 教員免許状取得に必要な全ての修得単位、「介護等体験」「教育実習」の実施を確認の上、本学から東京都教育委員会に免許状申請する。免許状は本学卒業式に授与する。

★ 教育職員免許状を取得するためには、必修・専門科目などの履修に加えて、卒業時までに教職に関する（教科・教職）科目を62単位以上修得することが必要です。心身共に余裕を持ち、全学年を通じて明確な意志を継続し、全ての授業に臨むこと。

### 教育実習許可要件

1. 教職委員会が許可する者

- ① 1・2年次における必修科目、3年次におけるコース別必修科目、教養科目の単位の修得状況を参考にする。
- ② 教育実習実施までの教職に関する（教科・教職）科目の履修状況、及び教職課程諸活動へのかわり方を参考にする。
- ③ 編入生及び科目等履修生については上記①②に準じて個別に検討する。

2. 教職課程履修費を納入済みの者

### 博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

### 学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

#### 学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

## 博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

### （この法律の目的）

**第 1 条** この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

### （定義）

**第 2 条** この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

### （博物館の事業）

**第 3 条** 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
  - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
  - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
  - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
  - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
  - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
  - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
  - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
  - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
  - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
  - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

### （館長、学芸員、その他の職員）

**第 4 条** 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。



4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

**(学芸員の資格)**

**第5条** 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
  - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
  - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

**I. 大学における資格取得のための基礎条件**

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

**II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数**

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の意義</li> <li>・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育</li> <li>・生涯学習関連施策の動向</li> <li>・社会教育の意義</li> <li>・社会教育の内容・方法・形態</li> <li>・社会教育指導者</li> <li>・社会教育施設の概要</li> <li>・学習情報提供と学習相談の意義</li> </ul>
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の定義</li> <li>・博物館の歴史</li> <li>・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性)</li> <li>・博物館の現状</li> <li>・学芸員の役割</li> <li>・博物館の館種・設置者</li> <li>・博物館関係法規</li> </ul>
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアム・マネージメントの必要性</li> <li>・博物館倫理</li> <li>・博物館の行財政制度</li> <li>・博物館の施設・設備</li> <li>・博物館の組織</li> <li>・博物館の職員</li> <li>・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等)</li> <li>・博物館の財務、資金調達</li> <li>・マーケティング、広報・宣伝</li> <li>・博物館利用者の把握</li> <li>・博物館の危機管理 (リスクマネージメント)</li> <li>・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等)</li> <li>・博物館のネットワーク</li> </ul>
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料の収集</li> <li>・博物館資料の整理保管</li> <li>・博物館資料の保存</li> <li>・博物館資料の展示</li> <li>・博物館における調査研究活動の意義と方法</li> </ul>

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館保存科学の意義</li> <li>・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など)</li> <li>・収蔵庫と展示室の保存環境</li> <li>・伝統的保存方法とIPM</li> <li>・生物被害の防除と対策</li> <li>・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む)</li> <li>・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など)</li> <li>・資料の現状の調査と把握</li> <li>・資料の修復</li> <li>・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)</li> </ul>
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の意義</li> <li>・展示の歴史</li> <li>・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作</li> <li>・業者の評価・効果の検証及び改善方法</li> <li>・展示の技術と効果</li> <li>・博物館展示の情報伝達機器</li> <li>・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等)</li> <li>・展示活動と情報</li> </ul>
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の本質及び目標</li> <li>・生涯発達と教育</li> <li>・博物館教育の意義と方法</li> <li>・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等)</li> <li>・教育活動の企画と実施</li> <li>・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等)</li> <li>・教育普及とコミュニケーション</li> <li>・博物館と学校との連携</li> <li>・生涯学習と博物館</li> <li>・博物館教育の評価の目標と方法</li> </ul>

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館における情報の意義</li> <li>・資料収集保管活動と情報</li> <li>・研究活動と情報</li> <li>・博物館における情報の提供と活用の方法</li> <li>・博物館における情報機器</li> <li>・博物館における著作権</li> <li>・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む)</li> <li>・博物館における情報管理と情報公開</li> <li>・ICT社会の中の博物館</li> <li>・博物館における情報化の現状と課題</li> <li>・博物館のホームページ</li> <li>・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化</li> </ul>
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。</li> </ul>

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
  - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

# 学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修 系列 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

## X. 授業計画

---

### 【整理番号】

#### ■専門科目■

- 【1】 服飾造形基礎 I (モードテクノロジー系)
- 【1】 服飾造形基礎 I (ファッションビジネス系)
- 【2】 服飾造形基礎 II (モードテクノロジー系)
- 【2】 服飾造形基礎 II (ファッションビジネス系)
- 【3】 流通・商業入門
- 【4】 ファッションビジネス概論
- 【5】 ファッション・フィールド・リサーチ
- 【6】 衣服材料学
- 【7】 西洋服飾文化史
- 【8】 ファッション画 I
- 【9】 ファッション画 II
- 【10】 ドローイング I a
- 【11】 ドローイング I b
- 【12】 経営学入門
- 【13】 服飾造形応用
- 【14】 現代デザイン論
- 【15】 ファッション販売論
- 【16】 流行論
- 【17】 色彩演習

#### ■初年次・キャリア■

- 【18】 学修基礎
- 【19】 文章表現
- 【20】 情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)
- 【21】 情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)
- 【22】 社会人基礎

#### ■教養科目■

- 【23】 心理学A
- 【24】 心理学B
- 【25】 文学
- 【26】 日本美術史
- 【27】 西洋美術史
- 【28】 憲法
- 【29】 化学A
- 【30】 化学B

- 【31】 体育A
- 【32】 体育B
- 【33】 日本文化・日本事情 I
- 【34】 日本文化・日本事情 II

#### ■教養科目〔外国語〕■

- 【35】 英語(総合) I
- 【36】 英語(総合) II
- 【37】 基礎英会話 I
- 【38】 基礎英会話 II
- 【39】 フランス語(総合) I
- 【40】 フランス語(総合) II
- 【41】 フランス語(会話) I
- 【42】 フランス語(会話) II
- 【43】 中国語(総合) I
- 【44】 中国語(総合) II
- 【45】 中国語(会話) I
- 【46】 中国語(会話) II
- 【47】 日本語 I
- 【48】 日本語 II

#### ■教職■

- 【49】 教師論
- 【50】 教育心理学
- 【51】 教育制度論

#### ■学芸員■

- 【52】 生涯学習概論
- 【53】 博物館概論

# 服飾造形基礎Ⅰ（モードテクノロジー系）

水野 真由美・宮澤 光与・田原 美津子・井口 多恵子

1年 前期 モードテクノロジー系必修 (3単位 演習)

## ■授業の方針・概要

服飾造形のスカートに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。

## ■到達目標（学修成果）

服飾造形の基本アイテムとしてスカートのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解する。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目。専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目。基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、連携授業の進め方について 電子教材の活用、著作権について、実習用具・縫製機器の名称と使用方法等の説明、基本スカートについて、採寸方法、原型説明	予習：シラバスを読む 復習：再度製図をしてみる	30分 60分
2回	スカート各種、名称・パターン説明 スカートのリサーチについて（グループワーク実習） ポートフォリオについて	予習：スカートの種類、名称を調べる 復習：リサーチをする	30分 60分
3回	布の種類・地直しの仕方について、 ミシン基本操作：直線ミシン	予習：地直しの方法について調べておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 30分
4回	ミシン基本操作：ロックミシン 手縫い：まつり縫い各種	予習：手縫いの名称を調べておく 復習：遅滞箇所を行う	30分 30分
5回	基本製図：スカート実物大製図 スカート制作について（サイズ、デザイン、布等）	予習：1/2大で製図をしてみる 復習：布選択、地直し	60分 120分
6回	スカートリサーチ発表（グループごと） トレース方法について、スカート型紙作成	予習：発表準備まとめ、電子教材の閲覧 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	90分 60分
7回	実物製作① 裁断・印入れ 小試験	予習：印入れの方法を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
8回	実物製作② 表生地縫製	予習：スカートの縫製を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
9回	実物製作③ 裏生地縫製	予習：裏地の機能について調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
10回	スカートのあきとウエストの始末の種類・縫製方法 （コンシールファスナー付け、見返し始末）	予習：洋服のあきについて調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
11回	実物製作④ あきの始末 （フラットファスナー付け・表裏の合わせ）	予習：ファスナーの種類を調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
12回	実物製作⑤ ベルト作り・付け	予習：ベルトについて調べる 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
13回	実物製作⑥ 仕上げ縫製、アイロン、提出	予習：着装方法を考えておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
14回	応用製図：基本スカートからの展開・縫製方法	予習：スカートの種類を書き出しておく 復習：作業内容確認・遅滞箇所を行う	30分 30分
15回	スカート縫製評価 小試験 スカートプレゼンテーション・まとめ	予習：発表準備、縫製の直し確認 復習：基本スカートの製図	60分 60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題によるが、14回目までに評価・解説のできるものは、授業内で返却する。小試験・レポート等の添削については、各担当教員から、別途返却の日程を伝達する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II、電子教材

## ■参考文献

図解服飾用語事典、その他（必要に応じ授業・マナバコースで紹介）

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー、研究室については、各クラス第1回目の授業に指示します。

## ■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は、進捗状況により異なるので各自、必要分を行うこと。記載は最低限の時間である。遅滞課題、わからない箇所がある場合は、サポート授業に参加するようにする。



# 服飾造形基礎Ⅰ (ファッションビジネス系)

笹部 小百合・田原 美津子・井口 多恵子

1年 前期 ファッションビジネス系必修 (3単位 演習)

## ■授業の方針・概要

服飾造形のスカートに関する製図方法と基礎的な知識や製作技術を修得する。アパレル企業での経験を授業に取り入れ、生産現場の基本的スキルを学んでいく。

## ■到達目標 (学修成果)

この科目を履修することにより、スカートの基本製図、縫製等が出来るようになる。またその他のスカートの製図方法を学び応用力を身に付けることを目指す。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目である。専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目である。基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、連携授業の進め方について 電子教材の活用、著作権について 実習用具・縫製機器の名称と使用方法などの説明 基本スカートについて、採寸方法、スカート実寸大製図 スカートの素材について (グループワーク)	予習：シラバスを読む、採寸方法の確認	30分
		復習：スカート計測項目、係争方法の見直し	30分
2回	スカート実寸大製図 生地相談	予習：スカート生地を調べる・探す	60分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
3回	スカート実物制作：型紙作成 ミシン基本操作 直線ミシン ロックミシン	予習：基本スカートの製図の確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
4回	まつり縫い4種 グループワークプレゼンテーション	予習：手縫いについて読む 素材についてグループでまとめる	60分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
5回	スカート実物制作：表地裁断、印付け	予習：裁断、印付けについて読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
6回	スカート制作：表地縫製 小試験	予習：表地の縫製方法について読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
7回	スカート実物制作：ファスナー付け	予習：ファスナー付けについて読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
8回	スカート実物制作：裏地裁断、印付け 裏地縫製	予習：裏地の縫製方法について読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
9回	スカート実物制作：表地・裏地の合わせ ベルト作り	予習：ベルト作りについて読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
10回	スカート実物制作：ベルト付け	予習：ベルト付けについて読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
11回	スカート実物制作：糸ループ、カギホック付け 仕上げ	予習：糸ループ、カギホック付けについて読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
12回	応用スカートの製図方法	予習：スカートの種類について調べる	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
13回	応用スカートの製図方法	予習：スカートの種類の製図方法を読む	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
14回	スカートのあきについて 種類・縫製方法	予習：ファスナーの種類を調べる	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	60分
15回	スカートプレゼンテーション、小試験 まとめ	予習：ファイルをもとめる プレゼンテーション準備	60分
		復習：スカート、ファイル直し	60分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小試験後、採点返却と解説また15回目に作品を評価

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II、電子教材

## ■参考文献

図解服飾用語事典 その他 (必要に応じ授業・マナバコースで紹介)

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。

■備考 進捗により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

# 服飾造形基礎Ⅱ (モードテクノロジー系)

水野 真由美・宮澤 光与・田原 美津子・井口 多恵子

1年 後期 モードテクノロジー系必修

( 3単位 演習 )

## ■授業の方針・概要

服飾造形のブラウスに関する製図方法と基礎的な知識や技術を修得する。

## ■到達目標 (学修成果)

服飾造形の基本アイテムとしてブラウスのパターンメイキング、縫製方法を学修し、制作プロセスを理解する。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目。専門科目、服飾関係科目の初年次の演習科目。服飾造形基礎Ⅰに続き、基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	連携授業の進め方について、著作権について、原型について、採寸方法、身頃原型説明 1/2 大製図 (原型、袖) ブラウスのリサーチについて (グループワーク実習) ポートフォリオについて	予習: 採寸方法について調べる 復習: 原型をかいてみる	30分 60分
2回	ブラウスの種類、名称・パターン説明	予習: ブラウスの種類を調べておく 復習: リサーチを行う	30分 60分
3回	基本製図: 1/2 大製図 (身頃・ショールカラー・袖) 応用製図: 1/2 大製図 袖 (タイトスリーブ)	予習: テキストの手順を確認する 復習: 製図を見直す	45分 45分
4回	応用製図: 1/2 大製図 台衿付シャツカラー、フラットカラー、パフスリーブ、 ビショップスリーブ ブラウスリサーチ発表 (グループごと)	予習: 発表準備 テキストの手順を確認する 復習: 製図を見直す	45分 45分
5回	ブラウス制作について (サイズ、デザイン、布等) ブラウスの前あきについて 前立ての縫製方法について	予習: 服のあきについて調べておく 復習: 布選択、遅滞箇所を行う	30分 60分
6回	ブラウスのあきと衿付けの種類・縫製方法 (前立ての縫製方法 2種と台衿付きシャツカラー)	予習: 衿の種類を調べておく 復習: テキストを見る、遅滞箇所を行う	30分 45分
7回	基本製図: 実物大製図 (タイトシルエット) 小試験	予習: テキストの手順を確認する 復習: 遅滞箇所を行う	30分 30分
8回	基本製図: 実物大製図 (ショールカラー、袖)	予習: テキストの手順を確認する 復習: 遅滞箇所を行う	30分 30分
9回	ブラウス型紙作成 実物製作① 裁断 (表地、芯地)	予習: 地直しをしておく 復習: 遅滞箇所を行う	45分 30分
10回	実物製作② 芯接着・印入れ 縫い代始末	予習: 接着芯の選択 復習: 作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
11回	実物製作③ ダーツ縫い、肩縫い 衿作り	予習: 縫製のためのしつけを行う 復習: 作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
12回	実物製作④ 衿付け、脇縫い 袖作り	予習: 縫製のためのしつけを行う 復習: 作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
13回	実物製作⑤ 袖付け、裾始末 ボタン付け、ボタンホール	予習: ボタンの選択 復習: 作業内容の確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
14回	実物製作⑥ 仕上げ縫製、アイロン、提出 応用製図: 衿・袖各種製図方法	予習: 着装方法を考えておく 復習: 作業内容を確認・遅滞箇所を行う	30分 60分
15回	ブラウス縫製評価 小試験 ブラウスプレゼンテーション・まとめ	予習: 発表準備 復習: ブラウスの製図	60分 60分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題によるが、14回目までに評価・解説できるものは、授業内で返却する。小試験・レポート等の添削については、各担当教員から、別途返却の日程を伝達する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING I 電子教材

## ■参考文献

図解服飾用語事典、その他 (必要に応じ授業・マナビコースで紹介)

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー、研究室については、各クラス第1回目の授業に指示します。

## ■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は、進度状況により異なるので各自、必要分を行うこと。記載は最低限の時間である。遅滞課題、わからない箇所がある場合は、サポート授業に参加するようにする。

# 服飾造形基礎Ⅱ (ファッションビジネス系)

笹部 小百合・田原 美津子・井口 多恵子

1年 後期 ファッションビジネス系必修 (3単位 演習)

## ■授業の方針・概要

服飾造形のブラウスに関する製図方法と基礎的な知識や製作技術を修得する。アパレル企業での経験を授業に取り入れ、生産現場の基本的スキルを学んでいく。

## ■到達目標 (学修成果)

この科目を履修することにより、ブラウスの基本製図、縫製等が出来るようになる。またその他のブラウスの製図方法を学び応用力を身に付けることを目指す。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目である。専門科目、服飾関係科目の初年次必修の演習科目である。基本アイテムにおける服の構造を学修し、専門コースでの学修へ繋げていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	連携の授業の進め方について、著作権について、ドレメ式原型について 採寸方法の説明、ドレメ式原型実寸大製図 ブラウスの素材について (グループワーク)	予習: シラバスを読む	30分
		復習: 用具の名称、原型について読み返す	30分
2回	ドレメ式原型実寸大製図 (身頃)	予習: ドレメ式原型の製図方法 (身頃) について読む	30分
		復習: 採寸箇所名称の見直し	30分
3回	ドレメ式原型実寸大製図 (袖) ブラウスについて、ブラウス実寸大製図	予習: ドレメ式原型の製図方法 (袖)、ブラウスの製図方法について読む	60分
		復習: 原型製図方法、パターン記号の見直し	30分
4回	ブラウス実寸製図 (身頃) グループワークプレゼンテーション	予習: 素材についてグループでまとめる	60分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
5回	ブラウス実寸大製図 (衿)、生地相談	予習: ブラウスの製図方法について読む	60分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
6回	ブラウス実寸大製図 (袖)、型紙作成	予習: 生地の地直し、裁断、印付け方法について読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
7回	ブラウス実物制作: 生地裁断、接着芯裁断 印付け、小試験	予習: 縫製機器の使用方法について読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
8回	ブラウス実物制作: 縫製 ダーツ縫い、縫い代の始末 肩縫い、	予習: ミシン、ロックミシンの使用方法について読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
9回	ブラウス実物制作: 縫製 衿作り 袖作り	予習: 衿、袖作りについて読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
10回	ブラウス実物制作: 縫製 衿付け 脇縫い	予習: 衿付けについて読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
11回	ブラウス実物制作: 縫製 袖付け	予習: 袖付けについて読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
12回	ブラウス実物制作: 縫製 裾縫い ボタン付け、ボタンホール	予習: ボタン付け、ボタンホールについて読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
13回	ブラウス実物制作: 仕上げ 応用ブラウスの製図方法	予習: ブラウスの種類について調べる	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
14回	応用ブラウスの製図方法 プレゼンテーションについて	予習: 各種ブラウスの製図方法を読む	30分
		復習: 遅滞している箇所の作業	60分
15回	ブラウスプレゼンテーション、小試験 まとめ	予習: ファイルをまとめる、プレゼンテーション準備	60分
		復習: ブラウス、ファイル直し	60分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小試験後、採点返却と解説また 15 回目に作品を評価

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING I、電子教材

## ■参考文献

図解服飾用語事典 その他 (必要に応じ授業・マナビコースで紹介)

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。

## ■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

**流通・商業入門**

六嶋 俊太

1年 後期 必修 (2単位 講義)

**■授業の方針・概要**

本講義では、ビジネスに関わる学問の初学者を対象として、企業活動および消費現象を思考するためのコンセプト（概念）・理論枠組みを提供する。受講生は、学んだコンセプト・理論枠組みを、現実の企業や現象に当てはめ思考する演習（グループワーク）を通して、知識を習得し、活用する力を身につけることが求められる。上述した一連の活動を通して、本講義は、商業、すなわち需要と供給を結びつけることで利益を得る事業の仕組みや、流通、すなわち製品・サービスを消費者に適切に提供する仕組みの理解を深めることを目的とする。

**■到達目標（学修成果）**

- ① 流通・商業に関わるコンセプト・理論枠組みを理解し、企業活動および消費現象を思考する能力を身につける
- ② 講義で学んだ内容を具体的な現象に当てはめ、それらを他者に分かりやすく伝達する能力を身につける

**■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連**

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の共通必修で、ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

**■授業計画**

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション	予習：シラバスを読む。 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	15分
2回	企業とその活動について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
3回	マーケティングについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
4回	マーケティング・ミックスについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
5回	製品ライフサイクルについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
6回	業界構造とサプライチェーンについて	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：グループ・プレゼン資料の作成	30分
7回	グループ・プレゼンテーション（1回目）	予習：グループ・プレゼン資料の作成 復習：発表へのフィードバックを振り返る	30分
8回	企業を取り巻く市場環境について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
9回	ブランドの役割について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
10回	消費者行動について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
11回	消費文化理論（CCT）について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
12回	企業活動の倫理的側面について	予習：授業のキーワードについて調べる 復習：グループ・プレゼン資料の作成	30分
13回	グループ・プレゼンテーション（2回目）	予習：グループ・プレゼン資料の作成 復習：発表へのフィードバックを振り返る	30分
14回	講義内容の振り返り	予習：配布資料をもとに講義内容を振り返る 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	30分
15回	まとめ	予習：配布資料をもとに講義内容を振り返る 復習：配布資料をもとに講義内容を振り返る	60分

**■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法**

評価基準を説明した上で、授業内で2回グループ・プレゼンテーションの機会を設け、フィードバックを行います。筆記試験に関しては、試験終了後、正答を「manaba」に公開します。それぞれの点数の公開については初回授業で学生と相談の上、決定します。

**■成績評価の方法・基準**

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	内、グループ・プレゼン：40%、授業内試験：30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

**■教科書** なし

**■参考文献**

各回の配布資料に掲載します。

**■オフィスアワー・研究室**

質問等があればメールにて受付けます。詳細は初回授業で説明します。

**■備考**

「manaba」へアクセスが可能な状態にしておいてください。ノートPCをお持ちの受講生は、積極的に持参してください。

# ファッションビジネス概論

五月女 由紀子

1年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

ファッションビジネスは、商品でクリエイションを表現する一方で、顧客満足と企業の利益の双方を実現することを目的としている。日本の繊維・アパレル業界は21世紀に入り、小売の業態転換、ネットビジネスの発展が顕著であり、コロナ禍以降はさらに加速化した。服飾大学に学ぶ学生は、卒業後にファッション業界で働く比率が高いことを前提に、基本的な業界構造と歴史を学び、川上から川下までの機能と役割を理解する。既製服が成立した歴史と背景、商品企画から海外生産の現状、昨今伸びてきたオンラインビジネスと店舗の関係、海外展開など、ファッションビジネスの基礎を学ぶ。担当教員の10年以上のアパレル企業での勤務経験を活かし、企業の事例を中心に展開していく。

## ■到達目標（学修成果）

第一にファッションビジネスの業界構造を把握し、ファッション商品がどのような工程を経て企画生産され、消費者の手に渡るかを理解する。第二に昨今のファッションビジネスの現場の新しい動向を理解する。最終的に、2年次からの各自の専門コースで活用できるファッションビジネスの基本知識を獲得することを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門必修科目の単位となり卒業要件科目となります。ファッション業界で働くために必要な、ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションビジネスの定義と特性	予習：シラバスを読む	30分
2回	繊維・アパレル業界の構造と職種（川上～川中～川下）① 川上のデザイナーの動画視聴	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
3回	繊維・アパレル業界の構造と職種（川上～川中～川下）②	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
4回	日本のアパレル業界 川中+川下のSPA（アパレル製造小売）業態への転換	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
5回	日本のSPAの商品企画の外部化（OEMメーカー、ODMメーカーの機能補完と活用）	復習：課題をマナバに提出する。	60分
6回	日本のアパレル業界の歴史 日本のアパレルメーカー（アパレル製造卸）と百貨店の発展	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
7回	マーチャンダイジングとは アパレルMDとリテールMDの違い、多品種少量生産について	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
8回	日本のアパレル製品の海外生産の現状 中国、ASEAN、南アジアでの生産	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
9回	ファッションビジネスの歴史① パリのオートクチュール： デザイナービジネスの萌芽	復習：課題をマナバに提出する。	60分
10回	ファッションビジネスの歴史② パリのオートクチュール： ブランド戦略と香水ビジネス（シャネルの事例）	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
11回	ファッションビジネスの歴史③ プレタポルテとライセンス ビジネス（既製服：大量生産 デイオールとサンローラン）	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
12回	ファッションECビジネスの発展 ECモールと自社サイト、さ（撮影）さ（採寸）げ（原稿）	復習：復習：課題をマナバに提出する。。	60分
13回	オムニチャネル、OMO（Online Merges with Offline） オンライン（EC）オフライン（リアル店舗）の融合	復習：考察事案について、次回に向けて文献、ネットなどを調べて整理する。	30分
14回	店舗スタッフのオンライン接客 （スタッフスタート、ライブコマース等）	復習：最終課題をマナバに提出する。	60分
15回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：課題を振り返る	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内に複数回の課題をマナバで提出してもらい、フィードバックをする。提出課題の総合点を採点とする。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 教員が作成した資料を配布するため、各自管理を行うことが必須である。

## ■参考文献

「ファッションビジネスⅠ 改訂版」（ファッションビジネス能力検定試験3級準拠）

財団法人 日本ファッション教育振興協会

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日時は授業初回に提示する。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207教室）

■備考 なし

# ファッション・フィールド・リサーチ

大方 和則・福田 宜央

1年 前期又は後期 必修 (1単位 演習)

## ■授業の方針・概要

都内の主要な商業施設の店舗調査(リサーチ)を通じて、現代的な商業施設の特性やトレンドの体験的な理解を進めていく科目です。現在の市場において優位性の高い商業施設(ファッションビル、駅ビル、セレクトショップ、路面店・リセールショップなど)の分類を把握しながら、立地特性の把握、定点調査の実施、各カテゴリーの訴求するトレンド情報の調査・分析、客層調査・分析、VMD調査・分析、それらのグループワーク及び発表など、実践的な演習、アクティブラーニングを通して理解を深めていきます。本科目は、担当教員3名の長年の実務専門分野(アパレルショップ運営・定点調査・VMD・商品企画の実務経験)を生かした授業運営となります。

## ■到達目標(学修成果)

この科目を通して、①都内主要エリアの特性を理解できます。②業態毎の特性の理解を深められます。③店舗調査及び分析の手法が身に付きます。④顧客の差異やMDラインナップの店舗毎の違いとその戦略を理解できます。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位であり、全学生の共通必修科目となります。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	フィールドリサーチの基本的確認と注意事項 ・ファッションリテール業態別の特徴 ・グループ分け、エリア決め(渋谷エリア・原宿エリア)	予習:シラバスの確認 復習:今後行うリサーチエリアの確認 グループ内での情報共有の確認	30分
2回	フィールドリサーチ①渋谷エリア(1) 渋谷パルコ:コンセプトショップを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
3回	フィールドリサーチ②原宿エリア(1) キャットストリート:原宿と渋谷を繋ぐ裏通り沿いの気になるショップや、ブランドをリサーチ	予習:原宿エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
4回	フィールドリサーチ③渋谷エリア(2) 渋谷スクランブルスクエア:コレクションブランドを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ 渋谷エリア:定点観測(1)	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
5回	フィールドリサーチ④原宿エリア(2) ラフォーレ原宿:ヤングコンセプトブランドを中心に気になるブランド、施設全体をリサーチ 原宿エリア:定点観測(1)	予習:原宿谷エリアの確認 復習:レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
6回	フィールドリサーチ⑤渋谷エリア(3) 宮下パーク:トレンド最先端のラグジュアリーブランド、施設全体をリサーチ	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
7回	フィールドリサーチ⑥原宿エリア(3) 表参道ヒルズ:トレンド最先端のラグジュアリーブランド、施設全体をリサーチ	予習:原宿エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
8回	フィールドリサーチ⑦渋谷エリア(4) 渋谷ヒカリエ:施設全体、気になるブランドをリサーチ 渋谷エリア:定点観測(2)	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
9回	フィールドリサーチ⑧原宿エリア(4) オモカド:施設全体、気になるブランドをリサーチ 原宿エリア:定点観測(2)	予習:原宿エリアの確認 復習:レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
10回	フィールドリサーチ⑨渋谷エリア(5) 渋谷・神南界限:UA, BEAMS等のセレクトショップや海外SPAを中心に気になるショップ、エリアをリサーチ	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
11回	フィールドリサーチ⑩原宿エリア(5) 原宿界限:原宿エリアを中心に気になる古着ショップをリサーチ	予習:原宿エリアの確認 復習:レポートの作成	60分
12回	フィールドリサーチ⑪渋谷エリア(6) 渋谷サクラステージ:施設全体、気になるブランドをリサーチ 渋谷エリア:定点観測(3)	予習:渋谷エリアの確認 復習:レポートの作成、渋谷エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
13回	フィールドリサーチ⑫原宿エリア(6) ハラカド:施設全体、気になるブランドをリサーチ 原宿エリア:定点観測(3)	予習:原宿エリアの確認 復習:レポートの作成、原宿エリアの定点観測の調査書をまとめる	80分
14回	最終プレゼンテーションに向けての準備 ・チームごとのディスカッション ・プレゼン練習等	予習:グループ内での情報共有の確認 復習:最終プレゼンテーションの準備	80分
15回	フィールドリサーチのまとめとグループプレゼンテーション	総括:グループプレゼンテーション	40分

## ■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

レポートは、リサーチ翌週の授業点呼で回収。回収したレポートは期末成績が完了後に一括返却します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

レポートにおいて、各施設に共通してみられるキーワードをより多く見付け、画像や分析コメントなどの情報量の多さ、ビジュアル面による表現力の高さで評価する

■教科書 毎回、リサーチする店舗の参考資料を資料又はデータで配布します。

■参考文献 必要に応じて随時お知らせします。

■オフィスアワー・研究室 第1回目の授業で指示。出講日:前期/木曜日 後期/火曜日 連絡先:教務課(本校舎1階)

■備考○商業施設等の状況により場所や順番の変更をすることがあります。(掲示板・マナバを確認すること)

○各施設・各店舗でのルールに留意しながら、団体ではなく個人・チームでリサーチを行ってください。

○外出機会が多いため、店頭での常識ある態度、礼儀、ショップ内の撮影には店員の承諾を得る等を十分注意すること。

○レポート提出が評価の中心になるため期日厳守。またリサーチにかかる交通費は各自負担となります。

# 衣服材料学

三代 かおる

1年 前期又は後期 必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

衣服を構成する要素として衣服材料は重要な役割を果たしており、衣服材料の知識は服飾に関するすべての分野において必要な基本知識である。衣服材料の物理的・化学的性質を理解し、それぞれの特徴を把握することは、衣服を作り出していく上で重要な基礎となることを、身近な材料として興味を持ちながら身につけていけるように配慮する。

## ■到達目標（学修成果）

衣服材料の基礎的知識の習得により、衣服の設計製作において目的に応じた適切な材料の選択ができ、自分の着ている衣服の素材や店頭の衣服に用いられている材料について、説明できるレベルの到達を目指す。また、衣服材料を詳しく理解することでその着心地や管理方法にも関連づけて興味を持てることを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、服飾造形に繋がる衣服材料の基礎を学習する科目。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 衣服材料学とは	予習:シラバスを読む。教科書で繊維名を確認しておく。	20分
2回	繊維の分類	復習:教科書を読み、繊維の分類を理解する。	30分
3回	繊維の物理的性質	復習:教科書を読み、物理構造と強伸度曲線を理解する。	30分
4回	繊維の化学的性質	復習:教科書を読み、化学構造と吸水性吸湿性の関係を理解する。	30分
5回	植物繊維	復習:教科書を読み、植物繊維についてノートにまとめる。	30分
6回	動物繊維 天然繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、動物繊維についてノートにまとめる。	30分
7回	再生繊維	復習:教科書を読み、再生繊維についてノートにまとめる。	30分
8回	半合成繊維 化学繊維のまとめプリント配布	復習:教科書を読み、半合成繊維についてノートにまとめる。	30分
9回	合成繊維	復習:教科書を読み、合成繊維についてノートにまとめる。	30分
10回	改良化学繊維	復習:教科書を読み、改良化学繊維についてノートにまとめる。総復習。	120分
11回	繊維総復習試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
12回	繊維の燃焼実験 レポート提出	予習:繊維の分類を確認する。	20分
13回	糸の分類	復習:教科書を読み、糸の分類をノートにまとめる。	30分
14回	織物、編物の構造	復習:授業すべての総復習をし、理解を深める。	120分
15回	まとめ 課題(試験やレポート等)のフィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	20分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

配布したプリントの解説、授業内復習試験により繊維の知識を定着させる。繊維の燃焼実験を行い、細部まで観察して繊維についての理解を深め、レポートを個別に添削返却して解説する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

鈴木美和子ほか著、新版アパレル素材の基本、織研出版社、2018

## ■参考文献

授業内で適宜紹介する。

## ■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

後期 水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

## ■備考 必ず教科書を持ってくること。

## 西洋服飾文化史

鈴木 桜子

1年 前期又は後期 必修 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

現在、私たちは洋服を着た生活をしています。しかし日本における洋服の歴史は実質100年の歩みでしかありません。私たちが日本で洋服を着るようになるその背後には、西洋文化の中で培われてきた何千年もの歴史があるのです。

本授業の方針として、有史以来、民族、地域、風土、宗教によって形成されてきた西洋文化を服飾の視点から探っていき、また身体－衣服－空間の視点から時代の美しさを表わしてきた芸術・建築様式との関連性を重視していきます。

## ■到達目標（学修成果）

古代から近代に至る西洋服飾文化を理解することにより、現代～未来に繋がる衣文化形成への視座を持つことが目標です。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は基本的な服飾の成立ちを理解する上でモードテクノロジー系、ファッションビジネス系両系の必修科目であり卒業要件科目です。また学芸員課程の履修科目の一つになっています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 服飾と様式について	シラバスの確認	10分
2回	I. 古代 エジプト様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
3回	ギリシャ様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
4回	ローマ様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
5回	II. 中世 初期キリスト様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
6回	ビザンティン様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
7回	ロマネスク様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
8回	ゴシック様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
9回	III. 近世 ルネサンス様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
10回	バロック様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
11回	ロココ様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
12回	IV. 近代 新古典主義様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
13回	ロマン主義	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
14回	歴史主義様式	復習：前回ノートの確認+manaba復習	30分
15回	時代区分と様式美のまとめ、 ヨーロッパ地図の確認	予習：これまでのノート+manaba復習 の確認	40分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提出するノートプリントは次回授業時に返却します。また進度に合わせてノートプリント評価をして授業内でフィードバックします。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ノートプリントの提出  
※manabaを利用した復習の取組み  
※授業内小テスト

## ■教科書

なし

## ■参考文献

必要に応じて授業内で紹介します。

## ■オフィスアワー・研究室

初回授業でお知らせします。

## ■備考

授業時間外では、本学の図書館や衣裳博物館を大いに利用しましょう。さらにファッション展や建築・デザイン展などの展覧会がある場合にはできるだけ足を運んで実際の作品に触れるようにしましょう。またファッション分野だけではなく、常に広い視野をもって過去・現在・未来を見据えていきましょう。



## ファッション画Ⅰ

福地 宏子・数井 靖子・小林 玲

1年 前期 必修 (1単位 演習)

## ■授業の方針・概要

ファッションイメージを的確に表現し伝達するために、人体のプロポーション・服の構造・生地や素材・服の型のみを描くハンガーイラストの表現を学び、人体と服についての理解を深めます。

## ■到達目標（学修成果）

- ・基本のプロポーション（8頭身）にそって、服のバランスを的確に描くことができる
- ・服の構造やディテールの理解、ハンガーイラストの描き方を修得できる

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシーでは、モードテクノロジー系・ビジネス系ともに必修科目となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	・教材、授業計画の確認 【人体のプロポーション】8頭身の基本バランス	【予習】履修便覧を読んでおく 【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
2回	【ポーズのバリエーション】 片脚重心のポーズ	【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
3回	【顔のプロポーション】正面、横、斜めの基本バランス (ヘアスタイルの表現も含む)	【復習】顔のプロポーションの反復練習 【予習】ヘアスタイルのリサーチ・資料収集	60分
4回	【肌、ヘアスタイル、メイクの着色①】 (主にマーカー、色鉛筆) 画材の着色方法・画材の使用例	【予習】課題仕上げに向けた資料収集 下描きの完成	60分
5回	【肌、ヘアスタイル、メイクの着色②】	【復習】顔・ヘアスタイルのスケッチ	60分
6回	【シャツ&スカートの着装①】 ・洋服を着装させる際のポイント ・生地の動き、しわ等の描写表現	【予習】シャツ・スカートのデザインリサーチ 【復習】人体のプロポーションの反復練習	60分
7回	【シャツ&スカートの着装②】 ・シャツとスカートの種類を描き分ける ・着色	【復習】アイテム着装の練習	60分
8回	【シャツ&スカートの着装③】 ・着色 ・仕上げ	【復習】様々なシャツ、スカートのスケッチ	60分
9回	【ハンガーイラスト①】 ・スカート（タイト、ギャザー、フレアー、プリーツ） ・シャツ、ブラウス（衿、袖等のディテール表現も含む）	【復習】ハンガーイラスト反復練習	60分
10回	【ハンガーイラスト②】	【復習】ハンガーイラスト反復練習	60分
11回	【ハンガーイラスト③】	【復習】ディテールのスケッチ練習	60分
12回	【ワンピースの着装①】 ・ワンピースのデザインについて ・デザインバリエーション(ハンガーイラストも含む) ・着色	【予習】ワンピースのデザインリサーチ	60分
13回	【ワンピースの着装②】	【復習】アイテム着装の練習	60分
14回	【ワンピースの着装③】	【復習】様々なワンピースのスケッチ	60分
15回	・まとめ・合評会	【復習】半期課題を振り返る	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題の添削の際にはコメントやアドバイスの記入をして、次回以降の授業で返却する。

課題によっては、返却時にクラスメイトの課題を閲覧する時間を設けて、意見交換やアドバイスを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

「ファッション画法」

## ■参考文献

なし

## ■オフィスアワー・研究室

【オフィスアワー】第1回目の授業時に指示する

【研究室】ファッション画研究室 研究棟2階 6025

## ■備考

- ・授業に必要な道具や参考資料は必ず時間前に準備すること
- ・進度により授業計画が変更になる場合もある

## ファッション画Ⅱ

福地 宏子・数井 靖子・小林 玲

1年 後期 必修 (1単位 演習)

## ■授業の方針・概要

服のシルエット、素材、色彩等を意識し、デザインの正確な描写をトレーニングすることで、ファッション画Ⅰで修得した知識と技術を発展させていきます。幅広いファッションジャンルに対して目を向け、自身の好みや世の中の流行を意識することを心がけます。

## ■到達目標（学修成果）

- ・生地や素材感を意識した描写ができる
- ・様々なアイテムに対しての着装表現、ハンガーイラストの描き方を修得できる

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシーでは、モードテクノロジー系・ビジネス系ともに必修科目となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【素材や柄の描写表現①】 画材を活かした表現方法(マーカー・色鉛筆 等)	【予習】履修便覧を読んでおく	10分
2回	【素材や柄の描写表現②】	【復習】様々な素材や柄の表現練習	60分
3回	【テーラードジャケット①】 ・ジャケットの説明 ・着装とハンガーイラスト	【予習】ジャケットのデザインリサーチと資料収集	60分
4回	【テーラードジャケット②】	【復習】ジャケットのスケッチ	60分
5回	【テーラードジャケット③】	【復習】ジャケットのスケッチ	60分
6回	【コート①】(羊毛、獣毛素材などの毛織物) ・着装とハンガーイラスト ・素材表現 ・帽子、バッグ、靴 等の小物表現も含む	【予習】コートのデザインリサーチと資料収集	60分
7回	【コート②】	【復習】ファッション小物のスケッチ	60分
8回	【コート③】	【復習】素材描写の練習	60分
9回	【子供服①】 ・年齢によるプロポーションの変化、ポーズの表現を含む ・ハンガーイラスト ・素材表現	【予習】子供服のデザインリサーチと資料収集	60分
10回	【子供服②】	【復習】年齢によるプロポーションの変化と着装バランスを練習	60分
11回	【メンズファッション①】 ・プロポーションの練習 ・着装表現	【予習】メンズファッションの参考資料の収集	60分
12回	【メンズファッション②】	【復習】プロポーションの反復練習	60分
13回	【scene に合わせたファッション提案①】 ・TPO を設定し、デザインやコーディネートを提案する	【予習】自身の提案内容を確認し、資料収集と課題進行の準備	60分
14回	【scene に合わせたファッション提案②】	【復習】自身の提案内容を振り返る	60分
15回	【scene に合わせたファッション提案③】	【復習】半期課題を振り返る	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題の添削の際にはコメントやアドバイスの記入をして、次回以降の授業で返却する。

課題によっては、返却時にクラスメイトの課題を観覧する時間を設けて、意見交換やアドバイスを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

「ファッション画法」

## ■参考文献

なし

## ■オフィスアワー・研究室

【オフィスアワー】第1回目の授業時に指示する

【研究室】ファッション画研究室 研究棟2階 6025

## ■備考

- ・授業に必要な道具や参考資料は必ず時間前に準備すること
- ・進度により授業計画が変更になる場合もある

## ドローイングⅠa

瀬古 徹・土屋 純一

1年 前期又は後期 モードテクノロジー系必修 (2単位 演習)

## ■授業の方針・概要

1. 「立体」としての形態の把握
2. 服飾造形の出発点である「人体形態」の知識を、身に付ける  
この授業では、紙の上に「描画（ドローイング）」しながら、美術解剖学をベースにした人体骨格のイメージを「知識」として身に付けていく。この二点の相関関係を体験しながら授業は進行されていく。

## ■到達目標（学修成果）

1. 服飾造形に必要な最低限度の人体形態の知識を「体感的」に身に付けることが可能となる。「知る」ことによって「描くことができる」ようになり、「描くことができる」ようになることで、「知る」こととなる。
2. 運動に近い描画という行為（ドローイング）を訓練することで、見たこと、思いついたこと、そして感じたことをダイレクトに表現（＝絵を描くこと）することが出来るようになる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。服飾の根幹である「身体」についての「体感的知識」と「描画の運動能力」は、専門分野での発想に直結したイメージの抽出を通して、作品制作そのものの礎として全専門コースで活かされていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習；シラバスの確認	30分
2回	基本形態 →概念としての立体形態。立方体、円柱 [アクティブラーニング (A.L.)]	予習；鉛筆、色鉛筆の先端の削鋭を行う 復習；2点透視図（ドリンクパック）の完成	120分
3回	形態の把握 →リングをモチーフとし、「自然」の中に立体形態を探る。輪郭線の隠蔽、「稜線」の発見と強調 [A.L.]	復習；色鉛筆画材の描画方法の復習	30分
4回	人体構造について →美術解剖学に基づく骨格、プロポーション、位置関係。性差、人種差による形態イメージの比較	復習；人体における骨格の透過図の作成	60分
5回	模写から学ぶ人体構造 →過去の作品からの人体イメージ、S字の構造、重心線 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；模写の完成	120分
6回	立体構造としての人体の分析①② →運動する人体のイメージ①“箱”②“ワイヤードローイング” [A.L.]	予習；有機的、無機的基本形態の確認 復習；人体の箱状の立体分析の完成	60分
7回	人体骨格の即興的表現 →イメージクロッキー。動きの中の骨格。ドライブラシ技法の試行 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認	30分
8回	クロッキー →ヌードモデル。現実において人体の骨格構造を探る(4ポーズ) [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認	30分
9回	人体ドローイング（ワイヤードローイング） →ヌードモデル。現実において人体の表面から立体構造を探る(固定ポーズ) [A.L.]	予習；ワイヤードローイング（輪切りの形態の連続）としての立体把握の確認 復習；観察を通じた骨格把握のまとめ	60分
10回	人体と服① →体幹における人体と衣服の関係の分析 ポートフォリオ作成に関して [A.L.]	予習；人体の稜線、面の方向の確認 復習；ポートフォリオ作成に関して	30分
11回	人体と服① → “ ” [A.L.]	予習；固有色のための「下塗り」	120分
12回	人体と服② →全身における人体と衣服の関係の分析 [A.L.]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；人体と服②、下塗り完成	60分
13回	人体と服② → “ ” [A.L.]	復習；受講分析文、ポートフォリオ完成、2回～13回の復習	120分
14回	最終評価課題 →授業の内容の再確認、ポートフォリオの提出 [A.L.]	復習；人体の知識、立体表現の方法の専門への応用を考える	45分
15回	まとめ →最終評価課題作品、受講分析文、ポートフォリオの評価のフィードバック [A.L.]	復習；最終評価課題、受講分析文、ポートフォリオの評価に基づく、反省と発展	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・ 毎回の提出作品の採点后、次回授業最初に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。
- ・ 14回目提出のポートフォリオは、内容とそれぞれの受講分析に対して、各自に「評価コメント」を記述し15回目に返却する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	授業内容理解度、通常作品、最終評価課題作品、ポートフォリオ等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

授業の進行に合わせて、プリントを配付する

## ■参考文献 必要に応じて授業時に指示

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。連絡研究室：大学表現演習研究室（第3校舎1階）

## ■備考 なし

# ドローイングⅡb

瀬古 徹

1年 前期又は後期 ビジネス系必修 (2単位 演習)

## ■授業の方針・概要

- 1.ベーシックな「立体」としての形態の理解
- 2.服飾造形の出発点である「人体形態」の知識を、身に付ける  
この授業では、紙の上に「描画（ドローイング）」しながら、美術解剖学をベースにした人体骨格のイメージを「知識」として身に付けていく。この相関関係を体験しながら授業は進行されていく。

## ■到達目標（学修成果）

- 1.服飾に必要な最低限度の人体形態の様相を作画しながら「知る」こととなる
- 2.描くことを通じた感性表現の訓練と、企画等の段階でイメージの描画提案をすることを可能とする

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、必修科目である。服飾の根幹である「身体」についての体感的知識と描画の運動能力は、その上の製品が機能する客観的事実の理解を軸とした、基盤となり、活かされていく。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習；シラバスの内容の確認	30分
2回	基本形態 →概念としての立体形態。立方体、円柱 瞬間の立体表現 [アクティブラーニング (A.L)]	予習；鉛筆、色鉛筆の先端の削鋭を行う 復習；2点透視図（ドリンクパック）の完成	120分
3回	形態の把握 →リングをモチーフとし、「自然」の中に立体形態を探す。輪郭線の隠蔽、「稜線」の発見と強調 [A.L]	復習；色鉛筆画材の描画方法の確認	30分
4回	手の形態 →幾何形態構造から解剖学的プロポーションへ [A.L]	予習；軽い筆圧での大きな形態表現の確認 復習；人体の部分における骨格の確認	60分
5回	人体構造について →美術解剖学に基づく骨格、プロポーション、位置関係。性差、人種差による形態イメージの比較 [A.L]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；人体における骨格の透過図の作成	120分
6回	模写から学ぶ人体構造 →過去の作品からの人体イメージ、S字の構造、重心線 [A.L]	予習；骨格の形態と位置関係の確認 復習；模写の完成	30分
7回	人体骨格の即興的表現 →イメージクローッキー。幾何学的構造（正面、背面）動きの中の骨格（正面、背面） [A.L]	予習；有機的、無機的な基本形態の確認 復習；人体骨格の大きな位置関係の確認	30分
8回	立体構造としての人体の分析①② →運動する人体のイメージ① “箱”② “ワイヤードローイング” [A.L]	予習；人体の箱状の立体把握の確認 復習；稜線、正中線の確認	60分
9回	人体ドローイング →ヌードモデル。現実において人体を直線で捉える（固定ポーズ） [A.L]	予習；7回課題の確認。鉛筆、色鉛筆の先端の削鋭を行う	60分
10回	人体ドローイング →ヌードモデル。現実において人体の表面から立体構造を探す（固定ポーズ） [A.L]	予習；ワイヤードローイング（輪切りの形態の連続）としての立体把握の確認 復習；現実の人体の理解	60分
11回	写真から拾う →服飾イメージ、ディティール、皺等の選択、強調 ポートフォリオ作成に関して [A.L]	予習；9回課題の再確認 復習；ポートフォリオ作成に関して	60分
12回	シャツを描く① →模写から学ぶ表面表情。美術作品からの服飾イメージ、ディティール、皺等の選択、強調 [A.L]	予習；鉛筆、色鉛筆の先端の削鋭 復習；ディティールと全体の関係の考察	90分
13回	シャツを描く② →正中線からの描画。ハンガーイラストへ [A.L]	予習；形態の幾何学的把握 復習；ポートフォリオ完成	90分
14回	最終評価課題 →授業の内容の再確認、ポートフォリオの提出 [A.L]	予習；人体の知識、表現の方法の専門への応用を考える	45分
15回	まとめ →最終評価課題作品、受講分析文、ポートフォリオの評価のフィードバック [A.L]	復習；最終評価課題、受講分析文、ポートフォリオの評価に基づく、反省と発展	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・毎回の提出作品の採点后、次回授業最初に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。
- ・14回目提出のポートフォリオは、内容とそれぞれの受講分析に対して、各自に「評価コメント」を記述し15回目に返却する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	授業内容理解度、通常作品、最終評価課題作品、ポートフォリオ等
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

授業の進行に合わせて、プリントを配付する

## ■参考文献

必要に応じて授業時に指示

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示。連絡研究室：大学表現演習研究室（第3校舎1階）

## ■備考

なし

# 経営学入門

宮木 一平

1年 前期又は後期

ビジネス系必修・モードテクノロジー系選択

( 2単位 講義 )

## ■授業の方針・概要

「よのなか」のしくみを知っておくと、生きてゆくうえで便利です。「よのなか」は様々な要素から成り立っています。その中でも、「会社」はとびっきり重要です。実際、僕らの日々の生活を支えるモノやサービスの多くは、「会社」によって作り出され、提供されています。また、多くの人々が「会社」で働き、給料をもらって生活しています。

「会社」って何だろう？「会社」という組織はどのように出来上がっていて、どのように動いているのだろうか？（また、動かしているのだろうか？）これらのことを知っておくと、この「よのなか」で生きてゆくうえでとても役立ちます。もちろん、将来「会社」に勤めたい、これからビジネスをスタートさせたい、自分のショップを持ちたい、「会社」を作りたいという人にとっては言うまでもありません。現在の、そしてこれからの「会社」の姿、「よのなか」の姿をわかりやすくお伝えします。以下に掲げた授業計画はあくまでもスタート時点での予定です。受講生と顔をあわせ意見交換をしながら要望に随時応えてゆきたいと思います。講義のネタとして、就活に役立つ情報、ホットな新聞記事、ニュースなどを多用します。

## ■到達目標（学修成果）

本授業での到達目標は、今後「会社」と何らかの形で関わってゆく上で役立つ、そしてもちろん就活にも役立つ基礎的知識とスキル、そして考え方・見方を身につけることです。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門科目で卒業要件科目となります。ビジネス系は必修科目で、モードテクノロジー系選択科目です。ビジネスを理解する上で基礎となる科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス・授業の概要紹介 授業の進め方とルールの説明	予習：シラバスを読む 復習：ルールをよく理解する	30分
2回	経営学って何？ マネジメントって何？（人生そのもの！8つの問い）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
3回	会社って何？ 4つのアプローチ	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
4回	企業、法人、会社って何？（1）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
5回	企業、法人、会社って何？（2）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
6回	株って何？株式会社って何？（1）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
7回	株って何？株式会社って何？（2）	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
8回	会社は誰のもの？－コーポレートガバナンスの話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
9回	会社の価値って何？－M&Aの話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
10回	日本的経営って何？－雇用・賃金の話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
11回	社会における役割分担－行政、会社、非営利組織	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
12回	これからの会社－役割、分野	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
13回	いい会社の見分け方(1)	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
14回	いい会社の見分け方(2)－就職活動の話	復習：授業内でのQ&Aの双方向のやり取りを振り返り、考え方を定着させる。	30分
15回	まとめ 授業内で提示した課題の振り返りと解説を行う	復習：最終課題を振り返る。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で毎回の課題の解説を行います。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。講義ノート重視です！あえて言えば、ドラッカーの「マネジメント」（ダイヤモンド社）。

■参考文献 「知の巨人ドラッカー自伝」（日本経済新聞出版社）はおススメです。その他、必要に応じて紹介します。

## ■オフィスアワー・研究室

質問があれば授業後に声をかけるか教務課に連絡してください。出講日：月曜日 連絡先：教務課（本校舎1階）

■備考 履修にあたって予備知識は一切必要ないので、ご安心ください。きちんと出席して耳を傾けてくれれば必ず理解出来るようわかりやすく説明します。毎回授業の最後に manaba あるいは用紙で課題に回答してもらい、次回の授業に反映させます。

# 服飾造形応用

水野 真由美・宮澤 光与・田原 美津子・井口多恵子

1年 後期 選択 (2単位 演習)

## ■授業の方針・概要

スカートにおける構成や機能を理解し、応用デザインの作品制作をする。スカートについてリサーチを行い流行の形や色など、市場動向を知る。

## ■到達目標（学修成果）

スカートのデザインから制作までを通して造形表現の方法を身に付ける。プレゼンテーションができるようにする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で卒業要件単位。2年次以降のモードクリエイションコース、インダストリアルパターンコース等の科目に関連し、スカート制作にあたり、知識や技術を身につける。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、授業予定、基本スカート寸法について、基本スカートからの展開方法について説明	予習：シラバスを読む、各種スカートの製図方法をみておく	30分
		復習：展開方法の確認	30分
2回	著作権について スカートのデザインと布の関係 使用寸法（サイズ）について 製図方法説明 デザイン考案	予習：リサーチ、コレクション雑誌等の閲覧	120分
		復習：製図方法	30分
3回	各自製図	予習：スカート原型のトレース	30分
		復習：遅滞箇所を行う	45分
4回	スカートのあきについて 種類・縫製方法	予習：地直し	30分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
5回	トワルの組み立てについて、トワル裁断・組み立て	予習：デザイン、使用寸法の確認	30分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
6回	トワル仮縫いについて 仮縫い・補正・製図修正	予習：製図・トレース作業	60分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
7回	型紙作成 実物裁断・印入れ	予習：縫製方法を調べておく	20分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
8回	縫製手順（制作マップ）について説明 実物組み立て	予習：縫製手順書の作成	60分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
9回	実物仮縫い・補正・製図修正・型紙修正・印入れ直し 縫製①	予習：サンプル作成	60分
		復習：遅滞箇所	60分
10回	縫製②	予習：説明のあったところまで進める	60分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
11回	縫製③ 1/5大製図の書き方、プレゼンテーション資料作成について 説明	予習：説明のあったところまで進める	60分
		復習：1/5大製図下書き プレゼンテーション資料収集	60分
12回	縫製④	予習：説明のあったところまで進める	60分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
13回	縫製⑤ 1/5大製図提出	予習：説明のあったところまで進める	60分
		復習：遅滞箇所を行う	60分
14回	縫製⑥ 仕上げ、アイロン、提出 プレゼンテーション資料提出	予習：着装方法を考えておく	60分
		復習：縫製方法の確認、	60分
15回	プレゼンテーション まとめ	予習：プレゼンテーション準備	60分
		復習：スカートリサーチ	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業最終日に評価を行う。作品の返却は担当教員より別途日時を指定する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	提出物が未了の場合は、不合格とする。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I、SEWING II

電子教材

## ■参考文献

図解服飾用語事典、その他（必要に応じ紹介）

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー・研究室については、担当教員より第1回目の授業にて指示します。

## ■備考

進捗により、日程および内容を変更する場合もある。

予習・復習の時間は各自必要に応じ増減すること。

## 現代デザイン論

塚本 文雄

1年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

デザインの時代と呼ばれる現代。技術の進歩と経済的な発展によって、誰でもが簡単にある程度のモノを作ることができるようになった現代。デザインが私たちにもたらすものは何か？そしてデザイナーの役割とは何か？  
本授業では、デザインの源流とも言えるアーツアンドクラフツ運動から世界と日本のデザイン変遷を振り返り、現代デザインの様々な潮流を基礎知識として学ぶ。また、様々な分野の現役で活躍しているデザイナー、プロデューサーをゲストとして招き、授業担当者のデザイン関連のPR企画実務経験と併せ、学生との質疑応答を交えながら現代デザインの課題と未来の展望を考察する。

## ■到達目標 (学修成果)

デザインを志す者にとって知っておきたいファッション領域以外のデザインの基礎知識を得ることで広い視野を持てるようにする。  
現代デザインの潮流や課題を理解することでこれからのデザイナーの在り方を考え、意識を高められるようにする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目で卒業要件単位となります。造形の授業と関連し、デザインとは何かを自ら問い、考えることで、自分自身の将来への指針に活かす契機となるでしょう。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	【イントロダクション1】本講義の概要と目的を説明。デザインとは何か？	復習：授業目的、今後の課題スケジュールなど確認してください。	10分
2回	【イントロダクション2】ゲスト「デザインジャーナリスト」デザインジャーナリストの仕事を通して得た、現代日本デザインの課題やデザイナーの可能性を語る	復習：2回ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60分
3回	【世界のデザイン史1】1800年代～1940年代まで アーツアンドクラフツからバウハウスまで	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30分
4回	【世界のデザイン史2】1950年代から1990年代まで 戦後のデザインから2000年までのデザイン	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30分
5回	【日本のデザイン史1】明治～1945年まで 殖産興業から戦時下のデザインまで	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	30分
6回	【日本のデザイン史2】戦後～1990年代まで 戦後のデザインからバブル期を経て2000年までのデザイン	復習：翌週授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること。	60分
7回	【現代デザインの潮流1】2000年以降のデザイン～デザインとビジネス。IT進化により世の中が激変する中、デザイナーの価値とは？課題は何か	復習：9回授業時に振り返りを行うためレジュメの確認をすること	30分
8回	【デザインの今1 インテリアデザイン】ゲスト「インテリアデザイナー」インテリアデザインのトレンドと課題、将来への展望を実務経験と併せて語る。	復習：8回ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60分
9回	【デザインの今2 プレゼンテーション】自分の好きなデザイン、興味あるデザインを発表。今のデザインを考察する。	予習：9回授業のための資料準備	60分
10回	【現代のデザイン潮流2】デザイントレンドと世界のデザインミュージアムの活動と役割。キュレーターの仕事紹介映像視聴。	復習：11回授業のディスカッションのための講義内容確認	30分
11回	【デザインの今2 グループディスカッション】キュレーターの仕事紹介映像を観ての感想をグループディスカッション考察、プレゼンテーションする。	予習：11回授業ディスカッションのための準備	30分
12回	【現代デザインの潮流3】世界で活躍する日本人デザイナーの作品から、彼らのデザインの考え方を紐解く。	予習：13回授業のワークショップ課題作成	60分
13回	【デザインの今4 広告デザイン】ゲスト「広告ディレクター」広告デザインのトレンドと課題、将来への展望を実務経験と併せて語る。ワークショップ実施。	復習：ゲスト講師講義の感想文を当日提出	60分
14回	【デザインの未来1】これからのデザインとは？デザインの可能性とデザイナーの在り方を考える。	復習：最終課題のためのレポート作成	30分
15回	【デザインの未来2 現代デザイン論総括】授業内容全体を振り返りとまとめ。	復習：最終課題のためのレポート作成	30分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題：中課題：レポート：デザイン展覧会などの感想文 (予定)・2本。

小課題：ゲスト招聘授業時の感想文 (予定)・3本。

最終課題は授業総括期末レポート。課題は、いずれも「manaba」に期限内に提出後、中課題、最終課題は、個別フィードバックを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書 なし

## ■参考文献 必要に応じて授業で紹介する。

## ■オフィスアワー・研究室 教務課を通じて連絡してください。出講日：木曜日

## ■備考 ゲスト招聘の回は、日程変更、内容変更が生じる場合があるため、都度、授業時に周知する。

## ファッション販売論

大極 勝 岩井 光枝

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

全国展開の婦人服小売業チェーンにおける実務経験を活かし、ファッション産業での販売業務の役割と重要性を理解してもらう。教科書と実務経験の融合から販売業務の基礎知識とテクニックを学ぶ。現場感を確認することで販売業務の奥深さと楽しさを感じ取ってもらう。販売業務を通して、社会人として人としていかにあるべきかを学ぶ。

## ■到達目標（学修成果）

ファッション販売能力検定3級以上の実力を身に付け、ファッションアドバイザー、コーディネーターとしてライフスタイル全般の提案ができる基本スキルを習得する。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目で卒業要件単位となります。専門専攻にかかわらず選択することができます。実社会に出た時に新たな力となる考え方の基盤を作ることができ、4年間の各講座の積極的理解のかなめとなります。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッション業界人にあるべき姿－問われる総合的な人間力 社会人、学生である前に人としてのあり方を考える	全15回のレジュメ・課題・問題集等を マナバにて配信	20分
2回	マーケティングについて学ぶ（174～197）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
3回	ファッション販売知識を学ぶ（8～19）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
4回	ファッション販売技術を学ぶ（20～45）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
5回	商品知識1（アイテム）を学ぶ（46～75）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
6回	商品知識2（インナー、雑貨）を学ぶ（76～93）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
7回	商品知識3（素材、ディテール）を学ぶ（94～117）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
8回	商品知識4（柄、色彩、）を学ぶ（118～135）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
9回	商品知識5（サイズ、副資材）を学ぶ（136～151）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
10回	売り場づくりを学ぶ（152～173）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
11回	検定試験3級問題への取り組みと解答解説	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
12回	販売スタッフの業務（198～213）（担当：岩井）	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
13回	販売現場におけるファッション産業の未来について学ぶ①	復習：マナバにてレジュメ確認	20分
14回	販売現場におけるファッション産業の未来について学ぶ②	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分
15回	「まとめ」として小テスト実施 授業内容の総合的な理解度を確認する	復習：マナバにてレジュメと過去問確認	20分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回講義内で課題設定し、次回の講義で発表。期末レポートによる試験と後日掲示による総評にてフィードバック。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

ファッション販売3（日本ファッション教育振興協会編）

## ■参考文献

ファッション販売3－ファッション販売能力検定試験3級公式問題集－（日本ファッション教育振興協会編）

## ■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・マネジメントコース〔3402教室〕にて授業前30分前待機。

## ■備考

教科書は必ず準備し毎回持参してください。全15回ともマナバにて授業用レジュメ・課題等を配信。



# 流行論

下村 友紀子

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

流行とはなにか。考える上で基本となる「流行の心理」「製品のライフサイクル（商品寿命）」の概念を十分に理解する。その上で、導入、普及、衰退していく「流行のメカニズム」を事例に基づきながら把握する。

ファッションビジネスの事例を取り入れながら講義を行うが、ファッション以外の流行商品やトレンド、デジタルネイティブなZ世代の若者による社会現象にも触れることにより、現代社会における流行を検証していく。特に、昨今のデジタル社会のコミュニケーションであるSNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）による情報の重要性、そこから購買行動にどのような影響を及ぼすかに注目していく。

## ■到達目標（学修成果）

ファッションにとどまらず、世の中の流行商品や現象を自分なりに分析する力を養うことができる。また、デジタルマーケティングの基礎を学ぶことで、アパレル業界で必要とされている実務の理解ができるようになり、将来の商品企画や販売の仕事に役立てることができる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

1年生の履修を中心とした、服飾学部 of 全学生の専門選択科目の卒業要件科目となります。ファッションビジネスを理解する基礎力向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「流行」とは －流行商品ランキング、医学的流行から流行曲線を考える－	予習：シラバスを読む	30分
2回	流行研究と流行の心理 －同調性と微差化について－	復習：課題レポートを作成する	60分
3回	製品のライフサイクルと消費者採用プロセス －早期採用者理論－	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
4回	デジタルマーケティングのコミュニケーション① －口コミと購買行動－	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
5回	デジタルマーケティングのコミュニケーション② －UGCとステルスマーケティング－	復習：課題レポートを作成する	60分
6回	ファッションとSNS ① －SNSと購買の関係－	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
7回	ファッションとSNS ② －インフルエンサーとフォロワーが作る流行－	復習：課題レポートを作成する	60分
8回	デジタルマーケティングのコミュニケーション③ －WEB広告・PR・プロモーション－	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
9回	デジタルマーケティングのコミュニケーション④ プレス、スタイリスト、エディターの仕事	復習：課題レポートを作成する	60分
10回	ファッションカラーとトレンド予測のしくみ	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
11回	ファッションコレクションについて	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
12回	ラグジュアリーブランドの戦略 －新進デザイナーの起用によるインフルエンサーの獲得－	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
13回	ラグジュアリーブランド・デザイナーのドキュメンタリー 動画鑑賞（ブランド戦略と早期採用者理論の重要性）	復習：配布資料を振り返り、整理する	30分
14回	まとめ 最終提出	予習：まとめ課題レポートを作成する	60分
15回	まとめ（課題）のフィードバックを行う	復習：授業全体を振り返り、整理する	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出した課題は、基本的に次回授業時やmanaba上でフィードバックを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

教員が作成した資料を配布するため、各自管理を行うことが必須である。

## ■参考文献

「メディアと流行の心理」中島純一 金子書房

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日時は授業初回に提示する。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎 3207教室

## ■備考

授業内容は進行状況等により変更することもあります。

## 色彩演習

桐山 征士

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

ファッション色彩能力検定3級(一部2級)の実技問題に対応した課題と、過去問から分析した練習問題で検定対策を行う。

色彩を扱う上で、不可欠な経験と色を見抜く力を育て、色価(バール)を整える能力を身につける。また、検定対策として、検定関係者である担当教員が全ての検定過去問題を分析し、最近の傾向を読み取った練習問題を行うことで、3級の実技問題(一部の知識問題を含む)の対策を行う。実技問題は2点(知識問題は1点)なので、重要な対策となる。

課題では選ぶ力、練習問題では見抜く力を養う。

アートやデザインの大学は、入試で色彩能力を問う。そのための対策をして試験に臨む。本大学では入試において色彩を課していないので、この授業を持ってその経験値の差を補う。

モノは「カタチと色」で成り立っている。全ての造形において「色」は重要な要素であり、造形に関わる全ての課題に必要な不可欠である。美術家兼デザイナーとして活動しながら、ファッション色彩能力検定にも携わる教員が担当し、今後「色」を扱う際の共通言語を学び、「色」が持つ特性を客観的な観点から理解する。

色に関して十分な実技経験がある者、もしくは理論的な知識がなくても美しい配色ができる者であれば色彩学を学ぶ必要はない(後者について、私は会ったことがない)が、そうでない場合は色彩の知識を学ぶ必要がある。この授業では経験と知識を身に付けるために10課題全てにおいて双方向型授業を行い、個別の質問に対応しながら微妙なニュアンスも感じ取れるように学習する。

ファッション能力色彩検定の目的は暗記では無い。色彩検定関係者である担当教員のもと実習を行い、その後各自教本を読み理解を深め、アクトビラーニングによって実力を付ける。

留学生には翻訳ソフトを使って母国語に変換して読めるように、予め課題の解説をmanabaで文字データで伝えておく。

## ■到達目標(学修成果)

色の3原則である「色相」「明度」「彩度」が理解出来るようになる。造形に必要な「コンセプトに見合った配色」を客観的な視点で習得することができる。「ファッション能力色彩検定3級」レベルの実技力を身につける。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッション色彩能力検定3級(一部2級)実技問題(一部の知識問題を含む)の対策になる。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス・ベーシックカラー番号書き	復習:教科書の概要を読んでおく	30分
2回	課題1「明度を合わせる」有彩色の明度を読み取れるようになるためのトレーニング。	復習:課題完成。「色の三属性・明度」熟読。	30分
3回	課題1「明度を合わせる」 課題2「色相差」色の三原色・混色法解説	復習:課題完成。「色の三属性・明度/色相」熟読。	30分
4回	課題2「色相差による配色」	復習:課題完成。「色の三属性・色相」熟読。	30分
5回	課題3「明度と彩度」明度と彩度の区別を明快にし、特に彩度を読み取るトレーニングを行う。	復習:課題完成。「色の三属性・彩度」熟読。	30分
6回	課題4「トーンによる配色」明度と彩度を併せ持つ概念であるトーンを理解する。	復習:課題完成。「ヒュー&トーン」熟読。	30分
7回	課題5「色相とトーンによる配色」色相とトーンをコントロール。	復習:課題完成。「ヒュー&トーン」熟読。	30分
8回	課題6「無彩色と有彩色による配色」マンセル記号を見ずに目で明度と彩度を見分ける。	復習:課題完成。「明度」「彩度」熟読。	30分
9回	課題6「無彩色と有彩色による配色」マンセル記号を見ずに目で明度と彩度を見分ける。	復習:課題完成。「明度」「彩度」熟読。	30分
10回	課題7「色彩構成のテクニック」配色のテクニックを学ぶ。	復習:熟読。「配色の基礎」熟読	30分
11回	課題8「色の感情効果」色彩の心理的效果を理解する。	復習:課題完成。「色彩と心理」熟読。	30分
12回	課題9「流行色情報に登場する配色方法」基本的な配色方法を学ぶ。(2級対策)	復習:課題完成。課題文熟読。	30分
13回	課題9「流行色情報に登場する配色方法」基本的な配色方法を学ぶ。(2級対策)	復習:課題完成。課題文熟読	30分
14回	課題10「ファッションイメージとカラーコーディネート」テストに合わせた配色を習得する。	復習:課題完成。課題文熟読	30分
15回	課題10「ファッションイメージとカラーコーディネート」テストに合わせた配色を習得する。	復習:学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

## ■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

常時、質問等を受け付ける。manabaでの課題を提出後、正誤確認を行う。間違いがある場合は指示をして修正したものを再提出。正解するまで繰り返す。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書:ファッション色彩[I] 日本ファッション教育振興協会

■参考文献:なし

■オフィスアワー・研究室:オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室:4006 工芸室

■備考:初日に課題に用いるケント紙代として100円を集める。初日の持ち物は「ファッション色彩[I]」「ベーシックカラー」と筆記用具。

# 学修基礎（初年次教育）

北折・水野・山田・手島・水上・桐山・千代崎・五月女・鈴木・伊藤・北澤

1年 前期 必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

大学新入生を対象とした「初年次教育科目」です。杉野服飾大学での学びに適応し、長期的・短期的将来像を見据えた学びの目的や意識を明確に持つことができるよう、様々な角度から講義を展開します。さらに、大学における、基礎的なアカデミックスキル（受講技術、学問的・知的活動の技術）、ソーシャルスキル（社会人としての健全な生活習慣を身に付ける技術）、スチューデントスキル（大学生活を円滑に進める技術）を修得すること、学生の学修を助けます。

## ■到達目標（学修成果）

- ①各授業において、それぞれの領域の知識を獲得します。 ②短期的及び長期的な目標を持ちます。  
③杉野の学びについて理解します。 ④学習態度・姿勢を身につけます。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の「初年次教育」に配置されている卒業要件科目です。ディプロマポリシー（学位授与方針）では、教養科目 34 単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養うとしています。本科目は、大学入学直後から前期にかけて上記の授業方針に沿って学生の学修基礎を培います。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	水野 オリエンテーション 自主学習に役立つ教育リソースの活用について	予習 「学修基礎」のシラバスを読む。 復習 実際に視聴してみる	30分 30分
2回	北折 建学の精神と履修系統図—学びの目的・意識（なぜこの大学に入ったのか、どこに向かうのか）を確認する	予習 キャンパスダイアリーで建学の精神と3つのポリシーを読んでおく。 復習 希望するコースや専攻、履修科目を再度確認する	30分 30分
3回	山田 有意義な学生生活（1）食生活と健康 元気に1日を過ごすためにはどんな食事をとれば良いかグループディスカッションを通して考える。	予習 自分の普段の食生活について振り返る 復習 授業で考えた食事内容を実践してみる	30分 30分～
4回	手島 有意義な学生生活（2）心の健康と学生生活 グループディスカッションを通して、「精神的健康」「ストレス」などについて理解を深める	予習 自分の身の回りのストレスは何かがあるか考える。 復習 授業内で紹介する心理学関連の動画資料（TED Talks）を視聴し、自己を振り返る。	30分 30分
5回	水上 有意義な学生生活（3）基礎体力と生活リズム 「健康」「運動」をキーワードに、時間の使い方をグループ討議し、各自の理想の1日を作成する。「北海道科学大学講座編」を使用	予習 「北海道科学大学講座編活き活きとした身体作り」を視聴する。 復習 作成した計画と「実技編」を視聴しストレッチのできることから実践してみる。	30分～ 30分～
6回	桐山 創作の目的意識—デザインすること—	予習 デザインとアートの違いについて考察する 復習 講義内容を踏まえて、アートとデザインの違いやデザインとは何かを改めて考える。	30分 30分
7回	千代崎 創作倫理（研究者倫理）—著作権と学修— 知的財産権の考え方・記録の重要性について（ポートフォリオとエスキース）	予習 著作権に関する記事に目を通しておく。 復習 自身の研究テーマと著作権を関連付けて考察する。	30分 30分
8回	五月女 情報リテラシー —情報の真偽と情報倫理（データとプライバシー）—	予習 Googleで検索をできるようにする 復習 「フェイクニュース」や「個人情報保護」の観点から、データをどのように取り扱うかを考える	30分
9回	鈴木 一冊の本に出会う —自分にとっての大切なフレーズ—	予習 図書館HPから図書検索機能を使ってみる 復習 自分にとっての1冊の本に出会うために、図書館や書店に足を運んでみよう。	30分～ 30分～
10回	伊藤 博物館・美術館を利用しよう 博物館・美術館の活動について知る 博物館・美術館が提供している動画等の教育・研究リソースを紹介し、活用を促す。	予習 展覧会情報等を検索してみる 復習 興味を持った博物館・美術館のwebページを閲覧し、レポート等に活用する。	30分 30分
11回	卒業生の講演	復習 講演者が大学1年生だったころ、どのような長期的・短期的将来像を描いていたのか考える。	30分
12回	伊藤 社会人としての言語活動 新聞を読む習慣を身につける 比較して読むことによって、情報を活用するための基本的な注意点を理解する	予習 家で購読している新聞を調べる。 復習 授業内容を振り返りつつ、新聞を詳細に読んでみる。	30分 30分
13回	北澤 英語と日本語を比較してみよう —ことばの背後にある文化を探る—	復習 授業内容を振り返り、身近にあることばの使用について考える。授業内で紹介するTED Talksなどの動画を視聴する。	30分～
14回	水野 服装におけるマナーについて 服装による表現方法の違いをグループで考える	予習 日頃、服選びをどう考えているかあげてみる 復習 改めて服選びを考え、実践してみる	30分 30分～
15回	水野 ワークシート、まとめ	復習 フィードバックされた内容を確認する	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

それぞれの講義のレポート等は、担当教員が点検・返却する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	各回の授業のレポート、ワークシート他
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 各教員作成のハンドアウト等を使用します。

■参考文献 必要に応じて授業時に指示します。国内外のオープン教育リソースの活用。 ■備考 なし

■オフィスアワー・研究室 担当教員のオフィスアワーと各研究室については、担当者それぞれの他のシラバスで確認してください。

## 文章表現

伊藤 高広

1年 前期 必修 (2単位 講義)

### ■授業の方針・概要

自分の判断や意見、発想などを相手に伝えるためには、わかりやすい文章を書かなければなりません。ワークシートや文章作成などで、そのための練習をします。2年次以降の、レポート・論文執筆のための基礎的訓練でもあります。また、さまざまな文章を読み、そこから正しい情報を読み取る練習もします。

### ■到達目標（学修成果）

文章表現の基礎を身につけ、自分の考えを相手にうまく伝えることができるようになる。様々なメディアの情報を読み解き、判断できる能力を養う。

### ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、必修です。初年次教育課程教養科目です。社会人としての資質・能力を養います。

### ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス～作文の基礎 文と文章 課題作成にあたっては、毎時間、添削・口頭指導等のアクティブラーニングが基本となる。	予習：シラバスに目を通しておく。	30分
2回	作文の基礎 文章の基本的なルール① 説明文を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について情報を収集し、知識を深める。	60分
3回	作文の基礎 文章の基本的なルール②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
4回	作文の基礎 文章の構成① 意見文を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について情報を収集し、知識を深める。	60分
5回	作文の基礎 文章の構成②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
6回	自分の考えを表現する 根拠を明確にする① 新聞の記事を参考に、自分の意見を書く。	復習：課題として取り上げた事柄について書籍やwebなどを利用して情報を収集する。	60分
7回	自分の考えを表現する 根拠を明確にする②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
8回	自分の考えを表現する 考える道筋を意識する① 比較する文章を書く。感性と理性との関係を意識する。	復習：課題として取り上げた事柄について書籍やwebなどを利用して知識を深める。	60分
9回	自分の考えを表現する 考える道筋を意識する②	復習：添削された原稿を見直す。	30分
10回	情報を読み解く 文章やデータを正確に読み取る① 複数の資料を参考に、情報を正確に把握する。	復習：課題として取り上げた事柄について、情報を整理してまとめてみる。	60分
11回	情報を読み解く 文章やデータを正確に読み取る②	復習：足りなかった部分を調べる。	30分
12回	情報を読み解く 複数の視点から情報を読み解く① 意見を出し合って複眼的な読み取りができるようにする。	課題として取り上げた事柄について、情報を整理してまとめてみる。	60分
13回	情報を読み解く 複数の視点から情報を読み解く②	復習：足りなかった部分を調べる。	30分
14回	2年次以降に向けて① レポートや小論文を書くための約束事を確認する	復習：個々の課題を発見する。	60分
15回	2年次以降に向けて②	復習：足りなかった部分を調べる。	60分

### ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出された課題は次時添削して返却。清書して提出、次時添削・評価して返却。

### ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

### ■教科書

毎時、新聞記事等を資料として配布する

### ■参考文献

授業中に適宜紹介する

### ■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

### ■備考

原稿用紙・ノート・ファイルを用意しておくこと

# 情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)

水越 綾

1年 前期 必修 (2単位 講義・演習)

## ■授業の方針・概要

文書作成・表計算・プレゼン資料作成アプリケーションにもいくつかの種類があり、デバイスによっても異なります。これまで皆さんが学んできたアプリケーションもそれぞれ異なっていることが想定される事から、本授業ではPCを用いたMicrosoft・WORD・EXCEL・POWERPOINTの利用を主軸とし、それら基礎スキルの定着を図ります。また、授業内で利用するこれらと互換性のあるアプリケーションについても触れ、その差異を理解した上で複数のデバイスやアプリケーション上で必要な情報を編集できる基礎力を養います。

Society5.0 実現に向けて社会は凄まじいスピードで変化が起きています。とりわけテクノロジー系の情報の更新は著しく、自ら意識して情報をアップデートする習慣を身に付ける必要があります。今、社会で話題になっているニュースに触れる機会を持ち、それらをテーマとしてチュートリアル型PBLに取り組んで頂きます。また、デジタル社会で生活する社会人として、私たちはどのようにデジタルツールと関わってゆけば良いのか、その為求められる資質・能力とは何か、必要な振る舞いについて、授業を通してデジタルシティズンシップを涵養してゆきます。

## ■到達目標 (学修成果)

1. PCの基本的操作に慣れ、基本的な用語を理解する。  
(manaba や activemmail が使えるようになる。Office ソフトの基礎的スキルを身に付け、目的に応じて、数値データや文章等を見やすくまとめる努力・工夫ができる。)
2. デバイスを問わず、互換性のあるアプリケーション間のデータ移行・データ編集を行うことができる。
3. デジタル・ITに関するニュースに関心を持ち、日常的に情報をキャッチアップすることができる。また、それを課題等に反映することができる。
4. 課題制作に取り組み上で、「創造する力」「挑戦する力」「自立する能力」を向上させるための努力ができる。
5. デジタルシティズンシップ概念を理解し、社会人としてデジタルとの関わり方を正しく理解し日常生活に活かすことができるようになる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目であり、卒業要件科目です。基本的な IT スキル・デジタルシティズンシップ概念を身に付け、社会人としての資質・能力の向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	初回ガイダンス、コンピューター室使用のルール、manaba、active mail、Windows 基本操作の確認	予習: PC操作が苦手と思われる方はあらかじめ操作に慣れておくように(自習室PCを活用して頂きたい。) 復習: manaba・activemmail を自宅、或いは自身のモバイルからログインし操作してみる。	90分
2回	・エッセイを作成する① 到達目標とルーブリックの確認 Wordの基本操作(拡張子、文書レイアウト、段落設定、段落罫線、ページ区切り、文書スタイル、オブジェクトの挿入)	予習: 指定したエッセイのテーマに基づいた文章を考え、書きはじめておく。 (課題に関する指定は授業内及び manaba にて指示するので manaba を確認しておくように) 課題: 時間内に終わらなかった課題に取り組んでおく。	90分
3回	・エッセイを作成する② ・Adobe アカウント作成、Adobe Firefly ログイン ・生成 AI について。生成 AI に絡む諸問題と著作権問題。プロンプト入力によるイメージ生成。 ・生成 AI を使用してエッセイ挿絵を作成する	予習: Adobe Firefly ユーザーガイドラインに目を通しておく (URL は manaba から指示する) 課題: 時間内に終わらなかった課題に取り組んでおく。	90分
4回	・エッセイを作成する③ 印刷をする、保存形式について (PDF 形式) 到達目標とルーブリックを確認した上で、Manaba に提出。自己採点と他者評価 (クラスメイトによる相互評価) ・日経パソコン Edu の使い方	課題: 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
5回	・デジタルシティズンシップとは ・情報活用において注意しておきたい諸問題 (著作権・個人情報等) 講義とグループ討議 ・グループワーク (PowerPoint) ① 課題説明・到達目標と制作ルーブリックの確認 PowerPoint 基礎	予習: 『デジタルシティズンシップ』について各自調べ、なぜ私たちに必要かを考えておく。 課題: 授業内の課題について進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
6回	・グループワーク (PowerPoint) ② 他者に伝わる資料とは。 スライド結合/引用情報の扱い	課題・予習: 授業内の課題について進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
7回	・グループワーク (PowerPoint) ③ 発表ルーブリックの確認 発表準備・スクリーン表示用と印刷用、PDF 変換/ノート	課題・予習: 授業内の課題について進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
8回	・グループワーク (PowerPoint) ④ グループ毎プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り (個別・グループ)、講評	予習: 発表用ルーブリックを確認し、発表の準備・練習をしておく。 課題: 授業内課題について振り返り/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
9回	・Excel 基礎① (基本、データ入力、表作成・関数・グラフ作成、データベース作成)	予習: 日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく /統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。 統計局が公開している統計に関する動画講座 (gacco) を見ておく。 課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu の指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
10回	・Excel 基礎② (基本、データ入力、表作成・関数・グラフ作成、データベース作成) ・私たちの身の回りにある統計情報 (統計局・自治体) にアクセスしてみる。	予習: 日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく /統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。 統計局が公開している統計に関する動画講座 (gacco) を見ておく。 課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
11回	・まとも課題① (情報デザイン。伝わるデザイン) 公開されている統計情報を分かりやすく他者に伝える。 課題の到達目標の確認・制作ルーブリックの確認 (表作成・グラフ作成 (Excel))・資料作成 (PowerPoint)・レポート作成 (Word)	予習: 日経 Edu の指定コンテンツに目を通しておく /統計局・自治体が公開している情報にアクセスし、どのような情報があるのかを調べておく。統計局が公開している統計に関する動画講座 (gacco) を見ておく。 課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
12回	・まとも課題② (情報デザイン。伝わるデザイン)	課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
13回	・まとも課題③ (情報デザイン。伝わるデザイン)	課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
14回	・まとも課題④ (情報デザイン。伝わるデザイン) 課題の到達目標の確認・発表ルーブリックの確認 発表に向けた準備と資料作成	課題: 授業内課題を進めておく。/日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
15回	・まとも課題⑤ (情報デザイン。伝わるデザイン) ポスターセッション形式で発表・議論 自己採点と相互評価、振り返り (個別・グループ)、講評	予習: 発表の準備・練習をしておく。 課題: 振り返り (最終課題振り返り、情報演習 I を通しての振り返り)	90分

## ■フィードバック (試験の解説、試験レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題の講評は授業内に実施。練習課題においては manaba を通じてフィードバックを行ないます。また課題によっては学生間でフィードバックを実施します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価致します。 ルーブリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員による評価に加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■テキストとして利用するサービス

日経パソコン Edu  
情報通信白書 (総務省)、IPA DX 白書 (独立行政法人情報処理推進機構)。ほかにも省庁・自治体等の Web サイト、gacco (<https://gacco.org>) は無料のオンライン動画学習サービスですが、統計やデータサイエンス等、本情報に関連した講座が数多くあり統計局による講座もあげられています。日経パソコン Edu サイト内にも IT 関連のトレンドや資格・就職活動等に役立つ情報が多く掲載されていますので、授業で利用する項目以外にも積極的に目を通し、知識を広げて下さい。

## ■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第一回目の授業でご案内致します。・研究室 研究棟 1 階 6012B  
備考教室 PC にログインする為には、システム課より発行された ID (個人アカウント) とパスワードが必要となるので授業時に忘れないで下さい。  
授業内容は進行具合により、前後する可能性があります。その場合は事前にアナウンスします。サポートを行なっているので、積極的に利用して下さい

# 情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)

水越 綾

1年 後期 必修

(2単位 講義・演習)

## ■授業の方針・概要

Society5.0 実現に向けて社会は凄まじいスピードで変化が起きています。とりわけテクノロジー系の情報の更新は著しく、自ら意識して情報をアップデートする習慣を身に付ける必要があります。本授業では、Adobe Photoshop, Illustrator 等の基礎的スキルを身につけることを主軸にしつつ、常に機能がアップデートされてゆくアプリケーションを継続的かつ効果的に活用してゆく為に、自ら必要な情報やスキルを収集・修得する姿勢、能動的に挑戦、創造する力を育む授業です。個別課題に取り組んでもらうだけではなく、発表を通して他者の作品から様々な視点や感性に触れ、そこからさらに自分自身の作品と客観的に向き合い、それを次に繋げるといった自らスキル向上する為の力を養うための練習をおこないます。

また、デジタル社会で生活する社会人として、私たちはどのようにデジタルツールと関わってゆけば良いのか、その為に求められる資質・能力とは何か、必要な振る舞いについて、授業を通してデジタルシティズンシップを涵養してゆきます。

## ■到達目標(学修成果)

1. PC 基礎、Adobe Photoshop, Illustrator, Firefly 等の基礎を理解し、それぞれの機能や用途の違いを理解し、目的に応じた使い分けやアプリケーションを連携して作業が行える。
2. 著作物の扱いについて理解し、適切に扱うことができる。
3. デジタル・IT に関するニュースに関心を持ち、日常的に情報をキャッチアップすることができるようになる。また、それを課題等に反映することができる。
4. 課題制作に取り組む上で、「創造する力」「挑戦する力」「自立する能力」を向上させるための努力ができる。
5. デジタルシティズンシップ概念を理解し、社会人としてデジタルとの関わり方を正しく理解し日常生活に活かすことができるようになる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目であり、卒業要件科目である。基本的な IT スキル・デジタルシティズンシップ概念を身に付け、社会人としての資質・能力の向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	・初回ガイダンス ・PHOTOSHOP と Illustrator ログイン確認 ・ファイル形式・サイズ・解像度・互換性について ・Photoshop 基礎①(新規作成、レイヤー、ツール、パネル等) ・配布資料に操作ノートを記録する。	課題: 授業内で終わらなかった課題を進めておく(自習室等で作業可能) / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習: 練習課題・授業内で分からない事があれば、動画教材を確認して復習しておく。	90分
2回	・Photoshop 基礎②(色調補正、変形、保存形式、フィルタ、着色等) 課題提出後、manaba に振り返りと内省 配布資料に操作ノートを記録する。	予習: AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習・課題: 練習課題・授業内で終わっていない場合、動画教材を確認して復習しておく。提出課題について manaba でコメントをするので、修正の有無を確認し、必要があれば修正後再提出を行なう。	90分
3回	PHOTOSHOP 基礎③(ペンツール、プロパティ、ヒストリー、レタッチ等) 配布資料に操作ノートを記録する。	予習: AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。 復習・課題: 練習課題・授業内で終わっていない場合、動画教材を確認して復習しておく。提出課題について manaba でコメントをするので、修正の有無を確認し、必要があれば修正後再提出を行なう。	90分
4回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題①好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ これまでおこなった基礎に加え CreativeCloud 内のチュートリアル、生成 AI を用いてイメージ画像を作成する。 ・制作に向けて権利問題の確認 ・課題の到達目標と制作ルーブリックの提示 ・配布資料に操作ノートを記録する。	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題: 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
5回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題②好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ ・制作に向けて権利問題の確認 ・配布資料に操作ノートを記録する。	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題: 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
6回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題③好きなデザインを模写して表現手法を学ぶ ・配布資料に操作ノートを記録する。 ・発表ルーブリックの確認	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題: 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
7回	・PHOTOSHOP・firefly 練習課題④ 課題プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り(個別・グループ)、講評	予習: 発表の準備・練習をしておく。 課題: 課題の振り返り、まとめ	90分
8回	ILLUSTRATOR 基礎①(画面構成、新規作成、レイヤー、図形描画(塗り、線)、ペンツール練習等) 配布資料に操作ノートを記録する。	予習: AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題: まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。 / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
9回	ILLUSTRATOR 基礎②(文字・画像のトレース・パス・プロパティ等) ・データのスキヤニングについて、 配布資料に操作ノートを記録する。	予習: AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題: まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。 / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
10回	ILLUSTRATOR 基礎③(文字(アウトライン)・画像のトレース・パス・プロパティ等) ・他のアプリケーションで使用する為の形式変換 配布資料に操作ノートを記録する。	予習: AdobeCreativeCloud 内の指定チュートリアル動画を視聴しておく 課題: まとめ課題に向けたリサーチ。終わっていない課題があればそれを完成・提出する。 / 日経パソコン Edu にログインし、指定のコンテンツに目を通しレポートを作成・提出する。	90分
11回	ILLUSTRATOR を使った課題作成③	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 復習: 練習課題で分からない箇所があれば、動画教材を確認して復習しておく。 課題: まとめ課題に向けてデザイン案を作成・提出。	90分
12回	まとめ課題(Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題) ① 自分のブランド企画 DM を作成する ・課題の到達目標と制作ルーブリックの提示	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題: 課題を進めておく。	90分
13回	まとめ課題(Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題) ② 自分のブランド企画 DM を作成する	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題: 課題を進めておく。	90分
14回	まとめ課題(Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題) ③ 自分のブランド企画 DM を作成する ・課題の到達目標の確認・発表ルーブリックの確認 ・発表に向けた準備と練習	予習: 課題制作に必要と思われる AdobeCreativeCloud 内のチュートリアル動画を視聴してメモしておく。 課題・予習: 発表に向けて必要資料の準備	90分
15回	まとめ課題(Photoshop・Illustrator・firefly 連携課題) ④ 自分のブランド企画 DM を作成する 課題プレゼンテーション 自己採点と相互評価、振り返り、講評	復習: 他者の作品を見た上で、自身の作品の振り返り。情報演習Ⅱを通しての振り返り。	90分

## ■フィードバック(試験の解説、試験レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題の講評は授業内に実施。練習課題においては manaba を通じてフィードバックを行ないます。また課題によっては学生間でフィードバックを実施します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価致します。 ルーブリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員による評価に加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書 日経パソコン Edu (前期にも利用したオンラインサービス)

■参考文献 AdobeCreativeCloud には様々なクリエイティブ情報やティップスが掲載されているので頻りにチェックしておくとう良いでしょう。他に必要があればその都度アナウンスします。

■オフィスアワー・研究室: オフィスアワーについては、第一回目の授業で指示する。研究室 研究棟 1 階 6012B

■備考教室 PC にログインする為には、システム課より発行された ID (個人アカウント) とパスワードが必要となるので授業時に忘れないで下さい。

授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスします。サポートを行なっているので、積極的に利用して下さい。

# 社会人基礎

赤木 久美子

1年 前期 必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

授業担当者の企業での人材育成における実務経験を活かし、多様化の進む社会の中で、自身の強みを生かし活躍するために必要な力を身に着けるため、講義のみならず、ワークショップ、ディスカッションを多く取り入れた参加型の授業を行う。社会で必要な他者を受け入れる力、自分の考えを伝える力、協力してイノベーションを起こす力を、言語的、数学的、論理的等、様々なアプローチにより講義し、さらに体現することで理解を深める。

## ■到達目標（学修成果）

職場や社会で多様な人々と関わっていくために必要な基礎的能力（コミュニケーション力、言語的能力、数学的思考力、論理的思考力）を理解し、修得する。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目の卒業認定科目です。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「社会人基礎」は専門コースの必修であり、社会人基礎力の向上に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・授業計画・社会の変化と必要とされる能力について	予習：シラバスを読み、全容を把握	20分
2回	コミュニケーション力Ⅰ（コミュニケーションタイプ） ワークショップ	復習：タイプ別特徴の確認	20分
3回	自己分析Ⅰ（価値観、興味、能力） ワークショップ・ディスカッション	復習：自己理解を深めるためのポイントを確認	20分
4回	自己分析Ⅱ（性格・人物特性） ワークショップ・ディスカッション	復習：自己理解を深めるためのポイントを確認	20分
5回	プレゼンテーションⅠ 伝わる文章構成法（PREP法）	復習：授業で作成した文章を校正	20分
6回	印象管理（メラビアン法の法則） ワークショップ	復習：授業で作成した文章を完成	20分
7回	プレゼンテーションⅡ 自己PR(1分間スピーチ)	復習：スピーチにおける課題の確認	20分
8回	コミュニケーション力Ⅱ（聴く力） ワークショップ	復習：コミュニケーションの課題を抽出し、生活の中で実践	20分
9回	コミュニケーション力Ⅲ（伝える力） ワークショップ	復習：コミュニケーションの課題を抽出し、生活の中で実践	20分
10回	ディスカッション チームビルディング	復習：チームの中での役割と自己表現のポイントを確認	20分
11回	ビジネス文書基礎（メールの書き方等）	復習：配付資料を振り返りメールを作成	20分
12回	手紙の書き方（暑中見舞い等）	復習：暑中見舞いを作成	20分
13回	目標達成の考え方Ⅰ（論理的思考力・数学的思考力） PDCAサイクル・SMARTの法則	復習：配付資料を振り返り目標設定	20分
14回	目標達成の考え方Ⅱ ワークショップ	復習：全配布資料をすべて読み返し要点を確認	90分
15回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：配布資料を振り返る	20分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題の解説を行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書 なし

## ■参考文献

授業の進行に合わせてプリントを配布する。

## ■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課(本校舎1階) 出講日：水曜日

## ■備考

進度により、日程及び内容を変更する場合があります。

## 心理学A

手島 陽介

1年 前期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

## ■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か① ー心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界ー	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か② ー心理学の活躍する場、心理学の歴史ー	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理 ー個人の性格について、遺伝と環境、性格テストー	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理① ー乳幼児期～児童期までの発達段階と課題ーグループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのかを考えてくる	15分
5回	発達の心理② ー青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについてーグループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム ーストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけー	復習:自身の身の回りのストレスナーについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション ー人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現ー	復習:非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話をする	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム① ー人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出についてー	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム② ー欲求不満の心理、ストレスとストレスナーの関係、自我防衛機制ー	復習:身の回りのストレスナーについて考え、コーピングを試してみる	30分
11回	集団の心理 ー集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについてー	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30分
12回	色彩の心理学と服飾 ー色が人のこころに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係ー	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考える-	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Aのまとめをする。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社  
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

## ■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版  
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

## ■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室  
後期：水曜日（12：00-15：00）研究室  
【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

## ■備考 毎時間、プリントと教科書を準備してください



# 心理学B

手島 陽介

1年 後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

本講義では、「心理学A」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

## ■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心理学とは何か① ー対人認知と印象形成、意識と無意識ー	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30分
2回	心理学とは何か② ー対人魅力と人間関係を探るー	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30分
3回	影響の心理① ー他者からヒトはどのように影響を受けるかを考えるー交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30分
4回	影響の心理② ービジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学ー	復習:実際のCMや広告などでメディアによる心理的影響について考える	30分
5回	知覚の心理① ーヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、ー	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30分
6回	知覚の心理② ー音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界ー	予習:身の回りの音楽や店舗のBGM、環境音などについて調べてくる	15分
7回	思考の心理① ー「考える」とは何か、問題解決能力とはーグループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60分
8回	思考の心理② ー創造性と創造的人格、創造性の段階ーグループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30分
9回	犯罪の心理 ー犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理ー	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30分
10回	精神的健康とは ーこころが健康な状態を考えるー	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30分
11回	心と身体の関係① ー認知・感情・行動・身体から心のバランスを考えるー	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30分
12回	心と身体の関係② ー呼吸法とストレス、睡眠などについてー	復習:呼吸について、日常で体験をする	30分
13回	幸福感と人間関係 ー世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因ー	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Bのまとめをする。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

二宮克美ほか 『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社  
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

## ■参考文献

蓮見将敏ほか（編） 『人間関係の心理学』 福村出版  
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

## ■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

## ■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

## 文学

伊藤 高広

1年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

日本文学の中の「神話・伝説」を中心に読んでいきます。日本文化の多様性にふれ、日本人が自分たちと自分たちを取り巻く世界をどのように認識してきたのかを考えていきます。単にノートをとるのではなく、積極的にノートを作成していくことで、多様な情報を自分なりに整理する訓練とします。

## ■到達目標（学修成果）

文学を通して、広く日本の精神や文化にふれ、多様な視点を持つことができる。日本の文化・伝統を踏まえた表現をする場合の思想的基盤を身につけることを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教養科目（一般）の選択で卒業要件単位となります。幅広く深い教養と豊かな人間性を涵養するための科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	古代の神話 イザナギとイザナミ 『古事記』『日本書紀』から	シラバスを読んでおくこと（予習）	30分
2回	古代の神話 アマテラスとスサノオ 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
3回	古代の神話 オオクニヌシ① 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
4回	古代の神話 オオクニヌシ② 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
5回	古代の神話 天孫降臨 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
6回	古代の神話 神武東征 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
7回	古代の神話 ヤマトタケル 『古事記』『日本書紀』から	資料を参考にノートを整理する。参考文献を読んで知識を深める。（復習）	30分
8回	鬼と神様① 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
9回	鬼と神様② 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
10回	鬼と神様③ 説話・絵巻から	資料を参考にノートを整理する。できれば原文にふれてみる。（復習）	30分
11回	武士とは何か① 『今昔物語集』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
12回	武士とは何か② 『平家物語』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
13回	武士とは何か③ 近世・近代の作品から	資料を参考にノートを整理する。参考文献を読んで考察を深める。（復習）	30分
14回	庶民たち 『今昔物語集』から	資料を参考にノートを整理する。（復習）	30分
15回	古典と現代をつなぐ 『遠野物語』から	資料を参考にノートを整理する。（復習） できれば原文を読んでみる。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ノートを集めます。課題等の評価を付して返却します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

## ■参考文献

授業内で適宜指示する

## ■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

## ■備考 なし

# 日本美術史

小林 紗由里

1年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

日本近現代美術史の基本的な流れを紹介しつつ、絵画から写真まで、多様なジャンルの作品を取り上げます。この授業では明治時代から現代までを扱いますが、特に第二次世界大戦以降の美術動向に焦点を当てます。授業担当者の実務経験を活かし、東京国立近代美術館のコレクション展を訪れ、実際に作品を鑑賞する機会も設ける予定です。

## ■到達目標（学修成果）

日本近現代美術史の基本的な見方や時代背景を知り、作品について様々な角度から考察できるようになることを目指します。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の選択科目です。学芸員免許取得のための学芸員課程必修科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画・参考文献の紹介など。	シラバスを読んでおいて下さい。	30分
2回	明治時代の美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
3回	大正・戦前期の美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
4回	戦争と美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
5回	実験工房と具体美術協会	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
6回	反芸術運動の展開	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
7回	もの派と概念芸術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
8回	写真表現の展開	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
9回	ジェンダーと美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
10回	サブカルチャーと美術	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
11回	アート・プロジェクト／芸術祭の発展	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
12回	震災と美術／記憶継承の多様化	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
13回	見学会事前講義：東京国立近代美術館のコレクション形成の歴史について紹介し、日本美術史の編まれ方を考える。	復習：授業で関心を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
14回	見学会：東京国立近代美術館のコレクション展を訪れ、作品鑑賞をすることで知識を深める。	復習：鑑賞の際興味を持った作品について、参考文献等で知識を深める。	30分
15回	まとめ：これまでの授業で取り上げた内容を振り返りつつ、見学会での鑑賞経験をもとに意見交換を行う。	期末レポートの準備を各自進める。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

期末レポートの内容を添削・評価後、個別フィードバックを行います。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

必要に応じて資料を提示します。

## ■参考文献

山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編）美術出版社、2014年  
 山本浩貴『現代美術史 欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

## ■オフィスアワー・研究室

連絡や質問等は教務課へお願いします。前期後期：水曜日 連絡先：本校舎1階教務課

## ■備考

授業の計画及び見学会の日程に関しては、進行速度や見学先の都合などにより変更の可能性もあります。

# 西洋美術史

佐倉 香

1年 前期又は後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

西洋美術史の代表的な諸作例を時代に沿って概観し、言葉によらない—主に視覚的な—表現としての美術がもつ意義の歴史的な変遷を辿ります。毎回スライド (Power Point, 時にビデオやDVD) の画像を使用して、時代や様式の特徴、美術表現の見方について学んでゆきます。個々の作例の特質を、主題や時代・地域的背景、デザイン、材料・技法その他の側面から立体的に捉えて解説し、また毎回の内容に関して各自考察して互いに見解を述べ合いながら、美術表現がもっている様々な力を探求します。美術館見学で授業に関連する作品を実際に鑑賞し、考察を述べ合う機会も設ける予定です。

## ■到達目標 (学修成果)

①西洋の美術史や美術表現に関する基礎的な知識の習得。②美術表現の見方を自分なりに理解し、③その知識と理解に基づいて、関心を抱いた美術表現を独自に鑑賞・考察し、さらなる発展へと繋げることができる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目の卒業要件単位、学芸員課程必修科目です。古今の美術表現や装飾の変遷とその時代背景等に関する造詣は、服飾に関しても本質的かつ重要な一要素として活かされるものです。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	【ガイダンス】講義の概要と文献、また美術表現の見方について、古今の美術表現を取り上げつつ説明する。	シラバスをよく読む。自分なりの効果的な受講法を考える。	30分
2回	【先史時代～中世】西洋美術の基盤となる古代エジプト、ギリシア、ローマの美術。中世における宗教的美術作品。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
3回	【ルネサンス、マニエリスム】15-16世紀、文化史の大きな転換点となるイタリア・ルネサンス、および他の地域の美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
4回	【バロック、ロココ】17-18世紀の西欧各地における美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
5回	【新古典主義、ロマン主義】18世紀末-19世紀前半における美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
6回	【リアリズム】19世紀中頃の、美醜を問わず現実の諸相を表現した写実的美術について。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
7回	【見学会】美術館を訪れて作品を鑑賞し知識、関心を深めた上で考察をまとめて発表 (日程、方法は変更の可能性もある)。	美術館のサイト等で下調べを行う。考察をまとめた見学レポートを作成。	120分
8回	【印象主義】19世紀後半の革命的絵画運動であった印象主義の美術。アカデミズムとの対立や人々の反応など。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
9回	【後期印象主義、新印象主義】19世紀末における、印象主義後の展開と影響。新しい個性の登場。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
10回	【象徴主義、アール・ヌーヴォー】19世紀末-20世紀初頭にかけての、精神性、装飾性などを特徴とする美術。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
11回	【フォービズム、エコール・ド・パリ】20世紀初頭の、自由な色彩に特徴をもつ美術を中心に。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
12回	【キュビズム】20世紀初頭における、形や構図に特徴をもつ美術を中心に。また、「抽象」について。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
13回	【ドイツ表現主義、ダダ、シュールレアリスム、戦後の美術】多様な内面表出、二度の大戦を経て現在までの諸相。	テキスト、プリントの該当箇所を読む。関心を持った作例についてさらに追求。	30分
14回	【まとめ】西洋美術の歴史を各回のテーマとともに振り返り、知識を確認し、各自の考察をまとめる。	テキスト、配布物の総復習。任意のテーマについて追求し考察をまとめる。	120分以上
15回	【フィードバック】知識と考察の総復習を行う。	批評により自らの理解を見直し、今後の応用について考える。	60分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

15回目に小レポートと小テストを返却予定。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

- ・以上は授業への十分な参加を前提とする。
- ・その他については授業時に指示する。

## ■教科書

千足伸行監修、『新西洋美術史』、西村書店。また、授業で随時参考プリントを配布します。

## ■参考文献

秋山總・田中正之監修、『西洋美術史』、美術出版社、2021。ほか、必要に応じて授業で紹介します。

## ■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日 (12時10分～12時50分) 第3校舎1階講師控室、または本校舎1階教務課

後期：水曜日 (14時15分～14時35分) 第3校舎1階講師控室、または本校舎1階教務課

## ■備考 毎回テキストを持参してください。

## 憲法 -法学入門-

東島 日出夫

1年 前期又は後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

## ■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などという、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。また、教員免許状取得を目指す方にとっては、教職課程必修科目です。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。

また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

## ■教科書 特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

- 参考文献
- ・芦部信喜『憲法（第8版）』（岩波書店、2023年）
  - ・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）
  - ・渋谷秀樹、赤坂正浩『憲法1人権（第8版）』（有斐閣、2022年）・『憲法2統治（第8版）』（有斐閣、2022年）

■オフィスアワー・研究室 連絡先：教務課（本校舎） 出講日：金曜日

■備考 なし

## 化学A－皮膚科学と化粧品科学－

野村 直

1年 前期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。

## ■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。卒業要件の選択科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30分
2回	<皮膚概論1>役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30分
3回	<皮膚概論2-1>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
4回	<皮膚概論2-2>皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪 の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30分
5回	<皮膚概論3-1>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
6回	<皮膚概論3-2>皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
7回	<皮膚概論4>皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライスキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<皮膚概論5-1>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
11回	<皮膚概論5-2>アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30分
12回	<皮膚概論6-1>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
13回	<皮膚概論6-2>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
14回	<皮膚概論6-3>化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、 化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物は コメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを2回提出するものとする。

## ■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

## ■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著 漆畑修改訂 南山堂、  
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、  
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、  
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株) ヘアケア研究所著、繊維社

## ■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

## ■備考

授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します。

# 化学B－皮膚と毛髪と化粧品科学－

野村 直

1年 後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな視点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

## ■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30分
2回	<皮膚総論①>皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30分
3回	<皮膚総論②>皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30分
4回	<毛髪概論①-1>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
5回	<毛髪概論①-2>毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30分
6回	<毛髪概論②-1>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
7回	<毛髪概論②-2>毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30分
8回	第1回～第7回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第1回～第7回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90分
9回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30分
10回	<毛髪概論③-1>ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30分
11回	<毛髪概論③-2>パーマメントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30分
12回	<毛髪概論③-3>ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30分
13回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第1回と第12回授業の内容を整理しておく。	30分
14回	「香りの世界」	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30分
15回	第1回～第14回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第2回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを2回提出するものとする。

■教科書 決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

## ■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂9版安田利顕著、漆畑修改訂 南山堂、  
「スキンケアの科学」服部道廣著 裳華房、「毛髪の科学」第4版C.R.ロビンズ著、山口真主訳 フレグランスジャーナル社、  
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、  
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

## ■オフィスアワー・研究室

金曜日（9時00分～12時30分）本校舎1階教務課

■備考 授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやDVDも使用します

# 体育 A—身体と健康—

水上 雅子

1年 前期又は後期 選択 教職課程必修 (1単位 演習)

## ■授業の方針・概要

私達は自由からだを動かすことができます。しかし、他者との同一の動きを行うことは不可能です。本学の体育は、身体活動の実践を通して、他者の身体活動を観察することによって自分の動きとの違いを理解し、自分自身の身体の動きを正確に知ることや、こころの有り様を知ることです。そして、他者との違いを、いかに自分の中に取り入れ融合させるかを学習する“からだの教育”です。コーディネーショントレーニングとチームスポーツから学習します。自ら進んで以下の内容に取り組んで下さい。

## ■到達目標（学修成果）

この“からだの教育”から生涯において健康で豊かな生活を維持できるよう身体活動を生活化し、環境状況に適応していける能力が培うことができます。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となり、教職課程必須科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 仲間づくり P.A.（コミュニケーションプログラム）	予習 シラバスを読んでくる。	10分
		復習 P.A.を体験して感じたことをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
2回	ニュースポーツ① ビーチボール、インディアカ、キンボール	予習 ニュースポーツの歴史やルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
3回	バレーボールとソフトバレーボール① ボールを利用した動きづくり	復習 自分のからだの動きについてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
4回	バレーボールとソフトバレーボール② ボールの扱いと移動パス（横・縦）ゲーム	復習 移動パスをして感じたことをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
5回	バレーボールとソフトバレーボール③ 基本的技術の確認と応用技術	復習 技術練習で感じたことをまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
6回	バレーボールとソフトバレーボール④ 正式なゲーム	予習 バレーボールのルールを調べる。基本運動を3日以上実践する。	30分
7回	ニュースポーツ② アルティメット（フリスビー）	予習 アルティメットについて調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
8回	バスケットボール① 基本的なボールの扱い	復習 基本的な動きを体験して感じたことをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
9回	バスケットボール② 基本的な動きと変形ルールでのゲーム	復習 チーム内のポジションと動きを確認する。基本運動を3日以上実践する。	30分
10回	バスケットボール③ 3×3	予習 3×3のルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
11回	バスケットボール④ 正式なゲーム	予習 バスケットボールのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
12回	ニュースポーツ③ タグラグビー	予習 タグラグビーについて調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
13回	フットサル① 基本的なボールの扱い	復習 フットサルのゲームの動画などを観てイメージをつかむ。基本運動を3日以上実践する。	30分
14回	フットサル② 正式なゲーム	予習 フットサルのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
15回	チームスポーツのまとめ クラス内または合同のスポーツ大会	復習 前期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用して授業内の個人の記録を毎回提出してもらいコメントを返す。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書 必要に応じて資料を配布する。

## ■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 「杉野服飾大学プログラム」（トレーニングプログラム）

## ■オフィスアワー・研究室

【時間】初回授業で伝える 【研究室】 体育研究室（研究棟2階 6024）

## ■備考 基本運動：毎回縄跳び（3分間）腹筋・背筋—体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化を目標に取り入れる。コーディネーショントレーニングの導入 課題1～7を身につける。状況に応じて内容が変化することあり。



体育B—身体と表現—

水上 雅子

1年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

スポーツも日常の生活も、全て身体活動です。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようです。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切です。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思うからです。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはありませんか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはありませんか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。個人種目とチームの課題で技術向上を目指し学習します。アダプテッドスポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習します。

■到達目標（学修成果）

授業では、スポーツを通して自己の表現を探し、自分らしさを発見することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となり、教職課程必須科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 からだを動かす—姿勢と自分の動き 一人、またはペア、グループでからだを動かす	予習 シラバスを読んでくる。	10分
		復習 自分の体の動きをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
2回	バドミントン① 基本技術の習得 ドライブ・サーブ	復習 シャトルとボールの違いをレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
3回	バドミントン② 基本技術の習得 ハイクリア ダブルスゲーム	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
4回	バドミントン③ 基本技術の習得 ドロップ・ヘアピン シングルスゲーム	復習 シングルスとダブルスのルールの確認。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
5回	バドミントン④ 応用技術の習得① 正式なルールでのゲーム（ダブルス）	予習 基本技術の確認 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
6回	バドミントン⑤ 応用技術の習得② 正式なルールでのゲーム（グループ）	復習 バドミントンについてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
7回	アダプテッドスポーツ① 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
8回	『動きの表現—写真』 グループで動きの感じられる作品づくり（課題）	予習 作品の構想を考えてくる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
9回	卓球① 基本技術の取得①シングル練習	予習 シングルのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
10回	卓球② 基本技術の習得②ダブルス練習	予習 ダブルスのルールを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30分
11回	卓球③ 応用技術の習得①正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 ルールと動きの確認をし、レポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30分
12回	卓球④ 応用技術の習得②正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習 卓球についてレポートにまとめる。基本運動を3日以上実践する。	30～60分
13回	アダプテッドスポーツ② 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
14回	アダプテッドスポーツ③ 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習 アダプテッドスポーツを調べる。 復習 基本運動を3日以上実践する。	30～60分
15回	正式ルールでゲームを行う。 各クラスで種目を選択し、実践する。	復習 後期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用し、授業内の個人の記録や課題を提出してもらい、コメント・評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて資料を配布する。

■参考文献 随時紹介 経験する種目のルール集 『はたらく細胞』（清水茜 講談社）

■オフィスアワー・研究室 初回授業で伝える 【研究室】 体育研究室（研究棟2階 6024）

■備考 状況に応じて内容が変化することあり。

基本運動：毎回縄跳び（ダブルタッチなど）・腹筋・背筋—体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化

# 日本文化・日本事情Ⅰ

伊藤 高広

1年 前期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。  
日本人とコミュニケーションをとるために必要な、日本の生活・習慣を紹介していきます。  
教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。  
日本語検定対策の一助とします。

## ■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。  
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。  
社会・文化の相互理解に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	日本の生活 災害から身を守る	資料を確認する（復習）web等を通じて資料を取得する。	30分
3回	日本の生活 衣食住① 服飾の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
4回	日本の生活 衣食住② 服飾の語彙	覚えた言葉を使ってクラスの日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
5回	日本の生活 衣食住③ 住居の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
6回	日本の生活 衣食住④ 住居の語彙	覚えた言葉を使って地域の日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
7回	日本の生活 衣食住⑤ 食物の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
8回	日本の生活 衣食住⑥ 食物の語彙	覚えた言葉を生活の場面で使う。（復習）	90分
9回	日本の文化 伝統文化① 和服	機会を設けて実物に触れてみる。（復習）	90分
10回	日本の文化 伝統文化② 芸能	機会を設けて実演を鑑賞する。または映像を鑑賞する。（復習）	90分
11回	日本の文化 伝統文化③ 文物	博物館等に行ってみる。（復習）	90分
12回	日本の文化 現代文化①	Webなどで情報を収集し整理する（復習）	90分
13回	日本の文化 現代文化②	イベントなどに積極的に参加する。（復習）	90分
14回	日本の文化 現代文化③	文化活動を通じて日本人と交流を深める。（復習）	120分
15回	まとめ	ひきつづき語彙力を高めるように勉強する。（復習）	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

回ごとに課題を添削します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

## ■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

## ■参考文献

必要に応じて指示する

## ■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する  
文章表現研究室（研究棟1階）

## ■備考 特になし

# 日本文化・日本事情Ⅱ

伊藤 高広

1年 後期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。  
日本文化・日本事情Ⅰにひきつづき、教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。  
時宜に応じた話題を選んで読んでいくので、授業内容は大体の目安です。

## ■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。  
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。  
2年次以降の授業に必要な、レポート・ポートフォリオの書き方を身につけます。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。  
社会・文化の相互理解に資する科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	新聞・雑誌を読む	イベント等を紹介する記事を読んでみる	60分
3回	新聞・雑誌を読む	服飾に関連する記事を読んでみる	60分
4回	実用文を読む	日常生活に関わる説明を読んでみる	60分
5回	実用文を読む	通信販売等に関する説明を読んでみる	60分
6回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
7回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
8回	新聞・雑誌を読む	ニュースを読んでみる	60分
9回	新聞・雑誌を読む	社説を読んでみる	60分
10回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ってみる	60分
11回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ったみる	60分
12回	レポート・ポートフォリオを作成する（日本文化を紹介する）	興味を持った分野の資料を収集する	60分
13回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し分類する	60分
14回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し考察を深める	60分
15回	まとめ	ひきつづき日本語力を高めるように勉強する。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ごとに課題を添削します

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

## ■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

## ■参考文献

必要に応じて指示する

## ■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

## ■備考 特になし

英語（総合）Ⅰ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をします。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するので、ビジネス英語の基礎も学ぶことができます。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらファッション・デザイナー、ココ・シャネルについても学び、グループディスカッションを通して内容の理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が習得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が習得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての英語（総合）Ⅰは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、授業の説明	【予習】 シラバスを読む。 【復習】 授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	【総合】 be 動詞。人を紹介する 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 1	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 1 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 人を紹介する表現の暗記。	30分
3回	【総合】 現在時制。仕事の説明。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 1	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 1 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。仕事を説明する表現の暗記。	30分
4回	【総合】 過去時制。苦情対応。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 2	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 2 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。苦情対応の表現の暗記。	30分
5回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 2	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 2 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。be 動詞、時制の復習。	30分
6回	【総合】 疑問詞。場所や時間をたずねる。 【リーディング】 復習	【予習】 小テストの準備。 【復習】 ワークシートの整理。場所や時間をたずねる表現の暗記。	30分
7回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 3	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 3 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。疑問詞の復習。	30分
8回	【総合】 助動詞。依頼する。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 3	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 3 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。依頼の表現暗記。	30分
9回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 4	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 4 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。助動詞復習。	30分
10回	【総合】 命令文。使用法説明。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 4	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 4 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。使用法の説明暗記。	30分
11回	【総合】 進行形。相談する・励ます。 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 5	【予習】 小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 5 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。相談、励ましの表現暗記。	30分
12回	【総合】 復習 【リーディング】 The Story of Chanel: Chapter 5	【予習】 The Story of Chanel: Chapter 5 に目を通し、単語を調べる。 【復習】 ワークシートの整理。命令文、進行形復習。	30分
13回	【総合】 未来形。電話対応。 【リーディング】 復習	【予習】 小テスト準備。 【復習】 ワークシートの整理。電話対応の表現暗記。	30分
14回	【総合】 復習 【リーディング】 復習	【予習】 まとめ課題の準備。	30分
15回	まとめ、課題のフィードバック	【復習】 課題まとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	ワークシート含む
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Teruhirko Kadoyama 他著 Let's Read Aloud & Learn English (SEIBIDO) 、ココ・シャネルの人生 プリント配布

■参考文献 必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟3階） 【オフィスアワー】第1回の授業で提示します。

■備考 特になし

英語（総合）Ⅱ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1年 後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

英語（総合）Ⅰ（前期）に引き続き、基本的な英語の語彙や文法を確認し、リーディングとリスニングの練習をします。オフィスを舞台にしたストーリー展開になっているテキストを使用するので、ビジネス英語の基礎も学ぶことができます。あわせて、読解演習として、ココ・シャネルの伝記を読み、英文に親しみながらデザイナー、ココ・シャネルについても学び、グループディスカッションを通し理解を深めます。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修することにより、次のことができます。音読や筆写といった着実な英語学習の方法が定着する。基本的な文法が確認できる。ビジネスに関する基本的な単語や表現が修得できる。ビジネスでの会話に使える平易な英語表現が修得できる。読解は、英文の構造を理解した上で、その文の意味をとることができる。パラグラフごとの要約ができるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての英語（総合）Ⅱは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、授業の説明	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	【総合】現在完了形。指示する／確認する。 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter	【予習】The Story of Chanel: Chapter 6に目を通し、単語を調べる。 【復習】指示、確認の表現を覚える。	30分
3回	【総合】復習 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 6	【予習】The Story of Chanel: Chapter 6に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。現在完了形復習。	30分
4回	【総合】受動態。場所を説明する／感謝する。 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 7	【予習】小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 7に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。場所の説明、感謝の表現暗記。	30分
5回	【総合】復習 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 7	【予習】The Story of Chanel: Chapter 7に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。受動態復習	30分
6回	【総合】比較。比較する／詳細を尋ねる。 【リーディング】復習	【予習】小テストの準備。 【復習】詳細を尋ねる表現暗記。	30分
7回	【総合】復習 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 8	【予習】The Story of Chanel: Chapter 8に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。比較復習。	30分
8回	【総合】助動詞。依頼する／希望を述べる。 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 8	【予習】The Story of Chanel: Chapter 6に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。依頼、希望の表現暗記。	30分
9回	【総合】復習 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 9	【予習】小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 9に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。助動詞復習。	30分
10回	【総合】動名詞。人を誘う／頻度を尋ねる。 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 9	【予習】The Story of Chanel: Chapter 9に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。人を誘う表現暗記。	30分
11回	【総合】復習 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 10	【予習】小テストの準備。The Story of Chanel: Chapter 10に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。動名詞復習。	30分
12回	【総合】to不定詞。経験・予定を尋ねる。 【リーディング】The Story of Chanel: Chapter 10	【予習】The Story of Chanel: Chapter 10に目を通し、単語を調べる。 【復習】ワークシートの整理。経験・予定の表現暗記。	30分
13回	【総合】接続詞。計画・理由を尋ねる。 【リーディング】復習	【予習】小テストの準備。 【復習】計画・理由を尋ねる表現暗記。	30分
14回	【総合】復習 【リーディング】復習	【予習】まとめ課題の準備。 【復習】接続詞復習。	30分
15回	まとめ、課題のフィードバック	【復習】課題まとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	ワークシート含む
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Teruhirko Kadoyama 他著 Let's Read Aloud & Learn English (SEIBIDO)

ココ・シャネルの人生 プリント配布

■参考文献 必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟3階） 【オフィスアワー】第1回の授業で提示します。

■備考 特になし

# 基礎英会話 I

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1年 前期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

日常生活の様々な場面で、基本的な英語を使ってコミュニケーションをする練習をします。特に、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を練習するとともに、ファッションに関する単語や表現を学習します。リスニング・スピーキングを中心に練習します。

## ■到達目標 (学修成果)

1. 日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる、2. ファッションに関する単語や表現を習得する、3. 英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる、の3点です。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (外国語) 必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての基礎英会話 I は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション、授業の説明、自己紹介	【予習】 シラバスを読む。 【復習】 授業のタスクについて流れを整理する。	30分
2回	MY NAME STORY 自分の名前についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の名前に関する単語・表現の復習。	30分
3回	DESCRIBING MYSELF 自分のパーソナリティについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 パーソナリティに関する単語・表現の復習。	30分
4回	MY FAVORITE FASHION ITEM ファッションアイテムや色についての会話	【予習】 テキストに目を通す。 【復習】 ファッションアイテムや色に関する単語・表現の復習。	30分
5回	DESCRIBING FASHION ITEMS 服の模様・素材についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服の模様・素材に関する単語・表現の復習。	30分
6回	DESCRIBING FASHION ITEMS 服の模様・素材についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服の模様・素材に関する単語・表現の復習。	30分
7回	MY FAVORITE FASHION TREND ファッショントレンドについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 ファッショントレンドに関する単語・表現の復習。	30分
8回	MY FAVORITE FASHION TREND ファッショントレンドについての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 ファッショントレンドに関する単語・表現の復習。	30分
9回	FASHION AS MY IDENTITY アイデンティティについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 アイデンティティに関する単語・表現の復習。	30分
10回	FASHION AS MY IDENTITY アイデンティティについての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 アイデンティティに関する単語・表現の復習。	30分
11回	THE IMPORTANT THINGS 自分の大切なものについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の大切なものに関する単語・表現の復習。	30分
12回	THE IMPORTANT THINGS 自分の大切なものについての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分の大切なものに関する単語・表現の復習。	30分
13回	WHAT I LEARNED FROM OTHERS 自分に影響を与えた人についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分に影響を与えた人に関する単語・表現の復習。	30分
14回	WHAT I LEARNED FROM OTHERS 自分に影響を与えた人についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分に影響を与えた人に関する単語・表現の復習。	30分
15回	まとめ、講評	【予習】 これまでの授業内容の復習をする。 【復習】 ディスカッションの振り返りをする。	30分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小テストや課題は次回の授業や学内システム経由で返却・解説します。スピーキングは、その都度、コメントをします。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	60%	小テスト、ワークシート、プレゼンテーション資料
期末試験・課題 (プレゼンテーション、ディスカッション)	10%	プレゼンテーション、ディスカッション
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

小塚暁絵、川守田恭枝、コリンズ・キム園子 (編) Forward Mode: English for Fashion Students

## ■参考文献

必要に応じて提示します。

## ■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室 (研究棟 3階) 【オフィスアワー】第1回の授業で提示します。

## ■備考

特になし

# 基礎英会話Ⅱ

北澤 茉奈・伊藤 怜子・小田 恭子

1年 後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

基礎英会話Ⅰに引き続き、ファッションに関係のあるシチュエーションでの会話を取り入れながら、日常生活の様々な場面での会話練習をしていきます。リスニング・スピーキングを中心に練習します。

## ■到達目標 (学修成果)

1. 日常生活の様々な場面で行なわれる英会話の定型表現を暗記し、自分の言葉として話せるようになる、2. ファッションに関する単語や表現を習得する、3. 英語でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる、の3点です。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (外国語) 必修であり、卒業認定に必要な科目です。教養科目としての基礎英会話Ⅱは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション、授業の説明	【予習】 シラバスを読む。 【復習】 授業のタスクについて流れを整理する。	30分
2回	MY FAVORITE PLACE お気に入りの場所についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 お気に入りの場所に関する単語・表現の復習。	30分
3回	TRANSPORTATION 交通手段・移動についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 交通手段・移動に関する単語・表現の復習。	30分
4回	MY PASSION 自分が情熱を注いでいることについての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 自分が情熱を注いでいることに関する単語・表現の復習。	30分
5回	FINDING MY INNER PEACE 感情をコントロールする方法についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 感情をコントロールする方法に関する単語・表現の復習。	30分
6回	FINDING MY INNER PEACE 感情をコントロールする方法についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 感情をコントロールする方法に関する単語・表現の復習。	30分
7回	MY FAVORITE LOCAL DISH 郷土料理についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 郷土料理に関する単語・表現の復習。	30分
8回	MY FAVORITE LOCAL DISH 郷土料理についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 郷土料理に関する単語・表現の復習。	30分
9回	MY FAVORITE POP CULTURE 文化についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 文化に関する単語・表現の復習。	30分
10回	MY FAVORITE POP CULTURE 文化についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 文化に関する単語・表現の復習。	30分
11回	MY PART-TIME JOB EXPERIENCES アルバイト経験についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 アルバイト経験に関する単語・表現の復習	30分
12回	JOB INTERVIEWS 仕事についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 仕事に関する単語・表現の復習	30分
13回	THE FASHION INDUSTRY 服飾業界についての会話	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服飾業界に関する単語・表現の復習	30分
14回	THE FASHION INDUSTRY 服飾業界についての会話 (続き)	【予習】 テキストに目を通し会話の内容を考える。 【復習】 服飾業界に関する単語・表現の復習	30分
15回	まとめ、講評	【予習】 これまでの授業内容の復習をする。 【復習】 ディスカッションの振り返りをする。	30分

## ■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小テストや課題は次回の授業や学内システム経由で返却・解説します。スピーキングは、その都度コメントをします。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	60%	小テスト、ワークシート、プレゼンテーション資料
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	10%	プレゼンテーション、ディスカッション
外部評価・検定試験結果	0%	

## ■教科書

小塚暁絵、川守田恭枝、コリンズ・キム園子 (編) Forward Mode: English for Fashion Students

## ■参考文献 必要に応じて提示します。

## ■オフィスアワー・研究室

【研究室】 英語研究室 (研究棟 3階)

【オフィスアワー】 第1回の授業で提示します。

## ■備考 特になし

# フランス語（総合）Ⅰ

福本 しのぶ

1年 前期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

ボンジュール！まずは挨拶から。テキストに沿って文法の基礎を学びながら、フランス語（会話）Ⅰを理解できるようになり、フランス語の楽しさを実感できます。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

## ■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、フランス旅行をする時に役立ち、使えるフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、フランス語サイトなど検索できるようになる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	予習：シラバスを読む	10分
2回	アルファベ・筆記体・発音の決まり・つづり字	講義メモ整理・発音練習	30分
3回	発音の決まり・つづり字	講義メモ整理・発音練習	30分
4回	私は誰？ あなたは何？ 動詞① 名詞（男・女）	講義メモ整理・発音練習	30分
5回	数字（0～20） 動詞② ものの形	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
6回	好き？ 嫌い？ 定冠詞 動詞③	講義メモ整理・発音練習	30分
7回	大好き！ 大嫌い！ 名詞・発音	講義メモ整理・発音練習	30分
8回	どこで？ 誰と？ 何を？ 不定冠詞	講義メモ整理・発音練習	30分
9回	だけど… 動詞④	講義メモ整理・発音練習	30分
10回	持っている 持っていない 大きい/小さい 動詞⑤	講義メモ整理・発音練習	30分
11回	いる？ いない？ 数字（20～100）	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
12回	わたしの… あなたの… 動詞⑤	講義メモ整理・発音練習	30分
13回	家族を紹介しよう！	講義メモ整理・発音練習	30分
14回	する？ しない？ 動詞⑥	講義メモ整理・発音練習	30分
15回	夏休みの過ごし方。 曜日 月 季節	自分のフランスへの興味をまとめる	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

## ■教科書

フランス語（会話）Ⅰと共用

「Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!)」 (白水社)

## ■参考文献

辞書が必要な方は「Le Dico 仏和辞典」(白水社)

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

## ■オフィスアワー・研究室

木曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

## ■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行う。



## フランス語（総合）Ⅱ

福本 しのぶ

1年 後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

Bonjour et merci! フランス人は挨拶が大好きです。フランス語（会話）Ⅱをより理解できるようにテキストに沿って文法の基礎を学びながら、フランス語を楽しみましょう。最後には簡単な文章を作成し、発表します。

## ■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、フランス旅行をする時に役立ち、使えるフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、フランス語サイトなど検索できるようになる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業認定に必要な科目です。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランス語（総合）Ⅰの簡単な復讐 発音の練習 ⑦	予習：これまでの授業を復讐	10分
2回	夏休みどう過ごした？ 過去を話す	講義メモ整理・発音練習	30分
3回	食べる 飲む 動詞 ⑦ 発音の練習 ⑧	講義メモ整理・発音練習	30分
4回	カフェ/レストランにて テーブルマナー	講義メモ整理・発音練習	30分
5回	どこに行く？ どこから来た？ 動詞 ⑧ 未来を話す	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
6回	メトロに乗ってみよう！ フランスの移動手段 発音の練習 ⑨	講義メモ整理・発音練習	30分
7回	やる？ 聞く？ 話す？ 読む？ 代名詞	講義メモ整理・発音練習	30分
8回	習慣いついてたずねる/答える 動詞 ⑨	講義メモ整理・発音練習	30分
9回	発音の練習 ⑩ フランス映画を見る ①	講義メモ整理・発音練習	30分
10回	動詞 ⑩ フランス映画を見る ②	これまでの授業での疑問点まとめ 講義メモ整理・発音練習	30分
11回	可能性について 動詞 ⑪	レポートの課題を探す 講義メモ整理・発音練習	30分
12回	大学図書館でフランス語の資料を探そう！	講義メモ整理・発音練習	30分
13回	この前なにをした？ 動詞 ⑫ 動詞の活用	講義メモ整理・発音練習	30分
14回	1日の行動を文章にしてみよう	講義メモ整理・発音練習	30分
15回	これまでの内容を使ってフランス語でレポート発表！	自分のフランスへの興味をまとめる	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

ノートの整理力、発音練習、積極性を重視

## ■教科書

フランス語（会話）Ⅰと共用

「Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!）」（白水社）

## ■参考文献

辞書が必要な方は「Le Dico 仏和辞典」（白水社）

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍やDVD

## ■オフィスアワー・研究室

木曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

## ■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。

希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。

## フランス語（会話）Ⅰ

福本 しのぶ

1年 前期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにします。自然にフランス語で挨拶を交わせるようにがんばりましょう。出席すればするほど力は確実に定着し、フランス語（会話）Ⅱがより理解できるようになります

## ■到達目標（学修成果）

数字や簡単な文を聞き取って正しく書くことができる。自分の作った文を読むことができる。6月中旬までに、実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することができる

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業要件科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	挨拶と自己紹介 会話、練習問題	CD 2 フランス語の音の種類を学習する。CD 4 発音記号の学習をする。CD 17, 18, 19, 20	30分
2回	文字を読み、発音を習得する。 会話、練習問題	p. 9-10 の単語の意味を調べる。 CD16 数詞 1~20 を覚える。	30分
3回	名詞の性と数、冠詞 会話、練習問題	p. 15 の単語の意味を調べる。 CD29 国名と国籍、身分・職業を学習する。	30分
4回	数字、主語人称代名詞、être の直説法現在 会話、練習問題	p. 14, 15 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。 24, 25, 26, 27 会話文に慣れ単語を学習する。	30分
5回	形容詞の性・数、[構文] 主語+動詞+属詞、否定形 会話、練習問題、小テスト	p. 17 練習問題 32 を解く。 CD98 数詞 20~60 を覚える。	30分
6回	国名、職業、自己紹介 会話、練習問題	p. 73 の単語の意味を調べる。 CD35 国名と国籍を復習する。 CD29 身分・職業を復習する。	30分
7回	指示表現、形容詞 会話、練習問題	練習問題 Copy の問題を解く。 p. 16 の単語の意味を調べる。 CD24 動詞直接法現在 (être) を学習する。 CD98 数詞 20~60 を復習する。	30分
8回	動詞 avoir の直説法現在 会話、練習問題	p. 77 練習問題 1, 2 の問題を解く。 CD79 動詞直接法現在 (avoir) を学習する。 CD24 否定形 (être) を学習する。	30分
9回	数字、être の直説法現在、avoir の直説法現在 会話、練習問題	p. 33 の単語の意味を調べる。 p. 31, 89 練習問題Bの問題を解く。CD77, 82, 85 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30分
10回	疑問文、疑問形容詞 会話、練習問題、小テスト	p. 77 練習問題 3 の問題を解く。CD37, 39 群規則動詞 (-er 型動詞) の学習をする。CD36, 42 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30分
11回	第一群規則動詞 (-er 型動詞) の活用 (直説法現在) 会話、練習問題	p. 19 の単語の意味を調べる。 p. 74 練習問題 1, 2 の問題を解く。	30分
12回	疑問文、疑問代名詞、疑問副詞 会話、練習問題	p. 74 練習問題 3 の問題を解く。 p. 33 練習問題 89 の問題を解く。	30分
13回	人称代名詞の強勢形 会話、練習問題	p. 17 練習問題 33 の問題を CD24, 16, 79, 98 を 再度聞き、しっかり覚える	30分
14回	学習効果のチェック、小テスト 会話、練習問題	Lesson1~5 を復習する。	30分
15回	チェック結果の反省と夏休みの学習法について 会話、練習問題	文法事項を復習する。 単語を暗記する。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストは返却、解説します。

## ■成績評価の方法・基準

学期末の総合評価だけでなく、出席を重視して日頃の取り組み姿勢を評価します。授業中は、まちがっても恥ずかしいと思わないで、たくさんフランス語を話すことを評価します。

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	会話テスト・筆記ミニテスト・まとめのテスト 無遅刻無欠席だった場合には、最終評価に加点します。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 すべてフランス語（総合）Ⅰと共用。  
・Dis-moi tout! (ぜんぶ話して!) (白水社)  
・ディコ仏和辞典(白水社)  
随時コピー配付

■参考文献 大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍

■オフィスアワー・研究室 連絡研究室：教務課（本校舎1階）出講日：月曜日（12：10～12：50）

■備考 私を見かけたら、「Bonjour, Monsieur Pech. Comment allez-vous ?」と声をかけてください。

毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行っています

## フランス語（会話）Ⅱ

福本 しのぶ

1年 後期 選択 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

聞き取り力をつけるとともに、文を作って発音する練習を重ね、自らすすんでフランス語を話せるようにします。自然にフランス語で挨拶を交わせるようにがんばりましょう。出席すればするほど力は確実に定着し、フランス語（会話）Ⅱがより理解できるようになります

## ■到達目標（学修成果）

数字や簡単な文を聞き取って正しく書くことができる。自分の作った文を読むことができる。11月中旬までに、実用フランス語検定試験5級に挑戦できるレベルの基礎文法を習得することができる

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（外国語）必修であり、卒業要件科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランス語(会話)Ⅰの復習 会話、練習問題	CD29, 35 国名と国籍を復習する。 CD98 数詞 61～100 を覚える。P. 72	30分
2回	aller, venir の活用（直説法現在） 会話、練習問題	p. 49 練習問題 149 の問題を解く。 p. 46, 47 の単語の意味を調べる。	30分
3回	前置詞(a, de)と定冠詞(le, la, les)の縮約形、前置詞と国名 会話、練習問題	p. 47 練習問題 105 を解く。CD133, 143 を聞き、会話文に慣れ単語を学習する。	30分
4回	服、色、家族ボキャブラリー 会話、練習問題	p. 37 練習問題 104 の問題を解く。 家族と親戚の単語を覚える。	30分
5回	指示形容詞、所有形容詞 会話、練習問題	p. 38 不規則動詞、部分冠詞を学習する。 CD145 曜日と12ヶ月を覚える。CD167, 178 数十年や時をつなげた発音を覚える。	30分
6回	週、月、日と年、季節 会話、練習問題	p. 42 の単語の意味を調べる。 p. 49 練習問題 1, 2 の問題を解く。	30分
7回	非人称表現、天候、時刻 会話、練習問題	p. 58, 59 の単語の意味を調べる。 CD179, 186 を聞き。	30分
8回	第二群規則動詞、命令法 会話、練習問題	CD188 を聞き、会話文に慣れ単語を学習 CD145 曜日と12ヶ月を復習する。 p. 79 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。	30分
9回	不規則動詞 会話、練習問題	p. 60 の単語の意味を調べる。p. 84 練習問題 2 の問題を解く。p. 29 練習問題 2 の問題を 解く。CD165, 166 を聞き、会話文に慣れ単 語を学習する。	30分
10回	直説法複合過去Ⅰ 会話、練習問題、小テスト	CD195, 196, 199 単語を学習する。 p. 85 練習問題 1, 2, 3 の問題を解く。	30分
11回	直説法半過去 会話、練習問題	練習問題を解き、単語を暗記する。	30分
12回	直説法複合過去Ⅱ（複合過去と半過去） 会話、練習問題	練習問題を解き、単語を暗記する。	30分
13回	フランスのクリスマスについて 会話、練習問題	Lesson 6～13 復習する。	30分
14回	学習効果のチェック、小テスト 会話、練習問題	Lesson 6～13 復習する。	30分
15回	チェック結果の反省と夏休みの学習法について 会話、練習問題	文法事項を復習する。 単語を暗記する。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストは返却、解説します。

## ■成績評価の方法・基準

学期末の総合評価だけでなく、出席を重視して日頃の取り組み姿勢を評価します。授業中は、まちがっても恥ずかしいと思わないで、たくさんフランス語を話すことを評価します。

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	会話テスト・筆記ミニテスト・まとめのテスト
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	無遅刻無欠席だった場合には、最終評価に加点します。

■教科書 すべてフランス語（総合）Ⅰと共用。  
・Dis-moi tout!（ぜんぶ話して!）（白水社）  
・デュコ仏和辞典（白水社）  
随時コピー配付

■参考文献 大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍

■オフィスアワー・研究室 連絡研究室：教務課（本校舎1階）出講日：月曜日（12：10～12：50）

■備考 私を見かけたら、「Bonjour, Monsieur Pech. Comment allez-vous?」と声をかけてください。

毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受験希望者対象に随時補習を行っています。

## 中国語（総合）Ⅰ

盧 繁華

1年 前期 選択 （2単位 講義）

## ■授業の方針・概要

中国語と日本語との構文上の大きな相違点を理解し構文の仕組みから学びはじめる。教材文や模範文を使って基礎文法文型を中心に勉強し読み書きを合わせて授業を進める。

## ■到達目標（学修成果）

常用語彙と文法文型を操って中国語構文の組み立てができるようにする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）Ⅰ】は卒業認定に必要な教養科目の1つである。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現力を身に付けるようにめざす。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語文の基礎Ⅰ	復習：中国語のスペリング練習Ⅰ	20分
2回	中国語文の基礎Ⅱ	復習：中国語のスペリング練習Ⅱ	20分
3回	文法的単位 1.形態素 2.単語	復習：中国語のスペリング練習Ⅲ	20分
4回	3.フレーズ 4.短文	復習：教科書の第1課、第2課の 所定練習問題	40分
5回	文の分類 1.表現機能による分類	予習：第1課、第2課の練習問題	20分
6回	平叙文、疑問文、命令文、感嘆文、	復習：教科書の第3課、第4課の 所定練習問題	40分
7回	2.構造による分類	予習：第3課、第4課の練習問題	20分
8回	主述文、非主述文、	復習：教科書の第5課、第6課の 所定練習問題	40分
9回	3.述語の性質による分類	予習：第5課、第6課の練習問題	20分
10回	動詞述語文、形容詞述語文、	復習：教科書の第7課、第8課の 所定練習問題	40分
11回	主述述語文、名詞述語文、	予習：第7課、第8課の練習問題	20分
12回	文の基礎構文Ⅰ	復習：教科書の第9課、第10課の 所定練習問題	40分
13回	文の基礎構文Ⅱ	予習：第9課、第10課の練習問題	20分
14回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	40分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内及び授業外で完成した平常テストの答案用紙を期末に返却して総合まとめを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

『中文課本基礎編』竹島金吾（金星堂）

## ■参考文献

学内図書館の『日中辞典』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

## ■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

## ■備考

なし

## 中国語（総合）Ⅱ

盧 繁華

1年 後期 選択 （2単位 講義）

## ■授業の方針・概要

総合Ⅱの前半は中国語の構文に必要な品詞、語彙と文法規則を学び、授業の後半は中国語の文章力を身につけるための中国語と日本語の双向翻訳のトレーニングを行って授業を進める。

## ■到達目標（学修成果）

文法文型をしっかりと学ぶことを通して中国語文の構成や翻訳ができるようにする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語（総合）Ⅱ】は【中国語（総合）Ⅰ】と併せて、卒業認定に必要な教養科目である。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現を出来るようにめざす。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	総合Ⅰの文法ウォーミングアップ	復習：既習の前期文型文法	60分
2回	品詞の分類	予習：教科書の第11課の文章部分 所定練習問題	40分
3回	品詞の働き	復習：第11課の読解練習問題	20分
4回	名詞、動詞、形容詞、数量詞の文法的機能	予習：教科書の第12課の文章部分 所定練習問題	40分
5回	副詞、助詞、介詞、接続詞の修飾的作用	復習：第12課の読解練習問題	20分
6回	常用フレーズ	予習：教科書の第13課の文章部分 所定練習問題	40分
7回	構文機能Ⅰ 1.主語、2.述語、3.目的語	復習：第13課の読解練習問題	20分
8回	4.定語、5.状語、6.補語	予習：教科書の第14課の文章部分 所定練習問題	40分
9回	構文機能Ⅱ 1.特殊な動詞述語文	復習：第14課の読解練習問題	20分
10回	2.是……的の文	予習：教科書の第15課の文章部分 所定練習問題	40分
11回	3.疑問文と反語文	復習：第15課の読解練習問題	20分
12回	4比較文	予習：教科書の第16課の文章部分 所定練習問題	40分
13回	複文の分類、その特徴	復習：第16課の読解練習問題	20分
14回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	40分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で提出した小テストを14回目の授業で返却して解説する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

## ■参考文献

学内図書館の『日中辞典』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

## ■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

## ■備考

なし

## 中国語（会話）Ⅰ

盧 繁華

1年前期 選択（2単位 講義）

## ■授業の方針・概要

中国語発音の特徴とローマ字表記規則から学びはじめ、会話に必要な語彙や規範的なフレーズや基礎語句を併せて学ぶ。授業は聞く、話す、書くなどの形式で進める。

## ■到達目標（学修成果）

正しい発音をマスターすることを到達目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語会話Ⅰ】は卒業認定に必要な教養科目の1つである。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現力を身に付けることをめざす。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語の音声しくみ	復習：母音・子音の発音練習	20分
2回	中国語アルファベットの認識	復習：複合母音の発音練習	20分
3回	表記方（スペリング）	復習：鼻母音の発音練習	20分
4回	人称代名詞、日常挨拶	復習：課本の第1課、第2課	所定の頁読み30分
5回	名詞述語文（Aは何だ）	予習：第1課、第2課の練習問題	20分
6回	肯定文・否定文・疑問文	復習：課本の第3課、第4課	所定の頁読み30分
7回	反復疑問文の文型特徴	予習：第3課、第4課の練習問題	20分
8回	数と年・月・日・時刻	復習：課本の第5課、第6課	所定の頁読み30分
9回	動詞述語文（主語Aはどうする）	予習：第5課、第6課の練習問題	20分
10回	形容詞述語文（主語Aはどうだ）	復習：課本の第7課、第8課	所定の頁読み30分
11回	存在を表わす文	予習：第7課、第8課の練習問題	20分
12回	場所や方向について言葉	復習：課本の第9課、第10課	所定の頁読み30分
13回	主述述語文（AのBは何だ、AはBがどうだ）	予習：第9課、第10課の練習問題	20分
14回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末に授業に返却して総合まとめを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

## ■参考文献

学内図書館の『日中辞書』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

## ■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

## ■備考

なし

## 中国語（会話）Ⅱ

盧 繁華

1年 後期 選択（2単位 講義）

## ■授業の方針・概要

常用語彙や句型などを増やしてリスニング・シャドーイングという練習方法で正しい発音を把握する。聞く力、会話力を身につけるために語彙とフレーズを暗誦するなどの方法で授業を進める。

## ■到達目標（学修成果）

中国語ができる限り聞き取れる、話せる能力を伸ばすことを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)Ⅱ】は【中国語(会話)Ⅰ】と併せて、卒業認定に必要な教養科目である。将来の社会に向かって語学を操り、様々な適応力を可能にすることを培い社会人が持つべき豊かな言語表現が出来ることをめざす。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	会話Ⅰの発音ウォーミングアップ	復習：母音子音の正確な発音	30分
2回	常用介詞の用法Ⅰ	復習：既習の会話	30分
3回	常用介詞の用法Ⅱ	予習：課本の第11課会話部分	20分
4回	動詞連用文Ⅰ	復習：第11課の聴解練習問題	所定の頁読み30分
5回	動詞連用文Ⅱ	予習：課本の第12課会話部分	20分
6回	動詞連用文Ⅲ	復習：第12課の聴解練習問題	所定の頁読み30分
7回	動作の時点や期間の言い回し	予習：課本の第13課会話部分	20分
8回	動作の回数と目的語	復習：第13課の聴解練習問題	所定の頁読み30分
9回	動作の完了形	予習：課本の第14課会話部分	20分
10回	動作の方向を示す	復習：第14課の聴解練習問題	所定の頁読み30分
11回	三大構造助詞の用法	予習：課本の第15課会話部分	20分
12回	二重目的語	復習：第15課の聴解練習問題	所定の頁読み30分
13回	比較文の表現	復習：所定の読み物	所定の頁読み30分
14回	総合まとめⅠ	復習：指定する練習問題	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業で返却して総合まとめを行う。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

『中文課本基礎編』 竹島金吾（金星堂）

## ■参考文献

学内図書館の『日中辞書』、週刊新聞『中文導報』、中国語書籍等を利用する。

## ■オフィスアワー・研究室

月曜日 14:30～16:00 研究棟 6036 室

## ■備考

なし

## 日本語Ⅰ

伊藤 高広

1年 前期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

## ■授業の方針・概要

大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅰでは聞く活動を中心にした授業を行うが、書く、読む、話すなどの活動も行い総合的な日本語能力の向上を目指す。

## ■到達目標（学修成果）

講義や研究発表などを聞く力を養成する。聞いたことをまとめ、要約が書けるようになる。資料を見て必要な情報が短時間で得られるようになる。内容について自分の経験や意見を述べるができるようになる。大学で学ぶための語彙を習得する。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス（自己紹介、授業内容の説明）	語彙レッスン1の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン1の解説、問題。	語彙レッスン2の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン2の解説、問題。語彙レッスン1まとめ。	語彙レッスン3の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン3の解説、問題。語彙レッスン2まとめ。	語彙レッスン4の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン4の解説、問題。語彙レッスン3まとめ。	語彙レッスン5の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン5の解説、問題。語彙レッスン4まとめ。	語彙レッスン6の漢字の読み、意味の確認	60分
7回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン6の解説、問題。語彙レッスン5まとめ。	語彙レッスン7の漢字の読み、意味の確認	60分
8回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン7の解説、問題。語彙レッスン6まとめ。	語彙レッスン8の漢字の読み、意味の確認	60分
9回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン8の解説、問題。語彙レッスン7まとめ。	語彙レッスン9の漢字の読み、意味の確認	60分
10回	定義を聞き取る。語彙レッスン9の解説、問題。語彙レッスン8まとめ。	語彙レッスン10の漢字の読み、意味の確認	60分
11回	接続表現から内容の展開を意識しながら聞き取る。語彙レッスン10の解説、問題。語彙レッスン9まとめ。	語彙レッスン11の漢字の読み、意味の確認	60分
12回	説明を聞き取る。語彙レッスン11の解説、問題。語彙レッスン10まとめ。	語彙レッスン12の漢字の読み、意味の確認	60分
13回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン12の解説、問題。語彙レッスン11まとめ。	語彙レッスン13の漢字の読み、意味の確認	60分
14回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン13の解説、問題。語彙レッスン12まとめ。	語彙レッスン14の漢字の読み、意味の確認	60分
15回	例と問題提起の部分とを区別して聞き取る。語彙レッスン14の解説、問題。語彙レッスン13まとめ。	語彙レッスン15の漢字の読み、意味の確認	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

必要に応じて配布します。

## ■参考文献

必要に応じて提示します。

## ■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

## ■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。



## 日本語Ⅱ

伊藤 高広

1年 後期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

## ■授業の方針・概要

日本語Ⅰに引き続き、大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅱではレポートや論文を書くために必要な文章表現の技術の向上を目指す。文章表現に必要な語彙力や文型、読解力の養成も合わせて行う。

## ■到達目標（学修成果）

話し言葉と書き言葉を使い分けることができる、レポートや論文に合う文体、文型、語彙を使って文章を書くことができる、文章の構成を考えて文章を書けるようになるなどレポートや論文を書くための日本語力を習得することができる。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	原稿用紙の使い方、表記のしかた 語彙レッスン15の解説、問題。語彙レッスン14まとめ。	語彙レッスン16の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	簡潔な文で質問に答える文章が書けるようにする。 語彙レッスン16の解説、問題。語彙レッスン15まとめ。	語彙レッスン17の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	読み取った情報を伝える文が書けるようにする。 語彙レッスン17の解説、問題。語彙レッスン16まとめ。	語彙レッスン18の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	状況を説明し、意見を述べる文章が書けるようにする。 語彙レッスン18の解説、問題。語彙レッスン17まとめ。	語彙レッスン19の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	段落のある文章が書けるようにする。 語彙レッスン19の解説、問題。語彙レッスン18まとめ。	語彙レッスン20の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	体験したことを報告する文が書けるようにする。 語彙レッスン20の解説、問題。語彙レッスン19まとめ。	語彙復習問題（レッスン1～5）	60分
7回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン20まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～10）	60分
8回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン1～5まとめ。	語彙復習問題（レッスン11～15）	60分
9回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン6～10まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～20）	60分
10回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン11～15まとめ。	文型練習問題	60分
11回	要約文が書けるようにする。 語彙レッスン16～20まとめ。	文型練習問題	60分
12回	要約文をかけるようにする。	文型練習問題	60分
13回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
14回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
15回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

必要に応じて配布します。

## ■参考文献

必要に応じて提示します。

## ■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

## ■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

## 教師論

柄越 祥子

1年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

受講者がこれまでに経験してきた、学校教育の中での教師像を確認し、更にそれを乗り越えた専門職としての教師像を再構築していただく授業です。公教育やそれに関わる教員の特徴を、歴史的な背景や問題と共に考察していきます。また、担当者の現場での職務経験も踏まえ、現代の学校や教師が直面している課題とも向き合います。新聞記事などを利用したグループワークやグループ発表も行っています。

## ■到達目標（学修成果）

現代社会の課題を踏まえて、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力、また職務内容などを理解すること。そして受講者自身の問題として教員という職業についての理解を深めることを目標とする。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 教師になるとはどのようなことか考える。	予習：シラバスを読んで要点をまとめる	15分
2回	公教育の目的	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートの準備をする。	30分
3回	公教育の担い手としての教師	復習：教科書の指定箇所をまとめ、法令上の教師の位置づけを復習する。	30分
4回	教職の職業的特徴を考える	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する	60分
5回	職業的教師の誕生	復習：教科書の指定箇所を読み、要点をまとめる。	30分
6回	近代学校における教師像の展開	予習：新聞の中から教育に関する記事を探し、レポートを作成する。	60分
7回	戦後社会の変遷と教師像	復習：これまでのレポートの中からテーマを選らび、更に深く調べてまとめる。	30分
8回	現代において求められる教師像	復習：調査・まとめを、グループ報告の形に整える。	30分
9回	教員養成制度と教職資格	復習：教科書の指定箇所を読み、教員養成制度について要点をまとめる。	30分
10回	教員研修の意義及び制度上の位置づけ	復習：教科書の指定箇所を読み、教員研修について要点をまとめる。	30分
11回	専門職としての教師・教師の職務	復習：グループ発表の準備	90分
12回	グループ報告・現代の教育ニュースについて（アクティブ・ラーニング）	復習：他のグループの発表のまとめ	30分
13回	グループ報告・新聞から見る教育現場（アクティブ・ラーニング）	復習：他のグループの発表のまとめ	30分
14回	学校の現代的課題－「チーム学校」という考え方	復習：教科書・これまでの配布資料・ノートなどの見直し	90分
15回	まとめ 課題（試験やレポート）のフィードバック	予習：課題の見直し	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目にグループワークや試験の解説、レポートの返却を行う。適宜 manaba も活用する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

沼野一男ほか著『教育の原理』、学文社

## ■参考文献

授業中に適宜指示します

## ■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎1階教務課

後期：金曜日・土曜日の授業の前後 授業実施教室

## ■備考 なし

# 教育心理学

手島 陽介

1年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導について学習する。

## ■到達目標（学修成果）

幼児、児童及び心身の発達過程及び特徴を理解し、発達を踏まえた学習の形態や概念、主体的な学習活動を支える指導について理解する。また、教師としての生徒とのかかわり方の基礎を体験的に学習し習得することが目標である。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、卒業要件科目ではなく、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	教育心理学と課題 ー教育の目的、教育心理学の領域についてー	予習：小中高時代の受けてきた教育について振り返る	15分
2回	発達と教育① ー各発達段階における概念、発達理論ー	復習：教科書を読み返し、子どもの発達と教育について考える	30分
3回	発達と教育② ー運動発達・言語発達・社会性の発達についてー	復習：エリクソンの発達段階説から、児童生徒の心理的葛藤について復習する	30分
4回	発達と教育③ ー各発達段階における指導についてー	復習：発達段階における指導について、プリントと教科書を復習する	30分
5回	特別支援教育と発達障害 ー特別支援教育の場、発達障害についてー	復習：プリントと教科書を読み、発達障害について特徴を振り返る	30分
6回	適応の心理と教育について① ーいじめの心理ー	復習：教科書とプリントからいじめの定義と現状について振り返る	30分
7回	適応の心理と教育について② ー不登校の心理ー	復習：教科書とプリントから不登校の定義と現状について振り返る	30分
8回	適応の心理と教育について③ ー自殺年慮者の心理ー	復習：教科書とプリントから自殺の定義と現状について振り返る	30分
9回	動機づけ ー動機づけの理論、学習性無力感と学業不振ー	予習：新聞やニュースより、教育心理に関わる内容を見つけてくる	60分
10回	動機づけ ー児童・生徒の意欲を高めるために、集団づくりー	復習：教育現場における内発的動機づけ、外発的動機づけの例を考える	30分
11回	学級の心理 ー日本と世界の学級、いじめ・自殺・ひきこもりの現状、集団の心理についてー	予習：自身の経験からどのような学級が望ましいかを考える	30分
12回	授業法 ー授業とは、授業にかかわる諸要因、さまざまな授業方法ー	復習：授業方法についての、教科書、プリントを読み復習する	30分
13回	教育評価の意義、教育評価の方法	復習：体験した内容を振り返り、プリント、教科書を読み返し復習する	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習：配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習：返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストの返却をし、教育心理学のまとめをする。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

松原達哉 『教育心理学』 丸善出版  
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

## ■参考文献

必要に応じて授業時に文献を紹介する。

## ■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室 後期：水曜日（12：00-15：00）研究室  
【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

## ■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

## 教育制度論

白井 勝美

1年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

1年生後期から教職課程の履修開始となります。本授業では、「教育」を「学ぶ立場」から、初めて「教える立場」に転換して学ぶ皆さんに、教育制度の仕組みと構造を総括的に講義します。また、教員養成に制度化されている介護等体験準備（評価含む）も本授業内で実施します。

## ■到達目標（学修成果）

①教育制度の関連法規である「日本国憲法23条・26条を代表とする教育関連条文」、「学校教育法1条校を代表とする学校教育法内の教育関連条文」、「教育基本法の55のキーワード」「その他制度に関する重要事項」を習得できる。②日本の教育制度の基本構造を知る。③授業を通して、日本の「学校教育」の現状について知る。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ①授業計画 ②本学教職課程の概要 ③小レポートの作成 ディスカッション	復習 各自の学校教育経験を振り返りレポートを提出する。	30分
2回	学校教育を考える① ・前回小レポートの内容紹介を通して、「学校教育」を考える。★教職課程履修申告の締切り	復習 授業資料を振り返り、学校教育の経験値の違いを知る。	30分
3回	学校教育を考える② ・教育制度の概要と制度に関わる法規1（憲法・基本法他含む）近年の教育政策の動向を知る。	復習 授業資料を振り返り、「教育」のイメージ図を整理する。	30分
4回	4年生「教育実習報告会」聴講	復習 「報告会資料」を読み返す。	30分
5回	我が国の学校制度の特徴を知る。Active Learning ディスカッション	復習 各種学校数の確認 日本国憲法23条と26条の内容を理解し暗記する。	30分
6回	公教育制度を構成する教育関係法規を知る。Active Learning ディスカッション	復習 学校教育法1条校を理解する。日本国憲法23条と26条を暗記する。	30分
7回	1条校、各種学校、専修学校、大学校等を通して教育行政の仕組みを知る。	復習 日本における学校制度の内容を確認する。資料内のタームを暗記する。	30分
8回	公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。Active Learning ディスカッション	復習 これまでの復習と教育基本法3条までの重要ワードを暗記する。	30分
9回	教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法10条までの重要ワードを暗記する。	30分
10回	①学校経営の仕組みを理解する。②学校内外の関係者・関係機関との連携・協働を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法18条までの重要ワードを暗記する。	30分
11回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解する。	復習 これまでの復習と教育基本法全文中の重要ワードを暗記する。	30分
12回	地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。	復習 授業資料を振り返り、「生きる力」の内容を再度理解する。	30分
13回	事故及び災害の実情を踏まえて、危機管理や事故対応など学校安全の必要性を理解する。	復習 授業資料を振り返り、内容を再度確認する。	30分
14回	介護等体験オリエンテーション 我が国の学校における安全管理・安全教育の両面から具体的な取組みを理解する。	復習 授業資料を振り返り、介護等体験の意義と今後の体験方法を理解する。	30分
15回	前期授業のまとめ	復習 試験に備えて復習する。	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験内容についてポイントを解説する。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	30%
定期試験	40%

- ① 定期試験 ② 小レポート（教職ポートフォリオカルテを含む）
- ③ 授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。
- ④ その他追加については授業時に指示する。

## ■教科書

授業資料プリントを作成する。

## ■参考文献

授業時に適宜指示する。

## ■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日（11時00分～14時00分）教務課 後期 水曜日（11時00分～14時00分）教務課

研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

## ■備考

履修便覧の「教職課程について」を必ず読んでおいてください。1年生後期の教職課程3科目の単位修得が2年生以降の教職課程継続条件となります。出席を重視します。誠実に学修してください。

## 生涯学習概論

柄越 祥子

1年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

学芸員という専門職を目指すにあたり、「生涯学習」について、学習者の学びを援助、促進するという視点から教育的に考えていく授業です。その上で、生涯学習の現場に繋がっていくような、政策理念や制度の知識にも触れていきます。授業ではフィールドワークやグループディスカッションなども取り入れていきます。また、毎回授業の終わりに質問表の提出をしていただきます。

## ■到達目標（学修成果）

生涯学習論の基礎的な知識を学び、学芸員として勤務する上での素地となる生涯学習理論を習得することを到達目標とします。

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。国家資格「学芸員」を取得するための学芸員課程の必修科目です。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・生涯学習とは何か（定義）	予習：シラバスを読んで要点をまとめる。	30分
2回	生涯学習の現代的意義	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の現代的意義の確認をする。	30分
3回	発達理論と生涯学習	復習：発達理論の確認をする。	30分
4回	生涯学習の学習内容①	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の内容について確認する。	30分
5回	生涯学習の学習内容②	復習：生涯学習の学びとはなにか、まとめる。	45分
6回	生涯学習の形態・方法	復習：生涯学習の方法について確認する。	30分
7回	生涯学習の社会的位相	復習：教科書の指摘した箇所を読んで、「解放」の生涯学習について確認する。	30分
8回	施設による生涯学習支援①	復習：社会教育施設について確認し、フィールドワークの準備をする。	30分
9回	公共施設での生涯学習支援の実際（フィールドワーク）①	予習：施設について資料を確認し、見学ポイントの整理をする。	30分
10回	公共施設での生涯学習支援の実際（フィールドワーク）②	復習：フィールドワークレポート【1】の作成	60分
11回	施設による生涯学習支援②	復習：教科書の指摘した箇所を読み、生涯学習の施設のまとめを行う。	30分
12回	行政による生涯学習の振興	課題：フィールドワークレポート【2】の作成。	60分
13回	民間による生涯学習支援	課題：フィールドワークレポート【2】の作成。	60分
14回	授業の振り返りとレポート課題のフィードバック	復習：これまでの授業内容を整理する。	60分
15回	まとめ 小テストのフィードバック	復習：小テストの見直し。	30分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目レポート課題のフィードバックや返却、15回目に試験の解説を行います。適宜 manaba も活用します。

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

## ■教科書

香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習・改訂版』ミネルヴァ書房

## ■参考文献

適宜授業内で指示します。

## ■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先 本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後 授業実施教室

## ■備考

なし

## 博物館概論

丸山 憲子

1年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

## ■授業の方針・概要

学芸員課程最初の講義です。博物館について、学芸員について、博物館学について概説する。歴史的、社会的な面から「博物館」を理解し、現代博物館の必要性、存在意義を、今日的課題を踏まえて理解、考察する。また、博物館における各機能、及び学芸員業務等を博物館学観点から学習していく。

## ■到達目標（学修成果）

- ・「博物館」の今日的課題と博物館学の理論・方法論、博物館史等の理解と習得
- ・学芸員としての基本的知識の習得
- ・「博物館」をめぐる問題意識の向上

## ■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

## ■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（現代社会における博物館の概要・学芸員課程の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館法等日本における博物館に関する法制について学習する。	予習：博物館法を読んでおくこと。 復習：関係法規を整理しておくこと。	60分
3回	博物館法による登録博物館等の分類はじめ、様々な現代博物館の分類について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句を整理しておくこと。	30分
4回	博物館学について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
5回	博物館学芸員をめぐる法制及び職務について学習する。 博物館法についてのまとめ（小テスト）	復習：教科書の読み返し。	30分
6回	博物館における「資料」について学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。」	30分
7回	博物館における機能について博物館学的観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	30分
8回	博物館の歴史を世界的観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	30分
9回	日本における博物館の歴史を学習する。	復習：配布資料の読み返し。語句を整理しておくこと。	60分
10回	日本における博物館学史を学習する。 博物館史・博物館学史のまとめ（小テスト）	復習：教科書、配布資料の読み返し、 棚橋源太郎について復習しておくこと。	60分
11回	博物館経営について学習する。	復習：教科書の読み返し	60分
12回	博物館設立の流れや経緯について学習する。	予習：博物館1館を選び、その歴史をまとめておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	90分
13回	現代博物館をめぐる社会的問題について学習する。	復習：配布資料の読み返し。社会的問題をまとめておくこと。	30分
14回	現代博物館の課題と今後の展望について考察する。	復習：配布資料の読み返し。全体の振り返り	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

## ■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験後の解説

## ■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

## ■参考文献

随時 紹介する。課題内容に即した資料プリントを配布します。

## ■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。